

隨行セル洋行帰リノ少壯連カ國際法ナドヲ盾ニ取り常ニ畢ヲ掣肘シ居ルコトモ与リテ力アリ

今日迄恰克圖會議ニ於テ論議セラレタルハ帝号廃止問題及蒙古年号廃止問題ナルカ其経過左ノ如シ

(一)外蒙側ニテハ活仏ヲ「博克多汗」(蒙古語ニテ君主ノ意味合ヲ有スル由)ト称スルコトヲ主張シ居ルモ支那側ニテハ右ハ君主ノ意味合アルニ嫌タラス之ヲ緩和スル為「博克多哲布尊丹巴呼土克圖汗」トナスコトヲ主張シ未タ解決セサルモ外蒙側ニテ多分支那側ノ主張ヲ容ルヘニ至ルヘシ

(二)支那側ニテハ外蒙古カ「共戴」ナル年号ヲ用ユルコトニ絶對ニ反對シ支那年号ヲ採用セシメント努メ外蒙側ハ容

易ニ之ニ同意スル模様ナキモ結局支那年号ト蒙古年号トヲ併用スルコトニ折合フニ至ルヘシ

右ハ何レモ枝葉ノ問題ナルヲ以テ支那側ニテ他日重要事項ニ付外蒙側ニ對シ讓歩スルニ於テ外蒙側ニテハ以上二点ニ付必スシモ自說ヲ固執セサルヘシ云々

以上ハ今日迄當館ニ於テ探知シ得タル所ニ有之ヲ要スルニ恰克圖會議ハ是迄帝号及年号問題ノ如キ枝葉ノ点ニ付論議ヲ重ネ境域問題其他ノ重要事項ニ関シテハ未タ毫モ開議スルニ至ラサルモノ、如ク從テ今後ノ模様ニ付テハ殆ト何等ノ見据ヲモ付兼ヌル狀況ニ有之候右不取敢及報告候也

事項一九「メキシコ」革命動乱關係一件

五三一 一月二十九日 在米國珍田大使ヨリ
牧野外務大臣宛(電報)

在墨日本公使力不當ニ多大ナル同情ヲ「ウェルタ」政府ニ寄せ居ル旨國務長官ヨリ指摘ノ件

第三二号

一月二十九日國務長官ト会見ノ際同長官ニ向ヒ昨今新聞紙上ニ墨西哥ニ於ケル日本ノ活動ト題シテ盛シニ論議シ居ルモ帝國政府ハ歐洲諸國政府ガ墨國ニ於テ執リ居ルト同様ナル居留民保護手段ヲ執リ居ル外何等特別ニ活動シタル事実有之ラス武器輸入一件ノ如キハ私設会社ガ墨西哥内乱以前ノ契約ニ基ケル商売上ノ取引ニ外ナラス又出雲艦長墨西哥市訪問ノ如キモ他國艦長ノ訪問ト同様ノ事柄ニシテ何等別段ノ意味アル次第ニ非スト述ヘタルニ同長官ハ真面目ノ態度ニテ本使ニ向ヒ國務省ニ到達シタル一般ノ報告ニ基クニ在墨公使ノ態度ハ公正ノ程度ヲ超エタル多大ノ同情ヲ「ウ

エルタ」政府ニ寄せ居ル事実アリ之レ誤解ヲ招ク原因ナリト語ラレタルモ敢テ具体的事実ヲ指摘セス本使ハ之ニ對シ本使ノ承知シ居ル限り安達公使宛本省訓令及同公使ノ本省及當方ニ送リタル報告ニ依ルニ右様ノ事実ハ決シテ有り得ヘカラスト信スルノミナラス墨西哥側ハ如何ニモシテ日墨ノ親交深密ナル有様ヲ外部ニ表彰セント努メ居ル折柄ナレハ我公使ニ關スル批評ノ如キモ恐ラクハ其辺ノ方面ヨリ來レル無根ナル反映タルヘシト弁解シタルモ本使ノ弁解ハ同長官ノ疑念ヲ解クコト能ハサリシモノノ如シ

五三二 一月三十一日 在米國珍田大使ヨリ
牧野外務大臣宛(電報)

米國政府ガ墨西哥、加州土地法、仲裁裁判、亜細亞人排斥移民法案等ノ諸問題ニ関シ新聞

ニ与ヘタル説明報告ノ件

第三二号

一月二十六日大統領ガ上院外交委員一同ヲ「ホワイト、ハ

ウス」ニ招集シテ外交ニ関スル内協議ヲ為シタル以来当国新聞紙上ニ喧伝サレタル臆測虚構ノ外交記事竝放埒極マル外交評論ニ対シ一月二十九日大統領及政府筋ニ於テ正誤ノ勞ヲ執リタリト伝フ左ニ項ヲ分テ右ニ関スル新聞紙所報ヲ摘録スヘシ

(一) 目下懸案中ノ外交諸問題中墨西哥問題ハ何時如何ニ変転スルヤモ計ラレザルヲ以テ同問題ハ永続的危機ノ性質ヲ有スルモノト解釈シ得ヘキモ現下ノ外交諸案件中危機切迫ノモノ一モナシ

(二) 内協議ノ節話題ハ墨日英露諸国トノ問題ヨリ仲裁条約等ニ亘リタレトモ墨西哥問題ニ関聯シテ之ヲ語リタル訳ニ非ス一切ノ外交案件ヲ開示シテ外交委員一同ノ攻究判断ノ資料ニ供シ置キタルノミ

(三) 墨国ニ対スル確定方針ハ監視的觀望政策ヲ依然繼續スルニ存ス墨国ヘノ武器輸出解禁ノ利害得失ハ目下尚攻究中ニ属シ未タ決定ヲ見ルニ至ラス日本政府ガ「ウェルタ」政府ニ武器ヲ供給ストノ記事ハ昔話ノ燒直シニシテ「ガスリ」氏ヨリノ報告ニ依ルニ右ハ私設会社ガ久シキ以前ニ結ビタル契約ヲ履行シタルニ外ナラス米国政府ハ国際法規ニ

照ラスモ日本ノ私設会社ガ武器ヲ墨国政府ニ売渡スコトヲ差止ムルノ権利ヲ有セス又「エムバーゴ」ヲ解除スルノ得失ヲ講スルハ墨国ニ於ケル日本ノ活動云々ニ対抗セントスル趣意ニ非サルナリ

(四) 加州問題ニ関スル日本ノ第三回抗議ニ回答セサルハ同問題ニ対スル米国政府ノ態度ハ前二回ノ回答書中ニ尽シ居ルヲ以テナリ米国政府ノ関スル限り加州土地法問題ハ最早終結シタリ大統領ハ合衆国又ハ各州ニ於テ加州法ノ如キ法律ノ将来再発スルヲ予防スル所ノ或ル外交上ノ約束ヲ締結セントスル日本政府ノ希望ニ副ハンコトヲ努メツ、アリ但シ本件ハ未タ何等確定的ノ形体ヲ為スニ至ラス

(五) 大統領ハ十六個ノ仲裁条約ヲ更新セントスル熱心ナル希望ヲ有シ又巴奈馬運河法ノ決定ハ「ヘー、ポーンスフォート」条約ノ明文ニ違反スルモノト信スルモ之ヲ如何ニ解決スヘキカニ対シテハ外交委員ニ向ヒ何等開示シタル所アラス

(六) 亜細亞人労働者入国拒絶ヲ目的トセル「レーカー」案ニ関シ一月二十二日開会セル下院移民委員会ニ向ヒ國務省参事官ハ移民案ト各国条約トノ關係ヲ指摘セル書面ヲ送り

テ其注意ヲ促シタルガ國務長官モ「ムーア」氏ノ右書翰ヲ承認シ日本ハ現存ノ条約ニ依リ其移民ノ渡来ヲ嚴重ニ自制シ居ルノミナラス加州問題ニ対スル日本民心ノ激昂未タ衰ヘサル折柄「レーカー」案ノ進行ニ務ムルカ如キハ甚タ宜シカラストノ意見ヲ表明シテ反省ヲ求ムル所アリテ前記二十二日ノ委員会ハ延期トナリ一月二十九日ノ同委員会モ何等決定ヲ見ルニ至ラサリシガ太平洋岸ノ議員中ニハ「ブライアン」氏ハ日本ノ脅喝ニ屈從セリト攻撃シ亜細亞人排斥ノ目的ヲ貫徹セサレハ已マスト主張スルモノアリ

五三三 二月六日 牧野外務大臣ヨリ
在墨国安達公使宛(電報)

墨国現下ノ紛糾セル時局ニ処スベキ態度ニ付

訓示ノ件

第二二号

帝国ハ墨国ニ対シ政治上ノ利害關係ヲ有スルコト極メテ薄ク目今同国ノ事局ニ関シテ帝国政府ノ顧念スル処ハ専ラ在留本邦人ノ生命財産ヲ保護スルガ為メ適當ナル措置ヲ講スルニ在ルコト屢次申進シタル通ナリ從テ帝国政府ノ貴官ニ期待スル処ハ極ハメテ冷靜ニ時局ノ轉變ヲ觀察シ之ニ公正

ノ判断ヲ加ヘ一方ニ於テ確實ナル事実ト正鵠ヲ得タル意見トヲ政府ニ報告セラル、ト同時ニ他方ニ於テハ事ニ当テノ措置着実ニシテ機宜ヲ失セラレザルニ在リ現下墨国ニ於ケル紛糾シタル時局ニ鑑ミ上記ノ期待ニ副ハンコト素ヨリ容易ノ業ニアラズ又貴官ノ辛勞ト励精トハ深ク本大臣ノ諒トスル処ナルモ貴官ノ言動ハ其関スル処極メテ重大ナルモノアル義ニツキ尚此上トモ着実冷靜事ニ当ラレンコト希望ニ堪ヘズ御参考迄ニ珍田大使來電第三二号同大使ヲシテ転電セシム

五三四 二月六日 牧野外務大臣ヨリ
在英国井上大使宛(電報)

在本邦英国大使ヨリ日本政府ハ近來對墨態度

ヲ多少改メタルカト問訊シノ件

第一六号

二月五日英国大使本大臣ニ面会ノ上英国政府ノ入手セル報告ニ徴スルニ近來帝国政府ハ墨国ニ対シ從來ノ態度ヲ多少改メタルニアラズヤト忽ハルル節アルニ付其辺ノ消息ヲ確カムヘキ旨本國政府ノ訓令ニ接シタリト申出テ右ハ「サー、エドワード、グレー」ヨリ井上大使ニモ談話シタルコトア

ル趣ナル処帝國政府態度変更ノ一例トシテ同大使ノ申添ヘタル処ニ拠レハ英國政府ハ墨国ニ派遣シタル軍艦艦長ノ上陸ハ之ヲ禁シアリ他国モ同様ナルヘシト思ハルルニ拘ラス日本政府ニ於テハ過般出雲艦長ヲシテ多数ノ士官ヲ率キテ墨都ニ赴カシメ異常ノ歡迎ヲ受ケシメタル如キハ日本ガ「ウェルタ」政府ニ対シテ好意ヲ有スル事ヲ「デモンストレート」スルモノナルガ如クニ見受ケラレタリトノコトナリ仍テ本大臣ハ出雲艦長ノ行動ハ公使ト協議シ然ルヘク定メテ差支ナキ旨海軍大臣ヨリ訓令シアリ之ニ基キ上陸ノ上墨都ニ赴キタル次第ナル処其ノ後異常ノ歡迎ヲ受ケタル由報告ニ接シタルニ付実ハ予メ之ヲ差止メ置ケハ好カリシト後トニテ思ヒシ位ノ次第ニテ決シテ同大使談話ノ如キ意味アル訳ニハ無之旨篤ト説明シ帝國政府ノ墨国ニ対スル從來ノ態度ハ毫モ之ヲ改メタルモノニアラサル旨返答シ置キタリ右御参考マテ電報ス

本電珍田大使ニ転電シ同大使ヨリ更ニ安達公使ニ転電セシメラレタシ

五三五 二月八日 在墨安達公使ヨリ
牧野外務大臣宛(電報)

ヘキ事柄ニ無之要スルニ在米大使ノ極メテ適切ニ弁解シタルカ如ク墨西哥国側ニテ日墨ノ親交ヲ外部ニ表彰セント努メ居ルヲ見テ猜疑ノ眼ヲ以テ誤解ノ觀察ニ基ケル報道ヲ為シタルニ外ナラスト察セラル尤モ貴電第二二号ヲ以テ御訓示ノ趣ハ今後モ本使ニ於テ服膺シテ微力ノ及フ限り御期待ニ副ハンコトヲ期ス

二月七日米國代理大使來訪ノ際米國ニ於ケル日墨關係ノ評判ヲ尋ネタルニ出雲米艦艦長入京及武器売込ノ所見ニ関シ同代理大使ハ本使ノ談話杯ニヨリ屢々本省ニ報告シ置ケルニ付当局者ニ於テハ何等誤解アルヘキ筈ナケレトモ一般新聞紙ハ日本國ハ墨西哥ニ於テ米國ニ対シ陰謀シツアリト云フカ如キ調子ニテ評判ス米國目下ノ難題ハ対伊対英及対日ノ三件ニシテ第一ハ輕ク第二ハ巴奈馬運河通過料ノ問題ニシテ米國大統領ハ此ノ事ニ付テハ全ク英國ニ讓歩シ以テ英國ノ墨西哥問題ニ関スル讓歩ヲ得ントスルモノノ如クナルモ此事ニ関スル米國ノ讓歩ハ必ス強盛ノ米國ノ輿論ヲ惹起スヘク事件頗フル重大ナルカ尤モ困難ナルハ第三問題ナリ米國大統領ハ何トカシテ至難ナル此ノ問題ヲ落着セシメント焦慮シツアル此ノ際ナレハ前記ノ如キ評判ハ米國大

米國國務長官ノ在墨日本公使非難ニ付弁明及
米國新聞ノ所謂日本ノ墨国ニ於ケル対米陰謀
ニ関スル在墨米國代理大使ノ所見ニ付報告ノ
件

第六一号

在米大使ノ貴大使宛電報第三二号中国務長官ノ本官ノ態度ニ関スル批評ニ付テハ本使ハ其ノ何等ノ事実ヲ指摘セサルヲ遺憾トス本使ハ屢次御訓示ノ旨ヲ奉シ且ツ昨年二月当館ニ於テ前大統領ノ家族ヲ庇護スルノ已ムヲ得サルニ至リタル前轍ニ鑒ミ当政府ニ対シテハ公正ノ態度ヲ取ルコトニ努メ例ヘハ英仏独等ノ先例ニ依リ上京シタル出雲艦長一行ノ当國政府ヨリ各所見物ニ案内セラレタル際モ公務上ノ都合モアリタル旁々大抵ハ同行セサリシカ如キ特ニ面談ヲ要スル公務アルニアラサレハ大統領及内閣大臣ニ会见シタルコトナキカ如キ又本使妻モ未タ大統領夫人ニ面会セサルカ如キハ本使ノ常ニ過度ナル程言動ヲ慎ミ何等誤解ヲ招カサル様注意セル次第第二有之只過般大統領夫人接見会ニ於テ本使カ大統領ノ需メニ依リ別室ニ於テ雜談シタルコトアルモノ之レトテ他ノ同僚モ往々為ス所ニシテ決シテ他ノ批評ヲ受ク

統領ノ行動ヲ多少躊躇セシメスヤト懸念スル旨ヲ述ヘタルニ付本使ハ全然同感ノ意ヲ表シ本使苦衷ノ在ル所ヲモ告ケ此ノ上トモ新聞通信ノ矛盾シタル誤謬報道ニ関シ常ニ訂正ノ手段ヲ執ラレタシト依頼セリ

五三六 二月八日 在墨國安達公使ヨリ
牧野外務大臣宛(電報)

英國ガ我對墨態度模索ノ真意ニ関スル件

第六二号

在英大使宛貴電第一六号ニ関シ思当ルコトアリ一月二十三
日英國公使來訪時局ニ関シ意見ヲ交換シタシトテ米國カ墨
國問題ニ深入リセサルハ日本ノ態度ニ顧念スルニ起因スル
ヲ悟リタレハ日本ノ發言ハ墨國問題ノ解決ニ最モ重キ關係
アル旨ヲ熱心ニ話シ出タレハ本使ハ予テ御訓示ノ趣意ニ遵
ヒ輕ク受ケ流シ墨國附近ニ殖民地ヲ有シ且十億以上ノ資本
ヲ入レ居ル英仏兩國ヲ初メトシテ後進ナカラ右兩國ヲ凌駕
セントスル独逸國モ拱手傍觀スル今日政事上ノ關係甚タ渺
ク經濟上ノ關係モ遺憾ナカラ未タ差シタルコトモナク在留
民保護ニ余念ナキ日本カ卒先シテ發言スルカ如キ本使ノ夢
想タモスル能ハサル所ニシテ又假令近キ將來ニ於テ米國カ

當國ヲ勝手ニスルニ至ルヘシトスルモ歐洲人既得ノ權利ハ十分尊重スヘキカ故ニ左迄心配ヲ要セサルヤニ思考セラルト述ヘタルニ英國公使ハソハ米國人ノ性質ヲ知ラサル誤見ナリ同公使ノ經驗ニ依レハ當國ニシテ一旦米國人ノ桎梏ニ服シタランニハ諸外國人既得ノ權利ハ一切蹂躪セラルルニ至ルコト明白ナルニ歐洲諸國政府モ實業家モ之ヲ知ラサルハ慨嘆ノ至リナリト述ヘタルコトアリシカ當時本使ハ例ノ歐洲諸公使ノ本使ニ対スル煽動手段ト思ヒ御報告モ致ササリキ然ル処在本邦英國大使ノ貴大臣ニナシタル談話ニ出雲艦長ノ出京ヲ以テ例外ノ如ク陳述シタルモ屢次ノ御報告ノ通り英國司令長官仏独艦長ノ上京及接遇方法ハ我先例トナリタルモノニ有之不日西國艦長モ入京スヘク又出電艦長接遇「プログラム」モ別段出色ノ点ナク其停車場送迎ノ寂寞ナルハ寧ロ本邦人ヲシテ奇異ノ感ヲ起サシメタル程ニ有之同艦長退京ノ後本使英國公使ニ面会ノ節前記接遇ニ関シ其所感ヲ叩キタルニ極メテ discreet ナリシト答ヘタル次第ナリ察スルニ英國ノ當國ニ関スル利害關係極メテ多ク何トカシテ米國ノ「ドミネーション」ヲ防止シタキモ内治ノ困難歐洲外交ノ危機加奈陀防備問題等アリテ墨國問題ニ関シ單

独ニテ発言スルコトヲ躊躇スルノ余リ先ヅ日本國ヲシテ発言セシメントシ種々我ニ探リヲ入ルルモノト察セラル

五三七 二月十六日

在墨國安達公使ヨリ
牧野外務大臣宛(電報)

北墨在留邦人失業者ヲ「カレキシコ」方面ニ

移動ノ為米國內通過方ニ関スル件

第六六号

別電馬場書記生ノ報告ニ依リ「カレキシコ」方面ノ墨國側ニ於テ日本労働者就職ノ望十分ナリト認メラル、ニ就テハ「ジュカレス」及「チワワ」ニ於ケル無職業者百五十名ニ必要ノ旅費ヲ貸与シテ之ニ移住セシムル外他ニ根本的救済法ナシト存セラル、処愈々移住セシムルニハ米國鐵道ニ依リ米國內ヲ通過セサルヘカラス又移住ノ後米國ニ潛入スルヲ防クニ付テハ馬場報告ノ次第モアレトモ元來該方面ノ地形其他ノ關係ヨリ潛入ノコト比較的容易ナリトノ事情モアル由ニ付本件ニ関スル帝國政府ノ立場ヲ明ニシ置クノ必要アルカ為此際在米大使ヘ御訓令ノ上本件ハ已ムヲ得サルニ出テタル特殊ノ事情ヲ述ヘテ米國政府ノ同情ニ訴ヘ以テ右移住者ノ米國內通過ノ特許ヲ得同時ニ同政府ニ於テ必要ト

認ムルニ於テハ移住者ノ潛入ヲ防クヘキ適當ナル措置ヲ執ルコトヲ得ラル、様致シタシ尤モ是等ノ手續ヲナシ並ニ貸与スヘキ旅費及當面ノ救助費米貨四千五百弗御送金相成ニハ多少ノ時日ヲ要スヘキニ付馬場書記生ハ「カレキシコ」ヨリ一旦「シカゴ」ニ歸任セシメ追テ上記ノ諸準備整ヒタル上再ヒ「ジュアレス」及「チワワ」ニ出張セシメテ移住ノコトヲ処理セシムルコトト致シタク右折返シ何分之義御電訓アリタシ

本電在米大使済ミ

註 安達公使發外務大臣宛別電第六五号(二月十六日發)ヲ省略ス

五三八 二月十八日

在墨國安達公使ヨリ
牧野外務大臣宛

墨國北部叛徒ノ日本人排斥ノ風説ニ関スル件

公第二四号

(四月二日接受)

大正三年二月十八日

在墨

特命全權公使法学博士 安達峯一郎(印)

外務大臣男爵 牧野 伸顯殿

本月十一日当地刊行ノ「エル、パイス」紙上ニハ墨國北部叛徒ノ首領「カランサ」將軍ノ發シタリト稱スル日本人及支那人ノ移住禁止命令ヲ掲載致居候ニ付内務大臣代理ニ其實否如何ヲ問合セ候処未タ何等公報ニ接セサル旨回答有之又大統領秘書官「ラバゴ」氏ハ是レ米國人カ為メニスル所アリテ捏造シタルモノナラント申居候越エテ本月十六日ノ「エル、イムパーシヤル」紙上ニハ北部ノ叛將「ヴェキーヤ」將軍ガ日本人ヲ outlaw ト宣言シタル旨ノ報道アリ又同日米國代理大使ガ各革命黨代表者ノ重ナル者ヨリ得タル報道ナリトテ北方叛徒中下層ノ者共米國ニ媚ヒテ其声援ヲ得ヘシト誤想シ日本人ヲ虐待セントスル考ヲ抱ケトモ右ノ布告ヲ發シタリトノ風説ハ全然無根ナル旨ヲ本使ニ密告シタル次第ハ同日附往電第六七号ニテ御承知ノ通りニ有之候以上ノ事情ヲ綜合シテ之ヲ考フルニ昨臘本邦ニ於ケル「デ、ラ、バラ」氏ノ優遇、過日当市ニ於ケル森山出雲艦長一行ノ款待並ニ三井物産会社ノ武器売込等ノ事實ヨリ日本人ハ特ニ「ウェルタ」政府ヲ支持セルモノト誤解シテ北方ノ叛徒若クハ之ニ同情セル米國人中ニ一ノ反抗運動トシテ斯ル捏造説ヲ流布シ以テ日本人將來ノ行動ヲ牽制セント欲スル

一九 「メキシコ」革命動乱關係一件 五三九 五四〇

モノノ如ク察セラレ候為御参考別紙新聞切抜相添此段及報告候

註 別紙新聞切抜省略ス

敬具

五三九 二月二十五日

牧野外務大臣ヨリ
在米國珍田大使宛(電報)

墨国「ジュアレス」「チワワ」ノ邦人失業者

百五十名ヲ米国内通過「カレキシコ」方面墨

国側へ移動セシメタキニ付米国政府ノ同意取

付交渉方訓令ノ件

第七一号

安達公使來電第六六号ニ関シ

失業者百五十名鉄道ニテ米国通過「カレキシコ」移住ノ事
救護上必要ト考ヘラル、ニ付(将来同様ノコトヲ繰返サ、
ルコト、シテ)貴官ニ於テ御異存ナクバ右米国通過ニ関シ
同国政府ノ同意ヲ得ル様御交渉ノ上何分電報アレ尤モ輸送
中及移住後米国潜入ノ恐ニツイテ帝國政府ニ於テ十分注意
ヲ加フベキモ責任ヲ取ルコトハ事実ニ於テ困難ト思考セラ
ル、ニ付此点御含置アリタシ

本電及貴官回電安達へ転電ト同時ニ馬場ハ暫ク其儘タルへ

八〇六

キ旨ヲ附加へ此旨阿部へモ通報アレ

五四〇 二月二十五日

在墨国安達公使ヨリ
牧野外務大臣宛

墨国ニ於ケル日本将来ノ施設経営ニ関シ意見

具申ノ件

機密第八号

(四月二日接受)

大正三年二月二十五日

在墨国

特命全權公使法学博士 安達峯一郎(印)

外務大臣男爵 牧野 伸顯殿

墨国北部分立ノ形勢ニ関シテハ是迄二回即昨年十一月二十
五日附機密第十九号及ビ本年一月二十一日附機密第三号拙
信ヲ以テ委細具申ニ及ビ置候処爾來本使ガ同問題ヲ中心ト
セル形勢ノ推移ニ就キ不怠觀測セル処ニ依レバ該分立ノ大
勢ハ偶然ノ出来事ニ依ル外交ノ形勢ニシテ變化ナキ限り最
早ヤ確定不動ノモノト相成居ル様被存候是レ當ニ当地英仏
独三国公使其他ノ本使ニ語ル処ニ依リテノミ而ク斷ズルニ
アラズ實ニ墨国政治家本使ニ語ル所ニヨリテモ彼等スラ今
ヤ分立ヲ以テ數ノ免レザルモノト看做シオル次第ニ御座候

二月二十三日米國當地新聞電報ニ依レバ墨國憲政軍ノ在
華盛頓代表者 Roberto Pesqueira ハ同日米國大統領ヲ訪
問セルガ其会谈ノ目的ハ北部分立成立ノ希望ヲ達スルニ存
スナドトノ事モ有之候尤モ偶然ノ出来事例フレバ墨国内乱
ノ結果歐洲人ノ殺害セラル、モノ相次ギ歐洲ノ輿論ガ拳リ
テ反米思想ヲ謳歌シ歐洲諸強ノ政府ガ之ニ動カサル、カ又
ハ何等カノ原因ニ依リ歐洲協調成立シ殊ニ英独兩國間ノ北
海ニ於ケル制海權ノ競争其必要ナキニ至リ歐洲諸強ガ米墨
問題ニ發言ヲナスニ至ル程ノ變化ヲ生ズルカ若クハ帝國政
府ニ於テ進シデ發言セラル、ガ如キコト、モ相成ラザルニ
限リ北部分立ノ大勢ハ其成行上不可避ノ勢ト思考セラレ候
承ハル処ニ依レバ帝國政府ニ於テハ当今加州問題ニ関シ米
國政府ト御談判中ノ趣ノ処該交渉ハ米國大統領及其政府及
ビ珍田大使ノ熱誠ナル尽力ニ依リ兩國政府間ニ協約ノ成立
ヲ見ルニ至ルベキハ疑ナキ次第ニ有之候得共同協約ガ果シ
テ米國上院三分ノ二ノ多數ヲ以テ承認ヲ得ルニ至ルベキヤ

米國南方諸州ニハ千三百万ノ黒奴排斥ノ精神アリ西方諸州
ニハ東洋人排斥ノ意向アリ日米間ノ問題ニハ西南兩部諸州
議員ノ一致ヲ來シ政府反對党ト相合シテ其通過ヲ妨ケザル

一九 「メキシコ」革命動乱關係一件 五四〇

八〇七

ヤ假令ヒ上院ノ難関ヲ無事ニ通過シタリトスルモ該協約ノ
精神ヲ關係各州ニ実行セシムルコトハ難中ノ難事ニ属セズ
ヤ是レ本使ノ懸念ニ不堪所ニ有之候而シテ更ニ又例ヘ現時
ノ懸案タル土地所有權問題ガ最後迄円満ナル解決ヲ見ルト
スルモ日米通商条約第一条ノ保障セル本邦人ノ米國入国移
住ノ問題ガ将来永ク日米兩國間至難ノ問題トナラズトノ保
証ヲナスハ今日何人モ敢テシ得ザル処ナルベク被存候依是
觀之日米間ノ問題ニ付帝國ノ希望ノ全部ハ到底之ヲ貫徹シ
得ズト見ルヲ以テ妥當トナスベキガ如何ク果シテ然ランニハ
帝國ノ對墨政策又ハ方針ナルモノモ之ヲ定ムルニ當リテハ
先ヅ前記墨國北部分立ノ大勢ト共ニコノ日米問題ノ將來ノ
見込ヲモ考量ノ裡ニ入レザルベカラザル次第ト被存候

(當地ノ同僚中華盛頓ヨリ得タル報道ナリトシテ本使ニ
語ル処ニヨレバ米國政府ハ帝國ガ墨國ニ於テ多少歐洲諸
國ト同ジク幾分独立的ノ態度ヲ採リツ、アリト認メタル
後加州問題ノ談判ニ於テ全然態度ヲ一變シテ讓歩ヲナサ
ントノ決意ヲナセル趣ニ有之候近來ノ時局ニ関シ彼等ノ
眼ニハ如何ニ映ジラルカヲ推スルニ足ルベクトモ存ジ候
ママ茲ニ附記致候)

翻テ熟ラ歐洲先進諸強ノ墨国ニ於ケル経営施設ノ跡ヲ觀ルニ皆多年ノ歲月ト努力トノ基礎ノ上ニ築キ上ゲラレタルモノノミニシテ之ヲ僅ニ數年前漸ク奴隸ニ等シキ労働者ヲ移住セシメタル帝国ニ比スレバ一般ノ投資モ年々ノ貿易額モ各種利権ノ扶植モ到底日ヲ同ウシテ語ルベカラザルノ状態ニ有之西半球方面ノ海外發展ニ付テハ後進国タル帝国トシテハ此等歐洲先進諸強ノ已ニ実行セルコトヲ今日ニ至リテ実行スルノ外無之次第ニテ今後帝国ノ墨国ニ於ケル施設經營ハ例ヘバ植民モ利権扶植モ皆此等先進国ノ先例ヲ追フテ而モ彼等ヨリモ数層謹慎ニ且ツ数層 direct ニ之ヲ行フコトヲ要スルハ今日迄ノ事例ニ徴スルモ最モ穩當ニシテ策ノ得タルモノト被思考候サレバ殖民ノ計画ノ如キモ往年故小村侯ノ外相時代帝国政府ニ於テハ米国政府ニ対シ米國隣接国ニ日本人若クハ日本移民ヲ入レズトノ協約アリトノ説モ有之当館書類ニハ之ニ関スル記録明カナラザルモ若シ有之トセバ之ニ抵触セザル範圍内タルハ申ス迄モ無之候而シテ一方ニ於テ今ヤ墨国ニ於ケル親日又ハ対日同情ノ思想ハ少ナクモ表面ニ於テハ益々勃興シ来レルノ機運ニ際会致居リ候ヘバ帝国政府トシテハ此一大事實ニ対シ全然没交渉ノ

ケル親日又ハ対日同情ノ思想勃興ノ時代コソ最モ機宜ヲ得タル絶好ノ時期ニハアラズヤト思考被致候唯此準備ヲナスニ当リテモ前記墨国北部分立ノ大勢ニハ深ク之ヲ鑑ムルノ必要有之候ヘ共分立ハ北部五州ノ運命ナルモノ、如ク南部諸州ガ北部ノ如ク米国ノ附庸国タルニ甘ンズルニ至ルハ猶更ニ後日ノコトタルベキヲ以テ帝国ノ利権ハ南部ニ止メ置カバ徒ラニ他日國際紛糾ノ種子ヲ播クモノナリトノ嘲ヲ免ル、ヲ得ベキコト、被存候

之ヲ要スルニ今更申上グル迄モ無之次第ニハ候ハンモ帝国及歐洲諸国ニトリテハ墨国ハ実ニ中南米大陸ノ関門タルノ地位ヲ占ムルモノニ有之帝国及歐洲諸強ガ茲ニ利権ヲ扶植シ若クハ已ニ扶植セル利権ヲ維持スルハ墨国以南ノ大陸ニ対スル前衛ヲナスモノニシテ帝国ノ如キ徒ラニ袖手シテ空シク好機ノ逸スルニ放任センカ加奈太及北米合衆国以外ノ南北大陸ニ於テ商業及工業上ノ地歩ヲ抛棄スルノ結果ト相成リ後日瞻躋ノ悔ヲノコスベキハ実ニ自明ノ理ニ有之候墨國問題ノ解決ニ焦心セル当地歐洲諸強ノ代表者中殊ニ英仏公使ノ如キ英仏ノ実業家中ニテモ如上自明ノ理ヲ了解セザルモノ多キヲ憂ヘ英國公使 Carden 卿ガ昨夕一時帰朝ノ途

觀察ヲナスハ決シテ當ヲ得タル次第ニ無之ハ本使ノ今更メテ言ヲ俟タザル処ニ有之候サレバ前記帝国ノ施設經營ト共ニ現政府並ビニ其勢力範圍内ニアル人民ノ同情ハ勿論叛軍首領並ビニ其勢力範圍内ニアル人民ノ同情ヲモ最善ノ力ヲ尽シ成ルベク永ク維持スルニ努メオカザルベカラザルハ自然ノ結論ニ候蓋シ彼ノ武器ノ売込モ殖民及利権扶植ノ計画モ而シテ又其他帝国ノ墨国ニ於ケル一般ノ施設措置モ皆此ノ親日思想ナルモノニ其根拠ヲ据エ置カザルベカラザルコトハ何人モ首肯スル処ニ御座候但シ墨国ニ於ル親日思想ナルモノ、性質由来ハ是迄モ屢次電報又ハ書信ヲ以テ貴聞ニ達シ置キ候通り最大部分ハ反米感情ヨリ起因シ輕信ニシテ冷熱常ナラザル「ラテン・アメリカ」人ノ特性之ヲ助長スルニ過ギザルモノニシテ毫モ深キ根底アルニ非ザル思想ニ有之所謂対日ノ同情ヲ永久ニ維持スルガ如キハ甚ダ至難ノ事ニ属スト云ハザルベカラザル次第ニ候（昨年十二月二十二日附機密政第二十一号号篇ト御参照ヲ乞フ）是レ帝国政府ニ於テ御考慮ヲ煩ハシ度一点ニシテ前記ノ如ク日米問題ノ根本的解決前途ノ見込甚ダ乏シキ次第モ有之将来帝国ガ墨国ニ施設經營ヲナスノ準備ヲ行フニハ今ノ如ク墨国ニ於

ニ上リタルモ其主タル目的ハ本国政府ニ此關係ヲ説明スルニ在リ又三月上旬帰朝ノ途ニ就クベキ仏国公使 Letaigne 氏モ同様ノ目的ヲ有スル趣ニ有之候

本使世界辺陲ノ僻地ニ在リ意見ヲ上下スベキ交友スラ乏シキノ身ヲ以テ任ヲ完ウシテ帝国政府ノ御期待ニ副ハンコトニ是レ努ムルニ汲々トシテ日夜焦慮罷在、其冥想スル処素ヨリ誤謬ナキヲ保シ難シト雖モ墨国北部分立ノ大勢ト日米交渉ノ前途根本的解決ノ望乏シキノ次第トニ鑑ミ墨国ニ於ケル帝国将来ノ施設經營ニ関シ聊カ本使ノ管見ヲ記シテ閣下ノ劉覽ニ供シ候間前記具陳ノ次第篇ト御高慮ヲ煩ハン度奉懇願候 敬具

五四一 二月二十六日

在桑港沼野總領事代理ヨリ
牧野外務大臣宛（電報）

墨国北部邦人ノ消息及叛軍「カランサ」ノ邦

人入国禁止ニ関スル件

第五五号

埴原ヨリ

伊藤ノ報告ニ依レハ Coahuila Sonora 州在留日本人ハ今日迄一般ニ無事 Carranza ノ日本人入国禁止ハ事實ニシ

テ日本国カ「ウェルタ」政府ニ同情ヲ有スルカ如ク猜疑シタル一種ノ「デモンストレーション」ニ過キサルカ如キモ兩州ノ在留日本人ハ有事ノ際ハ米國領事ノ有効ナル保護ヲ受ケ得ル様至急手続アランコトヲ望ミ居レリ Coahuila 州在留日本人中百名近ク官軍ニ数名叛軍ニ兵士タルハ事実ナルモ Villa ノ日本人ヲ Outlaw ニセントスル命令ノ存在ハ不確ナリ尚右兩州在留日本人宛通信ハ所在米國領事ヲ煩ハシ転送ノ途ヲ開ク事安全且便宜ナルヘシ
安達ヘ済

五四二 二月二十六日 在米國珍田大使ヨリ
牧野外務大臣宛(電報)

墨国「ジュアレス」「チワワ」ノ邦人失業者

米国内通過移動ニ米國政府同意ノ件

第七〇号

貴電第七一号ニ関シ左ノ通在墨公使ヘ電報セリ

第四〇号

当方宛大臣來電第七一号「ジュアレズ」及「チワワ」ノ失業本邦人米國通過ノ件ニ対シテ米國政府ハ故障ヲ有セス其ノ通過ヲ許可スル様早速移民官ニ訓令スヘキ旨ヲ約シタリ

行ニ付テハ尚今後別電ノ通ノ事情モ有之其ノ他色々馬場書記生ノ尽力ヲ要スル次第ニ付急速事務ヲ整理セシメ直チニ同書記生ヲシテ再ヒ「エルパソ」ヘ出張セシムル様予メ御電訓相成リ置カレタシ市俄古領事ヨリ当方ヘノ來電ニ依レハ事務整理ハ長引カサル見込ノ由ナリ從テ抽電第六六号末段米貨四千五百弗ハ同書記生宛直接御送金相成ル様致シタリ

本電珍田、市俄古済

五四四 三月四日 在米國珍田大使ヨリ
牧野外務大臣宛(電報)

墨国邦人失業者ノ移住スベキ地方ハ墨国官軍

ノ勢力範圍内ノ由ノ件

第七六号

安達公使ヘ第四一号

往電第四〇号ニ関シ二月二十八日「エルパソ」發國務長官宛在「ジュアレス」米國領事來電ノ文句ニ顧ルニ「カレキシコ」ハ官軍ノ勢力範圍ニ属シ居ルヲ以テ「ジュアレス」及「チワワ」ヨリ移住セントスル本邦失業者カ同地ニ於テ入國許可セラルヘキヤ否ヤハ官軍ノ權内ニ在リテ叛徒官憲

然ルニ目下叛軍ノ勢力範圍ニ属スル地方ニテ亜細亞人ノ入國拒絶ヲ始メタル旨新聞電報アルヲ以テ失業本邦人カ果シテ「カレキシコ」ニ入ル事ヲ得ルヤ否ヤヲ確メ報告スヘキ様在「ジュアレズ」米國領事ニ訓電方是又當國政府ニ依頼シ置キタリ報告入手次第更ニ電報スヘキモ貴方ニ於テモ「カレキシコ」移住ヲ実行セシムル前其ノ辺十分御注意相成ル方可然ト思考ス尚移民總監ヨリ移民官ニ訓令ノ都合モアルニ付移住ノ日時及移民人員可成速カニ御電報アリタシ

五四三 三月三日 在墨國安達公使ヨリ
牧野外務大臣宛(電報)

墨国「ジュアレス」「チワワ」ノ邦人失業者

米国内通過移住ニ付馬場書記生「エルパソ」

ヘ出張方及移住者ニ貸与スベキ旅費ヲ同書記

生宛送金方稟請ノ件

第七八号

失業者百五十名移住ニ関シ米国内通過ハ米國政府ニ於テ故障ナキ趣ナレハ此ノ時機ヲ逸セス実行致シタキ処市俄古領事ヨリ貴大臣宛第一三号ノ通事務整理ノ必要ノタメ馬場書記生ハ三月二日「エルパソ」發帰任ノ筈ナルモ該移住ノ実

ノ関知セサル所ナルカ如シ就テハ貴方ヨリ「ウェルタ」政府ニ御照会ノ上右ノ点ヲ確メラルル外ナシト思考ス尚一旦「カレキシコ」移住後他日再ヒ叛徒ノ勢力範圍ニ戻リ來ルコトニ就テハ叛徒官憲ハ官軍ノ勢力範圍ヨリノ來住ヲ拒絶スヘキ旨命令ヲ受ケ居ル趣ニ付為念申添ユ

五四五 三月五日 在シカゴ阿部領事ヨリ
牧野外務大臣宛(電報)

在墨邦人失業者ノ移動ハ關係地方日本人会ヲ

シテ斡旋セシムル方可ナル旨意見稟申ノ件

第一四号

馬場書記生三月四日帰任シタリ其語ル所ヨリ考フルニ「ジュアレス」及「チワワ」困難民ヲ他ニ移住セシムル件ハ反軍ノ地方ヨリ官軍ノ地方ニ移スコトナリ且近時帝國政府ハ「ウェルタ」政府ニ同情シ居ル旨ノ風説アル際ナレハ帝國政府ノ事業トシテ其指揮監督ノ下ニ之ヲ実行スルコト面白カラス加之カ為反軍ノ反感ヲ買ヒ邦人引揚ノ際妨害ヲ受ケ若クハ引揚後同地ニ残留スル本邦人ニ対シ危害ヲ加ヘル等ノコトナキヲ保シ難シ去レハ右実行方法トシテハ帝國政府ノ関知セサル形式ヲ採ル為馬場ノ出張ヲ中止シ同地日

本人会へ直接ニ必要ノ救助費ヲ下附シ其事業トシテ之ヲナサシムル方可ナリト信ス右御参考迄
在米大使在墨公使へ電報シタリ

五四六 三月六日 在墨国安達公使ヨリ
牧野外務大臣宛(電報)

墨国「ジュアレス」地方邦人失業者ノ移動ニ

付関係者ト打合ノ状況電報ノ件

第八〇号

「エルパソ」土屋及住谷^{スミヤ}ヨリ左ノ通り
「チワワ」移住希望者全部出発用意整ヘリトノ報知アリ近日「チワワ」「ジュアレズ」間ノ交通機関杜絶ノ恐アレハ一同ハ夫レ以前ニ出発ヲ急キ居レリ移住希望者当地ニ来ル様通知シテ宜敷キヤ御返電ヲ請フ
依テ同人等ヘハ左ノ通り回答シ置キタリ
御電報ノ趣ハ馬場書記生ニ転電シ同官ヲシテ先ツ「カレキシコ」方面ノ耕主ノ方ヲ今一応電報ニテ確カメタル上何等故障ナキニ於テハ同官ヨリ直接貴方ヘ通知スルコトニ取計ヒ置キタルニ付キ「チワワ」移住希望者貴地迄引上ケノコトハ右通知アル迄御見合相成リタシ 以上

就テハ往電第七八号ノ送金方至急御取計相成リタシ尚「カレキシコ」方面へ移住ノ件外務大臣ニ話シタル処同大臣ハ同方面ハ勿論其他官軍ノ勢力範囲内ニ於テハ喜ンテ日本人ヲ迎フヘキ旨本使ニ明言セリ

五四七 三月九日 在墨国安達公使ヨリ
牧野外務大臣宛

日墨関係ニ関連セル米国側ノ觀察ニ関シ報告

ノ件

機第一〇号

大正三年三月九日

在墨

特命全權公使法学博士 安達峯一郎(印)

外務大臣男爵 牧野 伸顯殿

日墨兩國間近來ノ出来事ニ関シ之ヲ米墨及日米ノ関係ニ結ビ付ケタル疑心暗鬼ヨリ生スル種々虚構ノ臆説米国内ニ喧伝セラレタルハ已ニ御承知ノ御事ト被存候処之ニ就キ本使ガ当国外務省方面ニ於テ偶然聞キ込ミタル事例有之日墨関係ニ関連セル米国側ノ觀察ノ一斑ヲ推スルニ足ルト被存候マ、左ニ大要ヲ叙シテ御参考ニ供シ候

前記事例ノ第一ハ去ル二月十八日墨国内閣小更迭ノ際「ハリスコ」州知事「ロペス、ポルテヨ、イ、ロハス」氏ガ外務大臣トシテ内閣ノ首班ニ新任セラレシコトニ関係致候、右「ロハス」氏ハ本使ガ昨年七月着任ノ際「ハリスコ」州首府「グワダハラ」市ニ於テ節制アリ秩序アル大歡迎ヲ受ケタル当時ノ主人側ノ代表者ニシテ又最近本年一月下旬

出雲艦長來京ノ際往復二回共ニ同市ニ於テハ州知事タル「ロハス」氏ノ下ニ大歡迎会行ハレタルコトモ有之此等ノ事實ハ米国新聞通信員ニヨリテ已ニ針小棒大ニ報道セラレタル公知ノ事実タルベキノミナラズ同氏ト本使トノ間ニハ昨年来数次文通アリシ外前記出雲將士歡迎ノ際ニハ本使モ「ロハス」氏ノ招待ヲ受ケ之ニ対シ本使ノ断リ状ノ如キ本使ガ同知事ノ出雲將士歡迎ノ謝状ト共ニ当地新聞紙上ニモ公表セラレ居リ候之等ノ事実ト共ニ「ロハス」氏ガ素外交官出身ニシテ仏語ヲ操リ得ル事前外相「モエノ」氏ノ比ニアラサルコト等ヨリ連想セシモノニヤ米国側ニテハ該「ロハス」氏ノ新任事情ニ関シ是レ日本ノ墨国ニ於ケル活動ヲ便ニセンガ為メト曲解臆測セルモノモアルガ如ク現ニ在米墨国代理大使ヨリ墨国外務大臣ヘノ報告中ニモ新外相ノ任

命ハ日本政府ヨリノ“imposition”ノ結果ナリト新聞其他ニ於テ専ラ噂セラレオル旨記載アリシ趣ニ有之本使ニ於テモ失笑驚愕ヲ禁スル能ハサリシ次第ニ有之候

第二ハ墨国軍隊内ニ本邦軍人入り込メリトノ風説ニ有之候当地米国代理大使ガ近頃当市ニ於テ墨国軍隊ノ行列ヲ觀タル際現ニ多数ノ日本將校及兵卒ノ墨国軍服ヲ着ケテ隊伍ニ交リ居レルヲ見タル旨ヲ式部長官ニ内話シタルニ付日墨兩國人相貌ノ類似ヲ挙ケテ其誤ヲ正サントセルニ拘ハラズ同代理大使ハ否然ラズ確ニ日本人ナリト抗弁シタリトノコト頃日同式部長官ガ本使ニ一笑柄トシテ談ル処ニ候由來本使ハ出雲艦ヨリ当地ニ派遣セラレタル森少佐及其一行ノ滞京ニ関シ米国新聞ニ種々ノ疑惑掲ケラレントスル形勢ニ先チ当地米国代理大使ニ対シテハ正確ナル事情ヲ腹藏ナク説明シオキシノミナラズ又昨年未本邦將校五十名墨国軍隊ニ入ルノ希望ヲ在本邦墨国公使ニ申込ミタリトノ説アリシ際ニモ貴大臣ニ事實ヲ質シタル上直チニ同代理大使ニ事實無根ノ旨ヲ語リ置キ其他日常同代理大使トハ交通往来シテ彼我ノ間何等疑惑ノ念ヲ挾マザル事ヲ期シヨリ且ツ墨国軍隊内ニ本邦軍人アリトノ如キ一笑柄ナラバイザ知ラス此ノ如キ

コトヲ信スル者ハ勿論疑フ者スラモアリ得ベカラザル事ト存シ居候処前記式部長官ノ談話ハ本使ニトリテハ甚タ意外ナル話ニ有之其談話ニシテ真ナリトセバ之レ米國代理大使ノ疑念中ニモ猶本使ノ説明ヲ信ゼザル分子ノ存在ヲ示スモノニシテ斯クシテ同代理大使ガ國務卿ヘノ報告モ思ヒ遣ラル、次第二候間今後本使ノ同代理大使ニ対スル行動上ニ不鮮参考ノ資ヲ得タルモノト被存候

右米國人ノ日墨関係觀ノ一斑為御参考及具報候 敬具

五四八 三月十日 在墨国安達公使ヨリ
牧野外務大臣宛(電報)

軍艦出雲ノ今後ノ進退ニ関シ考慮方同艦艦長

へ電報ノ件

第八三号

出雲艦長ヘ左ノ通り電報シ置キタリ尚同艦長ト協議ヲ重ネ出雲今後ノ行動ニ関シ上申致スヘキニ付キ御含置カレタシ当国力無政府ノ状態ニ陥ル危険ハ差当リ稍々遠ザカリタルカ如シ從テ軍艦ノ滞在ハ絶対的ニ必要ナルニ非サルモ「トレラン」会戦ノ結果モ未タ明瞭ニ予測シ難ク大勢ハ依然未タ何等定マリタルコトナキニ付在留日本人ニ慰安ヲ与フル

方面視察ノ理由

三、「マサトラン」港着——同地方ノ状況及在留邦人ノ安否——其他在港中ニ於ケル雜事

四、「ガイマス」港着——同地方ノ状況及在留邦人ノ安否——在港中ニ於ケル雜事——「マサトラン」ニ帰航——

「サンブラス」寄港——「マンサニヨ」帰港

五、以上各地見聞ノ結果綜合及之ニ対スル一般觀察

附米墨關係——首府出張

六、「エンセナダ」ニ出雲派遣方安達公使ノ稟請ニ関スル件

七、森山出雲艦長墨国首府訪問事件

八、墨国騒乱今後ノ成行如何ニ関スル三種ノ見——之ニ対スル論評

附録別信目次

一号、墨国北部国境地方在留邦人ノ状況ニ関スル伊藤書記

生ノ報告

二号、

機密

墨国出張復命書

一九 「メキシコ」革命動乱関係一件 五四九

為メニモ出雲カ今後引続キ滞在スルコトハ最モ望マシキ義ト存ス尤モ目下ノ形勢小康ナルヲ機トシ出雲一旦帰朝ノ上再ヒ来航スルカ又ハ他ノ軍艦ヲ派遣セラル、モ可然何レ「マンザニヨ」ニ御帰着後篤ト御相談ノ上意見確定致度ニ付其辺御熟考相成置カレ度ク以上ハ森少佐モ同意見ナリ尚「マンザニヨ」ニハ館員ヲ派シ御相談セシムル必要アリト存シ居レリ

五四九 三月十七日 埴原外務書記官ヨリ
牧野外務大臣宛

墨国出張復命書提出ノ件

機密 (三月十八日接受)

本官墨国出張復命書左ノ通り及提出候間御査閱相成度候也
大正三年三月十七日

外務書記官 埴原正直

外務大臣男爵 牧野 伸顯殿

墨国出張復命書目次

一、横須賀出発——「ホノル、」寄港

二、「マンサニヨ」港着——田辺書記官ノ報告——陸戦隊上陸問題ニ関スル協議——首府ニ出張前「マサトラン」

外務書記官 埴原正直

一、横須賀出発——「ホノル、」寄港

本官ハ命ニ依リ外務書記生伊藤敬一ヲ伴ヒ大正二年十一月二十日東京出発即日横須賀ニ於テ軍艦出雲ニ搭乘ス、同艦ハ同月同日午後横須賀軍港拔錨十二月五日午後「ホノル、」港着式ニ依リ二十一発ノ礼砲交換ヲ了リテ後在同港米國海軍司令官ノ好意ニ依リ海軍棧橋ニ錠繫ス、永滝総領事ヲ始メ在留邦人ノ出迎フルモノ多シ本官及伊藤書記生ハ直チニ上陸本省ヨリ在「ホノル、」総領事館氣付ニテ到達シ居レル諸電信ノ解読其他ノ庶務ニ従事ス(因ニ今次出雲ノ経験ニ依レハ横須賀ヲ距ル約二千哩ノ距離迄ハ無線電信満足ニ通シタリト言フ、尚ホ通信状況ノ委細ハ艦長ヨリ海軍省ニ報告済ミノ儀ト存ズ)出雲ハ石炭積込糧食購入等ニ四日(内一日ハ日曜)ヲ費シ十二月九日午後三時ヲ以テ「ホノル、」ヲ拔錨ス同港碇泊中ハ永滝総領事夫妻、在留邦人有志団ノ夫々盛ナル歡迎会ヲ催フセル外米國陸海軍各官憲及市長等ノ極メテ真率ナル好意ヲ以テ或ハ練兵觀覽ニ或ハ午餐晚餐ニ或ハ楽隊ノ寄贈ニ本官等一行ヲ歓待セルアリ所在新聞紙ノ記事論調モ亦大概ネ友好的ニシテ諸事都合好ク

運ヒタルハ十二月八日永滝総領事発第二九号電報ノ通りナリ

二、「マンサニヨ」着——田辺書記官ノ報告——陸戦隊上陸問題ニ関スル協議——首府ニ出張前「マサトラン」方面視察ノ理由

十二月二十二日午前「マンサニヨ」港ニ到着ス同港ニハ要塞モナク墨国軍艦ノ碇泊セルモノモ無カリシヲ以テ礼砲ノ交換ヲ為スコトナクシテ港内ニ投錨ス、首府ヨリハ田辺公使館ニ等書記官公使ノ命ヲ齎ラシテ出雲ノ到着ヲ待受ケ居リタル外名譽領事「ブラス、ルイス」(同領事ハ「コリマ」市在住ニシテ「マンサニヨ」ニハ其出張所ヲ有スルニ過ギズ當時病氣ノ為メ「グワダラハラ」市ニ於テ医療中ナリシモ出雲出迎ノ為メ特ニ出港シタルモノナリト云フ今次出雲ノ来航ニ関スル同領事ノ尽力ニ就テハ別信参照アリタシ)及在墨都日本人会副会長医師鈴木某及東洋移民会社出張員田中兵吉ノ両氏又「グワダラハラ」ヨリハ渡辺金三(在桑港牛嶋謹爾ノ依囑ヲ受ケ墨国農業事情調査ノ為メ約三年前ヨリ当国各地ヲ旅行シ居ルモノナリト云フ)外一名ノ出雲出迎ノ為メ来合セ居ルアリ本官ハ艦長ト共ニ先ヅ田辺書記

官ヨリ墨国ノ情況ニ関スル報告及安達公使ノ意見ヲ詳細聴キ取リタル上尚参考迄ニ前記鈴木田中両氏ノ説ヲモ公然トナク聴キ糺シタルニ国内騒乱ノ状態ニ在ル今日内外人一般ニ不安ヲ感シ居ルハ固ヨリナルモ之ガ為メニ首府在留外人ノ生命財産ガ特ニ重大ナル危険ニ瀕シ居レリトス可キ何等ノ理由ナキノミナラス斯ル事態ノ下ニ在ルモノトシテハ寧ロ意外ニ安固ヲ享受シツ、アルモノト見テ不可ナキカ如ク特ニ在留邦人ノ場合ニ於テハ總計約二百七八十名ノ内相応ノ店舗ヲ有スルモノハ僅カニ三四ニ過キス而カモ何レモ雜貨販売ヲ主トスルモノナルヲ以テ他ノ銀行ヤ貴重品販売店ヤ又ハ食料問屋ノ類ト異リ万一掠奪横行ノ事アリトスルモ其危険ヲ感スルハ最モ少ク其他大多數ハ自動車運転手又ハ他ノ被傭人ニシテ其ノ何処ニ居住スルヤモ殆ント不明ナル程ナルカ上ニ從來何故カ日本人ハ特ニ下級墨国民衆ノ間ニ比較的氣受ケ好キカ故ニ進ンテ自ラ招カサル限り官叛兩軍ノ兵士共ニ之ヲ敵視スルカ如キコトナキ實況ナルヲ以テ仮リニ今日ニ於テハ容易ニ予期シ難キ市街戦又ハ市中掠奪横行等最悪ノ場合起リタリトスルモ尚ホ最モ安全ナル地位ニ在ルモノ、如ク而シテ安達公使ノ危慮スル所ハ余リニ實際

ト懸隔スル所アリト認メラル可キ理由アリタルヲ以テ此ノ際陸戦隊上陸ノ如キハ實際何等ノ必要ナク又強テ上陸セシメタリトテ万々一ノ場合ニ於テハ果シテ何程迄保護ノ効果ヲ奏シ得可キヤ甚ダ疑ハシキノミナラス却リテ無用ニ危険ヲ誘発招致スルノ虞少ナカラスト思料シ本官ハ陸戦隊上陸武器ノ輸送等ハ一切之ヲ見合ハスコト可ナリト思惟シタルモ折角持チ来リタルモノナレバ後日實際必要ノ場合ニト言フモ容易ニ間ニ合フ可キニアラネバ小銃五十挺ト「マキシム」砲四門及無線電信機丈ケハ今後万一ノ変ニ備フル為メ寧ロ交通安全ナル此際ヲ利用シ公使館ニ送付スルト同時ニ森少佐及機砲操縦及無線電信機据付等ニ要スル下士卒十九名丈ケ何レモ平服ニテ出府セシメ置クコト可ナラズヤトノ艦長ノ意見モアリ絶対ニ排斥スルハ徒ラニ調和ヲ破ルノ虞モアリタレハ事ニ差支ナキ限度ヲ標準トシ機砲ヲ二門下士卒ヲ九名ニ減スルコトニ相談ヲ整ヘ十二月二十二日発拙電

第二号前段ノ通り請訓致シタル次第ナリ

尚ホ當時安達公使ヨリハ本官ノ森少佐ト同時出府ヲ希望シ来リタルモ水兵上陸ノ件ニシテ已ニ叙上ノ如ク決定ス可シトセハ此際差懸リテ直接公使ト協議ヲ要ス可キ緊急事項ナ

キノミナラス田辺書記官ノ報告ニ拠ルモ又我名譽領事「ルイス」氏及前記在留邦人諸氏ノ談話ニ依ルモ首府「マンサニヨ」間沿道一帶平穩ニシテ所在邦人(因ニ「マンサニヨ」港ニハ邦人ノ在留スルモノ一名モナシ別信報告(見當ラズ)参照)何レモ無事ナリトアリ又南方「チャパス」方面ノ在留邦人モ今日迄何等危険ノ状態ニ在ラズトノ事ニテ不明ナルハ北方「マザトラン」方面ノ状況ナルヲ以テ一応此ノ方面ノ実況ヲ視察シタル上ニテ首府ニ赴キ便宜公使ト協議ヲ遂クルコト利益多カル可シト存シ前記拙電末段ノ通り稟請致シタル次第ナリ

右拙電ニ対シ十二月二十六日安達公使經由貴電第二号ヲ以テ異議ナキ旨御回訓ニ接シタルニ付出雲ノ石炭糧食補給終了ヲ幸ヒ十二月二十七日午後「マンサニヨ」港出發「マサトラン」ニ直航セリ

因ニ「マンサニヨ」碇泊中二十三日英國砲艦「シーヤウオーター」靜カニ「クリスマス」ヲ過ス為ナリトテ「マサトラン」ヨリ入港シ来リタルヲ以テ艦長「ウオーター」中佐ニ就キ同方面ノ状況ヲ尋ネタルニ目下ノ処官叛兩軍対峙ノ形勢ニテ格別危険ノ差迫リ居ル模様モナシトノミ

ニテ在留邦人ノ状況ハ詳ニスルヲ得ザリキ

三、「マサトラン」港着——同地方ノ状況及在留邦人ノ
安否——其他在港中ニ於ケル雜事

十二月二十九日午前「シナロア」州「マサトラン」港ニ到着二十一発ノ礼砲交換ヲ了ヘ投錨ス港ノ内外ニハ米國一等巡洋艦「パツバーク」(司令官 Rear Admiral W. C. Cowles 坐乗) 独國二等巡洋艦「ニューレンベルグ」及墨國砲艦「モレロス」ノ碇泊セルアリ本官ハ直チニ在留邦人代表者、英國副領事 Geo. E. S. Watson 米國領事 W. E. Alger 及前記「ロールス」少将等ニ就キ在留邦人ノ安否及土地ノ状況ヲ聴ク其結果ヲ綜合スルニ左ノ如シ

当地ハ去ル十一月十四日州ノ首府「クリヤカン」ノ叛軍ノ占領スル所トナリテ以來全ク叛軍包圍ノ裡ニ在リ Brigadier General Alberto Raagado 州知事兼軍司令官トシテ約二千五百ノ兵ヲ擁シ之ヲ守ル總力ニ一條ノ鐵路ニ由ルヨリ外ナキ内地トノ交通ハ全ク杜絶セルモ海上ノ通路ハ全然官軍ノ手ニ存シ「マンサニヨ」港ヲ經テ首府トノ連絡自由ナルヲ以テ叛軍ニ於テ軍艦ヲ有セサル限り(而シテ叛軍ハ現ニ一隻ノ軍艦ダモ有セズ) 此地ヲ陥レンコトハ至難ナルベク

(十二月三十日發安達公使宛拙電第四号報告) 又所在外國人中ノ重ナル者ニ就テ之ヲ聞クニ今日迄ノ經驗ニ拠レハ官叛兩軍共ニ外人ノ生命財産保護ニハ特ニ意ヲ用キ居ルモノ、如ク此ノ点ハ在留外人ノ何レモ頗ル多トスルニ躊躇セサル所ナリト云フ是レ蓋シ一ニハ各國軍艦ノ威力ト一ニハ又騒乱其ノモノカ初メヨリ何等排外ノ意味ヲ有セサルトニ因ルコトナランカ

尚ホ聞ク所ニ拠レハ当局在任ノ墨國人中ニハ内心叛軍ニ同情ヲ有スル者少カラスト言フモ彼等ハ公然起チテ官軍ニ抗シ又ハ叛軍ノ為ニ力ヲ貸サントスル程ニ熱心ナル者ニアラス何レカト言ヘハ早ク平和サヘ回復シクル、ナレハ何人ノ政府ナリトモ可ナリトスル者少クトモ多少財産ヲ有スル者ノ社会ニハ多数ナルガ如シ

「マサトラン」附近ノ内地ニ邦人ノ在留スル者一二アリト言フモ多分無事ナルベシトノミニテ確實ナル消息ハ國ヨリ姓名スラ知ルモノナシ

「クリヤカン」ニハ在留邦人ノ数或ハ十数名ニ過キスト云ヒ或ハ数十名ニ上ルト云ヒ或ハ又曩ニ叛軍同市占領ノ際邦人外園某ハ同市ニ於テ掠奪ニ遇ヘリトノ噂アリト言フモ交

又官叛兩軍ノ前哨ハ往々二千米突内外ノ距離迄相接近スルコトアリト言フモ曾ツテ決戦ヲ試ムルコトナク互ニ數砲ヲ交ヘテ退却スルカ常ナリト云フ是レ一ニハ叛軍ノ首將「カラスコ」ノ当地ニ知友ヲ有スルコト多ク戰禍ノ彼等ニ及ブラ好マサルト一ニハ又官叛兩軍兵士ノ中相知ル者多ク而カモ彼等ハ互ニ旧怨アルニアラズ唯強制ニヨリ已ムナク又ハ單ニ衣食ノ為メニ就役セルモノナルガ故ニ真實戰意ヲ有セサルニ由ルト其ノ果シテ然ルヤ否ヤハ暫ク措キ所在内外人一般ニ商況不振軍費負担増加ニ對スル嘆声ヲ洩ラス外直接生命財産ノ危險ヲ曾テ感ジ又ハ現ニ感ジ居ルモノ殆ント之レナキガ如ク特ニ在留邦人(其總數三十名外ニ北米行ノ目的ヲ以テ南米ヨリ來リ当地ニ暫留セルモノ約十名別信

参照) ハ格別被害ノ虞アル財産ヲ有スルモノモナク且ツ何故カ官叛兩軍何レニモ氣受ケ好キヲ以テ何レノ場合ニ於テモ危險ヲ感スルコト最モ少キ地位ニ在ルハ單ニ他ノ觀察ノミニ止ラス現ニ彼等自ラ自認スル所ナリ、因ニ先是安達公使ノ電報ニ拠レハ「マサトラン」ニハ内地ヨリ邦人ノ避難シ來レル者少カラサル様子ナリシガ現場ニ就テ調査スルニ今日迄ノ処邦人ノ内地ヨリ避難シ來レルモノ皆無ナリ

通杜絶ノ今日事實ヲ確ムルニ由ナク不得已同市ニ近キ「トポロバンポ」港ト時々通信連絡ノ便アル米艦ニ事實ノ調査ヲ托シ其結果ハ便宜出雲ニ通報シクル、様依頼シ置ケリ十二月三十日米國巡洋艦「ロレイ」ハ「サンデエゴ」ヨリ同上砲艦「アナポリス」ハ「ガイマス」方面ヨリ交代ノ為入港シ來リ翌三十一日英艦「シーヤウオーター」モ亦「マサンニヨ」ヨリ來リ会ス

一月一日ハ我大祭日ナルヲ以テ在港各國軍艦何レモ旭日旗ヲ掲揚シテ祝意ヲ表ス、当日午後我出雲艦長ハ本艦ニ於テ「アット、ホーム」ヲ催フシ各國軍艦乗組將校下士卒及「マサトラン」在任内外人士ノ來合スルモノ多ク夕刻ヨリハ米艦「ピッツバーク」艦上ニ於テ舞踏会アリ出雲ニ來リシ者ノ多クハ之ニ赴ケリ

尚ホ当港碇泊中「コールス」少将ハ出雲艦長及本官ノ為ニ丁寧ナル晚餐ヲ催フシ又本官ノ旧知ナル「ピッツバーク」乗組諸將校ハ別ニ本官ノ為ニ会食ヲ催フシタリ其他出雲乗組員ノ為ニ活動写真ヲ貸与スル等米艦ノ好意多トス可キモノアリ

又知事兼軍司令官「ラスガドー」少将モ我出雲艦長並ニ將

校数名及本官ノ為ニ其ノ官舎ニ於テ丁重ナル午餐ヲ饗セラレタリ先是出雲着港ノ際同少将ハ副官「ヴァレンスエラ」少佐ヲ遣ハシテ之ヲ迎ヘ中央政府ヨリノ命モアリ喜シテ諸般ノ使宜ヲ供スヘキ旨ヲ伝ヘラル本官ハ森山艦長ト共ニ其ノ好意ヲ謝シ欲テ本官ハ艦長ノ正式訪問交換ヲ了ヘタル後独リ別ニ公然トナク「ラ」少将ヲ訪問シタルニ同少将ハ墨国々民ノ日本ニ対スル好意ノ頗ル切ナルモノアルヲ説キ今回出雲ノ来港ニ就テハ盛シニ之ヲ歡迎シタキモ今日ノ場合他ノ思惑等モ顧慮スルコト可然ト考ヘタル故事々シキ歡迎ノ催シハ差控フルコト、シタル次第ヲ述ベタルガ其言語ノ間ニ包マレタル所ハ好日ト言フヨリモ寧ロ米國ヲ好マスト云フニ在ルモノ、如ク察セラレタリ

其他「マサトラン」港在住重ナル市民ノ忘年舞踏会ヲ催フシ在港各国軍艦乗組將校ヲ招待シタルニ何レモ之ニ参会シ國際的交歓ヲ為シタルカ如キ出雲當港碇泊中ニ於ケル社交的行事ノ重ナルモノナリ

一月三日出雲ハ米國政府ノ好意ニ依リ其海軍運炭船ヨリ石炭ノ補給ヲ受ケ(英、独軍艦モ亦同様ノ便宜ヲ得ツツアリ)翌四日午後「ガイマス」ニ向テ拔錨ス

四、「ガイマス」着——同地方ノ状況及在留邦人ノ安否——在港中ニ於ケル雜事——「マサトラン」ニ帰港——

「サン、ブラス」寄港——「マンサニヨ」帰港——

一月六日午前「ソノラ」州「ガイマス」港着錨シテ後礼砲ノ交換ヲ為ス墨国々旗ノ所在不明ナリシカ為ナリト云フ港ノ内外ニハ米國一等巡洋艦「メリーランド」出雲ニ先ツ二日「マサトラン」ヲ出港セル独艦「ニューレンベルグ」及墨國砲艦「タンピコ」及「グエレロス」ノ碇泊セルアリ本官ハ先ツ在留日本人代表者、英國副領事 W. Fearon 米國領事々務代理 Charles D. Taylor 及「メリーランド」艦長(小官ノ旧知)等ニ就キ土地ノ状況ヲ探問シタルニ在留邦人六十七名(内五十五名「ガイマス」市在留余ハ「ガイマス」市外約三哩ノ距離ニアリ墨國南太平洋鐵道ノ一中心地点タル「エンパルメ」ニ於ケル同鐵道修理工場ニ就働スル者ナリ別信 参照)何レモ異狀ナク一般形勢ハ略々「マサトラン」ト同様ナリ唯當地ハ昨年三月以來叛軍包囲ノ裡ニ在リ五月中一ヒ形勢急ヲ伝ヘ在留外人ノ一部ハ當時在港米艦保護ノ下ニ港ノ前面ニ在ル一小嶋ニ避難シタルコトアルモ何等ノ異変モナク數日ニシテ悉ク帰港シ爾來格

別ノ危險ヲ感セスシテ今日ニ至レリト言フ、當地ニハ「ヤキ」地方師団長 General da Division Pedro Ojehada 約四千ノ兵ヲ率イテ之ヲ守リ別ニ州知事 Gen. F. H. Garcia 在リテ民政ヲ司ル其他ニ於テハ一般狀況「マサトラン」ト異ルナキハ一月六日拙電第四號報告ノ通りニシテ若シ仮リニ今後叛軍ノ為ニ占領セラル、コトアリトスルモ之カ為ニ在留外人ノ生命財産ガ今日ヨリ更ラニ多クノ危險ニ瀕ス可シトハ何人モ考ヘ居ラサルモノ、如ク此ノ点ハ「マサトラン」ニ於テモ同様ナリ是レ前述ノ通り騒乱其ノモノカ何等排外ノ動機ヨリ出テタルニアラス且ツ官叛兩軍共ニ外人ノ生命財産ノ特ニ尊重セサル可ラサル所以ヲ能ク了解セリト信ス可キ理由アルカ故ナラム

州都「エルモシヨ」其他内地各方面ニ於ケル邦人ノ狀況ハ電信鐵道共ニ全然不通ノ為メ各方面ヨリ之ヲ確知スルニ由ナキモ商況不振勞働需要ノ減少等ヨリ生スル苦痛ノ外別ニ直接生命財産ノ危險ヲ感スルカ如キコトハ之ナカル可キハ是迄内地ヨリ避難シ來レルモノ、皆無ナルニ徴スルモ明カナリトハ当方面官叛兩軍ノ事情ニ通スル者ノ一致スル所ナリ

着港当日本官ハ艦長ト共ニ英國副領事ニ伴ハレテ知事及師団長ヲ訪問ス

森山艦長ハ一日其艦上ニ「アット、ホーム」ヲ催フシ「ガイマス」在住内外官民及米艦「メリーランド」艦長及乗組將校下士卒(独艦「ニューレンベルグ」ハ當時已ニ出港セリ)ヲ招待ス來会スル者數百名中々ノ混雜ナリキ又「メリーランド」艦長ノ森山艦長及本官ヲ晚餐ニ招キ別ニ出雲乗組員ニ對シテハ前日ノ返札トシテ活動写真ヲ貸与セラレタル外墨國師団長「オヘダ」中將部下ノ諸將校及在港墨國軍艦乗組士官等相集マリテ我出雲乗組士官ノ為メニ一会ヲ催シタル等當地滞在中ニ於ケル社交的出來事ノ重ナルモノナリ

一月十日午前来艦「ローレー」「マサトラン」ヨリ「トポロパンポ」ヲ經テ入港ス「メリーランド」ト交代ノ為ナリト云フ、就テ「クリヤカン」方面ノ狀況ヲ聞クニ何等異變ナシト依テ出雲ハ曩ニ予定シタル「アルタ、」寄港(同港ハ「クリヤカン」ニ最モ近キ港ナルガ小艦ニアラサレバ入港極メテ困難ナリト云フ)ヲ中止シ同日午後「ガイマス」拔錨十二日午前「マサトラン」ニ帰港ス同地ノ形勢依然タリ

翌十三日午後同港拔錨十四日午前「サン、ブラス」港ニ到着ス米艦「ビッツバーグ」ノ在泊セルアリ就テ地方ノ状況ヲ聞クニ「デビック」方面ハ数日来官軍ノ氣勢漸ク加ハリツ、アルガ如キモ未ダ何等大局ニ変化ヲ及ホス可キ形勢ナシト云ヘリ尚ホ当港ノ内地ニハ邦人ノ在住スルモノ数名アルモ何等危険ニ遭遇シタルヲ聞カズトノ事ナリ
一月十五日午前「サン、ブラス」港拔錨十六日午前「マンサニヨ」ニ帰港ス

五、以上各地見聞ノ結果綜合及之ニ対スル一般觀察

附 米墨關係——首府出張

以上各地見聞ノ結果ヲ綜合スルニ「マンサニヨ」港以北ノ太平洋沿岸（現ニ海上トノ交通開ケ居ル地方ヲ指ス）ニ於テ邦人ノ在留スルハ「ガイマス」、「マザトラン」二港ヲ重ナルモノトシ合計九十余名其他ニハ各所ニ散在スルモノ總計僅ニ十数名ヲ出テサルヘク其生命財産共ニ今日ニ於テ何等現実ノ危険ニ瀕シ居ラサルノミナラス将来ト雖モ俄ニ甚シキ危険ニ迫ル可シトモ思ハレサルハ上述ノ如ク但シ軍事負担ノ増加、信用破壊、商況不振、労働需要ノ減少等ヨリ生スル困難ハ少カラサルヘキモ之ハ内外人一般ノ事ニテ墨

日本人ノ最モ多数在留スルハ目下太平洋沿岸ト直接交通ノ杜絶シ居ル内地特ニ「ソノラ」州北部、「チウアウア」、「コアウイラ」兩州等米國ニ接近セル地方ニシテ軍艦ヨリハ其狀況ヲ確知スルニ由ナキモ多少信憑スルニ足ルヘキ各方面ノ筋々ヨリ伝聞スル所ニ拠レハ是亦前段所説ノ狀況ト大差ナキカ如シ

「マンサニヨ」以南ノ沿岸ハ今日迄ノ処一休ニ平穩ナルカ如ク「チャパス」方面ニ在留スル邦人ノ如キ昨千九百十三年末迄ハ未タ何等直接ニ騒乱ノ影響ヲ被リタルコトナシト云フ尤モ此騒乱ニシテ長引ク時ハ同地方ノ如キト雖自然ニ其影響ヲ被ルニ至ルヘク遂ニハ騒乱其者ノ勃発スルニ至ルヤモ料ラレス現ニ昨今（本年二月上旬）ニ於テハ地方民心漸ク不安ノ念ヲ萌シツ、アリト伝ヘラル尤モ未ダ格別憂フルニ足ラストハ其後ノ情報ナリ

要之墨國騒乱今後ノ發展如何ハ暫ラク予言ノ限リニアラストシテ我在留民ノ為出雲カ實際保護ヲ加フヘキ機会ハ今日ノ処極メテ少シトスヘク又仮リニ近キ将来ニ於テ其機會發生シタリトスルモ有効ニ保護ヲ与ヘ得ヘキ範圍ノ極メテ限局セラレタルハ以上所陳ノ実況ニ照シ想像スルニ難カラス

國今日ノ如キ事態ノ下ニ在リテハ蓋シ已ムヲ得サル所或ル程度迄ハ在留外人タルモノハ齊シク忍ハサルヘカラサル所ナラン若シ夫レ生命ニ至リテハ外人自ラ強テ招カサル限リ危険ハ極メテ少シト見テ可ナルヘキハ現ニ一般墨國人ヨリ最モ嫉視又ハ輕蔑セラレ居ルト云フ米人西人又ハ支那人スラ当方面ニ於テハ格別身命ノ不安ヲ感シ居ラサルニ徴スルモ明ナルカ如シ尤モ内地ニ在リテハ騒乱ニ乗シ草賊ノ出沒スルモノ多ク為ニ内外人共ニ掠奪凌辱ノ慘害ヲ被ルモノ往々コレナキニアラサルモ外人ニ対スル兵士ノ暴行ニ至リテハ意外ニ稀ナリト云フ勿論兵士ト雖兩軍共ニ多数ハ強制又ハ利ヲ以テ誘引セラレタル烏合ノ衆ナルヲ以テ給料不払等ノ為指揮官ニ於テ統御力ヲ失フカ又ハ外國ノ武力干涉等ニ依リ一般墨國人ノ狂熱的盲動ヲ挑発スルカ如キコトアラハ少クトモ其際一時ノ危険ハ大ナルヘキモ今日ノ所未タ斯ル場合ノ急ニ起ルラシキ模様モ見エス特ニ日本人ハ何故カ墨國到處所在民衆（上流社会ヲ際ク）ノ間ニ氣受好キカ上ニ幸カ不幸カ在留民ノ大多数ハ未タ之ト言フ財産モナキ労働者若クハ准労働者ノ境涯ニ在ルモノナルヲ以テ外人中危害ヲ被ルノ虞何レノ場合ニ於テモ最モ少キ地位ニ在リ

唯本官ノ実見シタル限リ出雲ノ派遣カ在留邦人ニ慰安ヲ与ヘタルコト少カラス又到処ノ墨國民衆ニハ以テ我ヲ畏敬スルノ念ヲ生セシメタル外彼等又ハ所在官憲ノ「サスセプチビリチー」ヲ格別損傷シタル模様モナク寧ロ幾分其好感ヲ助長シタルヤニ感セラレタリ（但シ其叛軍側ニ如何ノ感覺ヲ与ヘタルヤハ疑問ニ属ス）是レ墨國官民ノ無智無神經ナルニ因ルカ或ハ又單ニ彼等ノ出雲派遣ノ目的理由ヲ誤解セルニ因ルカ其レトモ又墨國民衆ノ無智ナルニ乘シ出雲派遣ヲ以テ是レ帝國政府カ墨國現政府（官軍側）ニ同情ヲ有スル証左ナリト曲説シ叛軍側又ハ米國ニ対スル一種ノ「デモンストレーション」ニ利用セントスル墨國現政府者又ハ一部人士ノ狐智ニ民衆ノ迷ハサレタルカ為カ疑問ノ余地ナキニアラス其他将来墨國ノ時局平定ニ帰シタル晩ニ於テハ我邦人ノ企業地質易地トシテ有望ナルヘキ当方面ノ事情ヲ多少了解スルコトヲ得タルモ偶然ナカラ又出雲派遣ノ齎ラセル一利ナリト見テ不可ナカルヘキカ（別信 参照）
若シ夫レ別ニ軍事的の見地ヨリシタル觀察如何ニ至リテハ本官報告ノ領分以外ニ在リ
翻テ又米墨ノ關係如何ヲ考察スルニ米國々境ヨリ叛軍ニ武

器彈藥ノ密輸入多キハ沿岸各地在留内外人ノ齊シク疑ハサル所ナルカ如ク去リトテ米國艦隊司令官「コールズ」少將墨國官軍側諸官憲其他ノ談話及本官目睹ノ事實ヨリ綜合スレハ之ヲ以テ必スシモ米國政府ノ默認ニ依ルモノトハ断スヘカラサルカ如ク寧ロ米國政府即今ノ方針ハ特ニ叛軍ニ加勢セントスルニアラス又「ウェルタ」政府ニ向テ特ニ事ヲ構ヘントスルニモアラスシテ出来得ル限り官叛兩軍ニ対シ平等不偏ノ態度ヲ持シツ、在留米人ノ保護ヲ主トシ側ヲ他外國人民又ハ政府ノ行動ヲ注視シ可成墨國騷乱ヲシテ他外國トノ紛糾ヲ生セサシムルニ力メントスルニ在ルモノナリト解スルコト正鵠ニ近キ觀察ナルヘク現ニ昨年中官軍ノ勢力下ニ在ル「ガイマス」ニ於テ米國水兵ト墨國群眾トノ間ニ争鬭起リ四名ノ米國水兵殺害セラレタルコトアルモ米國政府ハ之ヲ以テ強テ「ウェルタ」政府ニ迫ラントハセス却リテ該地及「マザトラン」ノ如ク動モスレハ米國水兵ニ向テ特ニ事ヲ構ヘントスル浮浪ノ徒ノ存スル地方ニハ一切水兵ノ上陸ヲ禁シ力メテ紛更ヲ避ケント注意シ居ルニ徴スルモ其一般方針ヲ察スルニ難カラス又墨國人民ノ一般ニ米國人ヲ好マサルハ疑ヲ容ル、ノ余地ナキカ如キモ其好マ

サルヲ以テ直チニ之ヲ仇視スルモノト解スルハ早計タルヲ免レス換言スレハ墨人ノ米人ニ対スル不好ノ念カ彼等墨人ヲシテ自家当面ノ利害得失迄モ忘レシムル程ニ根蒂アリ深刻ナルモノナリヤ更ニ極言スレハ墨人ノ米人ニ対スル不好ノ念カ果シテ幾何迄動力アリ反撥力アル國民的敵愾心タリ得ヘキカハ大ニ疑問タラスンハアラス少クトモ今日迄ノ処斯ノ念カ米人ニ対スル一般的排斥又ハ暴行トナリテ形ニ現ハル、迄ニ甚シキモノナラサルコトハ現ニ在留米人ノ齊シク認ムルニ躊躇セサル事實ナルカ如ク要スルニ米國政府今日ノ對墨政策ハ正當選舉ニ依ルコトナク虐殺横領ニ依リテ其地位ヲ占メタル大統領ヲ輕々ニ承認スルハ墨國一般人民及野心家ヲシテ米國ノ威力ヲ畏敬セシムル所以ニアラス又墨國々民ヲシテ確固ナル政府ヲ建設セシムル所以ニモアラズ而カモ武力干涉ハ其事自体ニ於テ既ニ重大ナル責任ト負担トヲ伴フノミナラス他ノ諸強ハ暫ク措キ必然生スヘキ中南米諸國ニ対スル其影響ニ就テモ容易ニ計ルヘカラサルモノアルヲ以テ飽迄之ヲ避ケサルヘカラストスル大統領「ウキルソン」ノ信念ト動モスレハ歐洲資本家ニ親シカラントスル仮大統領「ウェルタ」及其与党ヲ不可ナリトスル米國

資本家ノ利害トノ間ニ其關鍵ヲ発見スルヲ得可キカ曩ニ本官等本國出發當時新聞紙上盛シニ噂サレタル墨國海軍平時封鎖云々ノ如キ蓋シ米國政府ノ真意ニハアラサリシナラン因ニ「ウキルソン」ノ「ウェルタ」ヲ承認スルコトヲ欲セサルハ後者ノ為ニ横死ヲ遂ケタル「マデロ」ノ前者ノ同窓且旧友ナリシ關係ヨリ「ウキルソン」ノ「ウェルタ」ヲ疾ムコト特ニ甚シキニ因ルト言ヒ或ハ又「ウェルタ」ノ實力ニ関シ当初「ウキルソン」ノ得タル報道正確ナラス為ニ之ヲ輕視シ過キタルカ為ナリト云ヒ区々ノ説アルモ何レモ外間ノ臆測ニ過キサルカ如シ

次ニ之ヲ墨國方面ヨリ觀察スルニ官叛兩派共ニ民心煽動又ハ収攬ノ策トシテロニ米人惡ムヘシ米國ノ干涉排スヘシト叫ビナカラ実ハ双方共ニ公然ニ秘密ニ各其代表者ヲ華府、紐育其他ノ各地ニ派シ陰ニ陽ニ米國政府又ハ人民ノ声援ヲ得ント腐心シツ、アルカ如キ其果シテ真面目ナル對米政策ナルモノヲ有スルヤ否ヤ頗ル疑ナキ能ハス從ヒテ単ニ表面ニ現ハレタル墨國民衆ノ所謂排米熱ナルモノヲ見テ直ニ之ヲ我對米又ハ對墨政策ニ利用セントスルカ如キハ大ニ慎マサルヘカラサル所ナリトス

以上要領ハ一月十六日「マンサニヨ」発抽電第五号ヲ以テ不取敢報告致シ置キタル所ナリ申ス迄モナク右ハ太平洋岸各地方ニ於テ本官ノ親シク見聞シタル事實ヲ主トシテノ管見ナレハ固ヨリ多少ノ誤謬ナキヲ保セス就テハ予期ノ如ク首府ニ至リ安達公使ニ会见シ右觀察ノ結果ヲ報告スルト共ニ同公使ノ所見ヲモ叩キ篤ト中央地方ノ形勢ヲ併セ考察スルヲ以テ任務遂行上最モ適當ナル方法ナリト愚考シ予テ安達公使及森山艦長ト打合せノ通り伊藤書記生ヲ伴ヒ一月十七日午後一時「マンサニヨ」発首府行ノ途ニ就キタル次第ナリ

尚墨國北部國境地方在留邦人ノ狀況ニ就テハ帰途同地方ヲ經由セシメタル伊藤書記生ノ報告ヲ附屬第一号トシテ添付シタレハ就テ参照アリタシ

六、「エンセナダ」ニ出雲派遣方安達公使ノ稟請ニ関スル件

一月十七日夕刻「コリマ」市ニ到着ス、同夜半安達公使ヨリ「エンセナダ」ニ暴動起ル模様アリトテ英國公使ヨリノ請求モアリ抛ナク出雲同地派遣ノ儀本省ニ稟請シタル旨來電アリ然ル処一月八九日頃同地ニ立寄り「マサトラン」ニ

南下シ来レル米國砲艦「ヨークタウン」艦長ニ就テ本官等ノ聞キタル所ニ拠レハ同地駐屯墨國官軍兵士中給料不払ノ為メ一時「ミューチニー」ヲ企テ居ルモノアル模様ナリシモ幸ニ事ナクシテ止ミタリト言ヘリ此ノ事實ハ森山艦長ヨリ安達公使ニ電報シ置キタル所ナルモ同公使来電中該地暴動云々ノ報道ハ尙或ハ右ト同一事実ヲ取違ヘ居ルモノニアラスヤト疑ハレタル節ナキニアフス幸ニ森山艦長モ見物旁々本官見送りノ為メ「コリマ」迄来合ハセ居リタルヲ以テ直ニ相談シタルニ若シ仮リニ右ノ報道ニシテ前記本官等ノ「ヨークタウン」艦長ヨリ聞キタル事實以後ニ於テ新タニ發生シタル形勢ニ関スルモノナリトスルモ此際直チニ該地ニ回航セシニハ出雲現在ノ石炭ニテハ不十分ナルノミナラズ為ニ二十二日「マンサニヨ」着ノ予定ナル安洋丸ニテ来ル可キ千噸ノ石炭積込ヲ為ス能ハサル重大ノ不便アリ加フルニ該地在留邦人ハ僅カニ十名内外ニ過キス而カモ該地ニハ已ニ英國砲艦「シーヤウオーター」ノ在泊セルアリ且同地ハ現ニ米國軍艦數隻ノ在泊セル米領「サンヂエゴ」ニ接近シ必要ナレバ晉ニ米人ノミナノズ在留他外人保護ノ為其ノ出動スルコト極メテ容易ニシテ又必ズ出動ス可キ地点ニ

七、森山艦長墨國首府訪問事件

本官墨國首府着ノ上安達公使ト協議ヲ要シタル第一ノ事項ハ森山艦長首府訪問ノ時機ニ関スル問題ナリ、先是一月九日本官等「ガイマス」滯留中安達公使ヨリ「出雲「マンサニヨ」帰港ノ後英、仏、独ノ例モアレバ艦長ハ貴官ト同時ニ Visit of courtesy トシテ首府ニ来ラル、コトナル可シト存スルカ艦長ノ都合及日取り御相談アリタシ（中略）本使ニ於テ本省トノ交渉及準備ノ都合モアル故至急返電ヲ乞フ」旨本官宛来電アリ、然ルニ艦長首府訪問ノ事ハ是迄公使ヨリ本官ニ何等ノ相談ナカリシ所ナルニ此際突然而カモ特ニ Visit of courtesy ナドト名義ヲ付シ来レルハ出雲派遣ノ趣旨ニ照ラシ本官ニハ大ニ奇異ニ感ゼラレタルガ上ニ右安達公使ノ電文ヲ熟閱スレバ公使ニ於テハ果シテ此際艦長ノ出府ヲ願ハシトスル職務上ノ理由ヲ有シ之ガ為ニ其出府ヲ促サントスルモノナルヤ否ヤ頗ル疑ハシキ書振リナルノミナノズ本官ニ於テハ其名義ノ礼訪タルト否トヲ問ハス又公使ノ真意如何ニ関セズ此際艦長ノ出府ハ果シテ適当ノ事ナルヤ否ヤニ付別ニ大ニ疑問ノ存スル点アリシヲ以テ先ツ右安達公使来電ヲ艦長ニ示シ其意嚮ヲ問ヒタルニ艦長

在ルヲ以テ外國軍艦ノ事々シク此ノ地ニ出入スルハ少クトモ米國ノ快シトセサル所ナル可ク現ニ「コールス」少将ノ如キハ曩ニ「シーヤウオーター」ノ同地回航ヲ喜ハサルノ意ヲ他ニ洩スヲ辞セサリシヤニ伝聞セル次第モアリ又安達公使ノ電報ニ英國公使ノ請求トアルハ少シク不可解ノ点モアリ旁々若シ事實果シテ危險ノ虞アリトナレハ此等附近在泊軍艦ニ在留邦人ノ保護ヲ依頼スルコト此際最モ有効且適宜ノ措置ナルベシト云フ事ニ艦長及本官ノ所見一致シタルヲ以テ其ノ旨安達公使ニ電報シ其ノ一考ヲ促シタル次第ナリ兎ニ角事實ハ數日ニシテ該地派艦ノ必要ナカリシコトヲ証スルニ至レリ

本官等一行ハ一月十八日朝「コリマ」市ニ森山艦長ト別ヲ告ケ同日夕刻「グワダラハラ」市着一日同市滞在ノ上二十日墨都ニ到着セリ

邦人ノ在留スル者「コリマ」市ニ八名「グワダラハラ」市ニ十四名其ノ他「マンサニヨ」墨都間鐵道沿線ノ各地ニ散在スルモノ多少コレアリト雖此ノ方面一帶ハ比較的平穩ノ状態ヲ維持シ居リ今日迄ノ処ハ何レモ安全ノ地位ニ在リト云フ

ハ自分ハ特ニ請訓ヲ要セス便宜首府ニ赴クノ許可ヲ予メ海軍大臣ヨリ得居ルヲ以テ其ノ内適當ノ機會ヲ見テ出府スル積リナリ（因ニ先是艦長ハ本官ニ向ヒ今回「マンサニヨ」帰港ノ上ハ暫ク同地ニ碇泊スル都合ナルカ故ニ此機會ニ於テ出府シ度其節ハ數名ノ將校ヲ同伴フ様ニシタシトノ意ヲ洩シ暗ニ本官ノ賛成ヲ期待シタルモノ、如ク感セラレタルニ付本官ハ折角当沿岸迄来リ居ル事故時機ト任務ノ都合サヘ許ス可クハ出府ハ固ヨリ可ナルベク又見學旁可成多數ノ將校ヲシテ代ル代ルニ首府ヲ見物セシムルコトモ妙ナルベシト存スルモ其レハ一応任務終了ノ上愈々帰期ノ確定シタル上ニスルコト適當ナルベク今ノ処ハ少シク考慮ヲ要スベシト述ベタルニ艦長ハ而シ愈々帰朝ノ際トナレバ出府ノ機會ヲ逸センコトヲ慮ルト言ヒタルコトアリ）可相成ハ安洋丸ノ持来ル石炭積込ヲ了シ一月二十四日頃出発首府ニ赴クコトニシタシ云々トノ事ニテ海軍大臣ノ許可一条ハ本官ニハ聊カ意外ニ感セラレタルモ今更ラ言議ス可キ事ニモアラズト存シ本官ハ御都合ハサルコトナカラ本官ニハ少シク願念セラル、点アリテ安達公使トモ篤ト協議ヲ遂クル必要アルニ付出府ノ時機ハ公使ト本官トノ協議ノ結果ヲ俟チ（マ

シサニヨ」帰港後本官ノ直ニ出府ス可キコトハ先是已ニ決定シ居レリ」決定セラレンコトヲ希望スル旨懇談シタルニ艦長ハ然ラハ右様致ス可シト承諾シタルニ付本官ハ一月九日「ガイマス」発桑港総領事転電安達公使宛拙電第七号ノ通り同公使ニ回電シ尚発信前為念右電案ヲ艦長ニ示シ異議ナキ旨ヲ確メ置タル次第ナリ

依テ本官ハ首府着勿々安達公使ヲ訪問シ先ツ本件ニ関シロヲ開キ公使ニ於テハ果シテ此際出雲艦長ノ首府訪問ヲ願ハシトセラル、ニヤ若シ然ラハ其ノ理由如何ト問ヒタルニ公使ハ右ハ甚ダ願ハシトスル所ナルモ「エンセナダ」事件（前段参照）ノ俄ニ差起リタル為メ少シ躊躇シ居ル次第ナリトノ事ニ付、本官ハ自分等ハ此際「エンセナダ」ニ出雲派遣ノ必要ナシト存スルモ其レハ暫ク措キ返リニ該事件コレナキモノトシテ公使ノ此際ニ於テ艦長首府訪問ヲ願ハシトスル理由ヲ承知シ度旨述べタルニ公使ハ第一英仏独軍艦ノ前例アルコト第二墨国政府ハ出雲艦長ノ「コーテシー」トシテ首府ヲ訪問ス可キヲ期待シ居ルコト第三日墨親交ニ資スルコト等ヲ以テセラレタリ依テ本官ハ英仏独軍艦長ノ出府ガ果シテ「ヴィジット、オブ、コーテシー」ナリシヤ否ヤハ自分ノ大ニ疑フ所ナルモ其レハ暫ラク其レトシ単ニ

ラレタル理由ハ到底本官ノ納得シ能ハサル所ナルノミナラス尚ホ本件ニ関シテハ左ノ諸点即チ

一、僅カニ一昼夜ニシテ往復シ得ル「ヴェラクルス」ニ在泊セル英仏独軍艦長ノ場合ト異リ「マンサニヨ」ヨリ首府迄ハ片道二泊ヲ要スルヲ以テ我出雲艦長ノ首府訪問ニハ往復少クトモ一週間或ハ十日ヲ要スベシ實際支障ノ有無ハ暫ラク措キ苟モ主タル任務ノ未ダ終了セリト言フ可ラサル今日ニ於テ何等格別ノ必要モナキニ当任艦長カ斯克長時日ニ亘リ本艦ヲ留守ニスルガ如キハ帝國政府ガ夙ニ声明シタル派艦ノ趣旨ヲ没却スルノ嫌ヒナキヤ

二、曩ニ東京ニ於ケル法外ナル「デ、ラ、バラ」歡迎ノ事実ヲ捉ヘ墨国官軍側ノ諸新聞ハ一種ノ目的ヲ有シタルニヤアラン左モ意味アリ氣ニ之ヲ吹聴シタル次第モアリ旁々此際我出雲艦長入京セハ他国艦長ノ場合トハ異リ特ニ目立チタル敵本主義ノ御祭り騒キ起リ両国内一部人士当坐ノ便宜ト嗜好ニハ投シ得可ケンモ為ニ無用ニ好シカラサル他ノ嫉妬疑惑ヲ誘起シ施テハ更ニ重大ナル国際關係ニ累ヲ及ホシ其結果我ハ徒ラニ識者ノ嘲

偶々斯ル先例アリト言フヲ以テ直ニ我モ亦之ニ從フ可シトスルハ有理ナラズ又墨国政府ニ於テ出雲艦長ノ來訪ヲ期待スト言フモ抑モ帝國政府ノ出雲ヲ墨国ニ派遣シタルハ専ラ在留民保護ノ任務ニ従事セシムル為ニシテ聊カモ墨国政府又ハ人民ニ対スル慰問又ハ札式訪問ノ意味ヲ含ムモノニアラサルハ墨国政府ノ夙ニ知リシ居ル可キ筈ノ事ニシテ又安達公使ハ明白ニ之ヲ知リシセシムルノ責任ヲ有スルモノナリ而カモ尚ホ墨国政府ニ於テ斯ル期待ヲ有スト言フハ無智無神經カ然ラサレハ自ラ欺クト共ニ他ヲ欺キ以テ或ル一種ノ小策ニ利セントスル狐智ト見ルヨリ外吾人ノ到底理解スル能ハサル所ナリ次ニ又日墨親交ニ資スルト言フモ帝國政府ニ於テ派艦当初ノ趣旨ヲ根底ヨリ覆ヘサザル限リ叙上ノ理由ニ依リ何等ノ意義ヲ成サザル事ナリ且ツ吾人ハ如何ニ想像ヲ逞フスルモ元來ガ墨国政府ノ保護力ヲ信頼セサルヨリ起レル我在留民保護ノ任務以外ニ何等ノ使命ヲ有セサル一艦長ノ出府ト否トカ兩國親交ニ損益スル所アル可シトハ思惟スル能ハス寧ロ他ノ諛辭巧弁ニ頓着スルコトナク儼然不可侵ノ態度ヲ持シ専ラ与ヘラレタル任務ヲ守ルコトニ依リ多ク我ノ重ミヲ加フ可シト信スルモノナリ故ニ公使ノ与ヘ

笑ヲ招クニ終ルノ虞ナキカ

三、次ニ又出雲ノ主一任務タル墨国在留邦人保護ノ目的ヨリスレハ今日其保護ヲ要スルコト最モ急ナルモノ、大数ハ「コアウイラ」「チウアウア」及「ソノラ」州北部等叛軍占領地域内ニ在留スルモノナルカ故ニ叛軍ヲシテ日本ハ特ニ官軍側ニ同情ヲ有スルモノナリト疑ハシメ從テ彼等ノ我邦人ニ対スル惡感ヲ誘発スルノ虞アルカ如キ行動ハ我ニ於テ可成之ヲ避クルヲ得策トセサルカ

ノ三点ハ此際特ニ考慮ヲ要スル所ナリト信スル旨ヲ述ヘテ公使ノ注意ヲ喚起シタル処公使ハ少カラス之ニ耳ヲ傾ケタルモノ、如ク何レ尚ホ篤ト熟考ノ上決定ス可シトノコトナリシニ付本官モ稍々意ヲ安シテ分レタルニ何ゾ料ラン翌々日ニ至リ公使ハ本官ノ重テ不同意ヲ表シタルニ拘ラス此際艦長ノ入京ヲ希望スル意味ノ電報ヲ艦長ニ向ケ発スルニ至レリ、依テ察スルニ公使ハ初メ一ヒハ本官ノ意見ニ傾キタルモ更ニ又内心切ニ入京ヲ希望セルラシキ艦長一派ノ思惑ト又墨都在留邦人中三四ノ之ヲ機会ニ日墨交歓ノ美名ノ下ニ何トカ墨国政府当局者ヲ動シテ自分等目前ノ商利ヲ制

セントシ又ハ一身直接ノ利益上ヨリ自家広告ヲ為サントシ其間ニハ又平生公使ニ対スル感情上ノ不平ヨリ艦長ヲ楯ニ鬱憤ヲ洩ラサント言フガ如キ邪念モ混入スルアリテ此際艦長ノ入京不可ナリトスルカ如キハ専ラ恐米病ノ然ラシムル所ニシテ墨国官民ノ輕侮ヲ招ク所以ナリト言フガ如キ俚耳ニ入り易キ淺薄ノ議論ヲ唱ヘ自分等ノ多少金力智力ヲ有スルニ任セ盛ニ無智ノ在留同胞ヲ籠絡煽動シツ、アリシ徒輩（因ニ在留邦人中ニテモ着実ナル独立營業ニ従事スル人々ハ此際艦長ノ入京ト否トノ如キ自分等ノ関スル所ニアラストシ却リテ歡迎費ナド、称シ此ノ商売不景氣ノ際ニ多額ノ寄附金ヲ押シ付ケラル、ナドハ実ニ迷惑千万ナリト言ヒ居レリ）ノ言動ニ顧慮シ遂ニ意ナラスモ艦長ノ入京ヲ促スニ至リタルニハアラザルカ

斯ル間ニ又一方ニ於テハ本官ガ艦長此際ノ入京ニ対シ極力反対セルガ為メニ公使ハ決定ヲ躊躇スルモノナリトノ説自然ニ前記三四ノ徒輩間ニ伝ヘラレタルヤニテ之レガ為メ彼等ハ屢次在墨都日本人協議会ヲ召集シ同会ノ決議トシテ森山艦長ニ宛テ此際同艦長ノ入京セラレンコトハ墨都在留邦人一同ノ希望ナリ而カモ尚艦長ニシテ入京ヲ中止セラル、

ル次第ナリ然ルニ卑稟ノ次第ハ遂ニ当局ノ御同意ヲ得ル能ハサリシモノ、如ク存セラル、処不幸ニシテ英米兩國政府ノ疑問「カランサ」政府ノ排日命令發布等其ノ後ノ事實ハ本官ノ杞憂ノ遂ニ杞憂タラサリシヲ証セントスルモノアルカ如キ本官ノ深ク遺憾トスル所ナリ

因ニ墨都ニハ米國代理大使ヲ初メ白、奥兩國代理公使、伯國公使等小官旧知ノ外交官数名アリ其他在留歐米人中ニモ墨國商工業銀行（主トシテ独逸資本ヨリ成ル）頭取米人「デ、リマ」（紐育日本協会創立者ノ一人ニシテ我旭日勲三等ヲ有ス）外一二ノ知人アリ其ノ或ル者ハ本官ヨリ先往訪シ又或ル者ハ先方ヨリ先來訪シタルカ（固ヨリ公然トナク）本官ハ話次自分ハ今回墨國各地在留邦人安否ノ実況視察ノ為メ出雲ニ便乗シ來レルモノナルカ一応太平洋岸各地ノ視察モ遂ケタルニ付其ノ結果ヲ公使ニ報告旁々見物ノ為メ來府シタル次第ニテ其ノ内都合好クハ米國々境方面ニ於ケル在留邦人ノ狀況ヲモ視察シテ帰朝スル心組ナル旨ヲ其レトナク説明シ置キタル処尚初メノ間ハ彼等ノ中本官ノ使命如何ニ就テ種々ノ揣摩臆測ヲ試ミタルモノアリシ模様ナリシモ着府以來自分ハ米代理

カ如キ事アレハ本会ハ出雲ノ墨國派遣ヲ以テ無用有害ナリト認ムト言フ意味ノ不謹慎電報ヲ發スルニ至レリト云フ、ソレカアラヌカ艦長ハ前記安達公使ノ電報到着ヲモ俟タス又曩ニ本官トノ談合アルニモ拘ラス（前段参照）專断ニテ二十四日「マンサニヨ」發士官十五名帶同入京ニ決シタル旨公使ノ許ニ電報アリタリト云フ、本官ハ苟クモ公務上相応ニ重大ナル責任ヲ負ヘル人々ノ行為トシテハ右公使並ニ艦長ノ所決行動ハ余リニ淺慮ニ過キタリト思料シタルモ事是ニ至リテハ上長官タラサル本官ノ独力ニテハ如何トモ致シ難ク而カモ當時米國方面ヨリハ墨國問題ノ益々紛糾スヘキヲ慮リ大統領ハ一日モ早ク加州問題及巴奈馬運河料金問題ヲ解決セント欲シ折角兩院ノ外交委員等ト商議中ナリトノ新聞電報モアリ旁々斯ル際ニ當リテ大部分ハ一種ノ煽動ニ基ク盲目的排米熱ノ表現ニ過キサル好日の御祭り騒キノ機會ヲ思慮ナキ墨國民衆ニ与ヘ徒ラニ新聞煽動ノ材料ヲ供給スルカ如キハ我ニ於テ他ニ優越ナル特定ノ目的ナキ限り最モ慎ム可キ事ナリト思料シタルヲ以テ飽迄之ヲ阻止スルノ手段ヲ講スルノ必要ナルヲ思ヒ不取敢一月二十三日發拙電第七号及其ノ後同第拾号ヲ以テ卑見ヲ具シ高裁ヲ仰キタ

大使ノ紹介ニ依リ彼等ノ出入セル俱樂部ニ顔出シスル外墨國政府當局ノ何人ヲモ訪問シタルコトナク外間ノ疑惑ヲ招ク可キ行動ハ力メテ之ヲ避ケ居リシヲ以テ彼等モ本官ニ何等特別ノ使命ナキヲ信セント欲スルモノ、如クナリシ矢先艦長一行出府ノ事アリ而カモ初メハ單ニ觀光ノ為ナリトアリシニ拘ラス艦長以下十五名ノ士官ハ何レモ通常礼服（？）帶剣ノ儘ニテ停車場ニ到着シ墨國官民及我公使館員並ニ在留民等ノ盛ナル歡迎ヲ受ケタル以來（一行到着ノ際ハ本官ハ故ラニ停車場ニ出迎フルヲ避ケ伊藤書記生ヲ差向ケ置キタリ）毎日正装ノ儘市中ヲ引廻ハサレ居リタル様ノ次第ナリシヲ以テ他國ノ外交官ヲ始メ其他心アル者ハ何レモ奇異ノ感ヲ起シ扱テハ日本ハ墨國ニ対シ何カ企劃スル所アルニアラスヤトノ疑惑ヲ生シタルモノモアリタルカ如ク現ニ前記本官知人中ニハ之ヲ以テ本官來府ノ一結果ナルベシト揣摩スルモノモアリタリ但シ米國代理大使丈ケハ艦長ノ出府力何等他ニ意味アルニアラサルコトハ本官ノ説明ニヨリ能ク了解シ居リタルモ尚同代理大使ハ本官ニ向ヒ兩人限リノ内輪語シナリトノ前置ニテ世人カ之ヲ有意義ニ解セントスルハ避ク可

ラス少クトモ無用ニ有害ノ煽動材料ヲ供シタルノ嫌ヒアリ如斯ハ安達公使カ注意スヘキ事ナリトテ切りニ同公使平生ノ態度ニ対シ不満ヲ洩シ居リタリ

八、墨国騒乱今後ノ成行如何ニ関スル三種ノ見——之ニ

対スル論評

首府着以来安達公使ノ意見其他本官ノ見聞シ得タル所ヲ彙ニ太平洋岸各地視察ノ結果ト併セ考フルニ今日迄ニ於ケル墨国在留邦人安否如何ノ問題ノ関スル限リ本官ハ大体ニ於テ叙上ノ管見ヲ変改スヘキ理由ヲ發見セス此上ハ墨国ノ騒乱カ今後果シテ如何ニ成行クヘキカヲ考究スルノ必要アルモ此ノ疑問ニ対シテ明答ヲ与ヘンコトハ墨国人ノ難シトスルカ如ク能ク同国内外ノ形勢ニ通曉スト称セラル、外国人ニ於テモ亦等シク難キヲ感スル所ナラン唯タ本官ハ同国滯在中及米國經由ノ途次ニ於テ墨国ノ時局ニ関シ比較的多クノ智識ヲ有スト信セラルヘキ同国内外各方面ノ人士ニ就キ直接間接ニ見聞シ得タル所ト自分ノ親シク觀察シタル事実トヲ綜合分析シテ参考ノ一端ニ資セントス

此等ノ人々ノ言フ所ヲ綜合シテ考フレハ墨国騒乱今後ノ成行如何ニ就テハ大体三種ノ見アルカ如シ

ル、カ如シ就中英仏独諸公使ノ如キハ最モ熱心ニ斯見ヲ固執スルヤニ伝ヘラル、処此等諸國ノ利益ハ「ウエルタ」勢力ノ維持ヲ以テ便宜トスル事情アルヲ以テコハ寧ロ自然ノ傾向ナリトスヘク特ニ英國公使「サー、リオネル、カードン」ノ如キハ「ウエルタ」政府ノ財政窮迫ニ乗シ益々其ノ利權ノ拡張固定ヲ企図セントスル夫ノ「コードレー」卿ト事業上ノ共同利益ヲ有スル關係モアリテ当初ヨリ米國政策ニ反對シ「ウエルタ」政府援助ニ力ヲ尽シタルヲ以テ遂ニ米國政府ノ忌諱ニ触レ先般表面御用帰朝ト言フモ實ハ召還ヲ命セラル、ニ至リタルモノナリト云フ右英公使ニ関スル一節ハ米國代理大使「オシヨーノセー」ノ極秘ナリトテ本官ニ内話シタル所ナリ

第二ハ先ツ「ウエルタ」ノ果シテ時局ヲ平定シ得ヘキ実力ト誠意トヲ有スルヤ否ヤヲ疑ヒ仮リニ「ウエルタ」ニ勢援ヲ与ヘテ時局ヲ平定シ得タリトスルモソハ僅ニ一時ノ事ニ過キスシテ早晚復タ他ニ幾多ノ「ウエルタ」起リ同一ノ騒乱ヲ繰回ヘスヘキハ予見ニ難カラス何トナレハ墨国騒乱ノ原因ハ墨國政治ノ腐敗ニ在リテ存シ其ノ腐敗ハ墨國政治ノ從來常ニ少数權勢家ノ私利私慾ヲ充スノ具ニ供セラレ此等

第一ハ昨年二月政變ノ動機カ如何ナリシニセヨ米國政府ニ於テ既成ノ事實ヲ事案トシテ実力ノ所在ヲ認メ歐洲諸國ト共ニ早ク「ウエルタ」仮政府ヲ承認シ之ニ勢援ヲ与ヘタリセハ兎モ角モ墨國ノ騒乱ハ此処ニ一段落ヲ告ケ漸次秩序回復ノ機運ニ向ヒタルヘキニ大統領「ウキルソン」ハ事此ニ出テス無謀ニモ「ウエルタ」圧迫ノ政策ヲ執リタル為左ナクハ容易ニ「ウエルタ」ノ平定シ得ヘカリシ革軍ヲシテ徒ラニ其ノ勢力ヲ増長セシムルト共ニ一面ニハ又「ウエルタ」ヲシテ益々其ノ地歩ヲ死守スルノ必要ヲ感セシムルニ至リ遂ニ時局ヲシテ收拾スヘカラサル程度ニ紛糾セシメタルヲ以テ今日ニ於テハ最早手ノ出シ様ナク只タ成行ニ任スヨリ外ナシトスルモノナリ斯種ノ見ヲ持スルモノハ「ウエルタ」ヲ以テ適當ノ勢援サヘアレハ優ニ全國ヲ平定スルノ実力ヲ有スルモノトシ又今日ノ処「ウエルタ」以外ニハ此ノ実力ヲ有スルモノナシト假定スルモノニシテ中ニハ米國政府ト雖結局「ウエルタ」承認ヲ余儀ナクセラル、ニ至ルヘク其ノ曉ニ於テ初メテ騒乱鎮定ノ曙光ヲ認メ得ヘント為スモノモアリ此ノ第一ノ見ハ主トシテ在墨歐洲諸國官民ノ多数、在墨米人ノ一半、及墨國官軍側官民多数ニ依リテ維持セラ

權勢家ノ周圍ニ纏綿セル徒輩ノ外多数國民ハ曾テ政治ノ惠沢ニ浴スルヲ知ラス如斯ニシテ遂ニ民心ハ政治ヲ離レ懶惰放逸風ヲ成セルカ故ニ何人ニテモ一ヒ政權サヘ掌握スレハ直ニ内外走利ノ徒ト結托シ愚民ヲ籠絡シテ勝手ニ私利私慾ヲ計リ忽チニシテ巨万ノ富ヲ蓄フルノ自由ヲ有スルニ由ル故ニ少シク野心アリ手腕アル者ハ何レモ起チテ一ヒ政權ヲ掌握センコトヲ想フハ寧ロ自然ノ勢ナリトスヘク現ニ「ウエルタ」ノ如キハ其ノ適例ナリ会々多少濟世ノ志ヲ抱キテ奮起スル者アルモ其ノ一朝政權ヲ握ルニ及ヒテハ忽チ年来ノ腐敗政治カ馴致セル恐れヘキ勢利情実ノ前ニ叩頭セサルヘカラサルニ至ル「マデロ」既ニ然リ今復タ仮リニ革軍ノ首領「カラランザ」ヲシテ「ウエルタ」ニ代ラシムルモ何ノ異ル所カアラン故ニ此ノ根本ノ腐敗ニシテ一掃セラレサル限り老「ヂャズ」ノ如キ不世出ノ怪傑出テ、一世ヲ籠絡スルカ又ハ米國ノ実力ニ俟ツニアラサレハ墨國ノ騒乱ハ遂ニ終止スルノ期ナケン此ノ見地ヨリスル時ハ「ウキルソン」ノ「ウエルタ」ヲ承認セサルハ寧ロ達見ナリトスヘシト云フニ在リ此ノ見ハ主トシテ米人中ノ墨國通ノ一半歐人中ノ墨國通ノ一部ニ依リテ維持セラレ墨國人中ニモ亦内心

同見ヲ持スルモノ意外ニ多数ナルカ如シ

第三ハ墨国騒乱ノ原因ヲ以テ政治ノ腐敗ニ在リトスルニ於テ第二ト同見ナリト雖モ後者ノ現時ノ革命運動ヲ以テ何等根蒂アル国民ノ覚醒ニ基クモノニアラス畢竟少数野心家ノ煽動ニ因ルニ外ナラスシテ此等野心家窮極ノ目的ハ別ニ「ウエルタ」一流ノ輩ト異ルモノアルニアラストスルニ反シ前者ハ之ヲ以テ真個ニ根蒂アル国民の運動ナリトシ其ノ結局勝利ヲ得テ国内平定ノ事業ヲ大成スルノ誠意ト相応ノ準備トヲ有スルモノナリトスルノ点ニ於テ異ル彼等ノ言フ所ニ拠レハ近年墨国就中北半ニ於ケル民衆ノ間ニハ政治的社会的覚醒ノ機運漸ク熟シ叛軍側諸領袖ハ此ノ機運ニ乗シテ起レルモノニシテ夫ノ一身ノ榮光利達ノミヲ窮竟ノ目的トセル在来ノ野心家ト選ヲ異ニセルノミナラス深ク「マデロ」失敗ノ経験ニ鑒ミ一方民衆ヲシテ過度ノ空想ヲ抱カシメサルコトニ注意スルト共ニ断シテ在来ノ守旧党ト苟合以テ一時ヲ糊塗スルコトヲ排シ専ラ覚醒セル国民の勢力ニ拠リ新ニ立憲政府ヲ建設セントスルモノナルカ故ニ早晚成功スヘキ望ミ最モ大ナリ但シ其ノ一段階トシテ或ハ先ヅ北部墨国ノ分離独立ヲ見ルニ至ルヤモ知レズト此ノ見ハ主トシ

テ墨国北部諸州ノ有志又ハ之ト共同ノ利害ヲ有スル一般内外人ニ依リテ維持セラレ其他欧米ノ墨国通中ニモ多少ノ同見ヲ持スルモノアルカ如シ

巷説ニハ大統領「ウキルソン」亦此ノ見ヲ有スト伝ヘラル果シテ然ルヤ否ヤ暫ク記シテ疑ヲ存ス

以上ノ三見中何レカ果シテ最モ正鵠ニ近シトスヘキヤ容易ニ判定シ難シト雖本官ハ仮リニ之ヲ我見聞ノ事実ニ照ラシ少シク論評ヲ試ミントス

今日迄ノ実況ニ就テ之ヲ看ル官革兩派共ニ其ノ勢力ニ時々多少ノ消長アルヲ免レズト雖大体ニ於テ革軍派ノ主力ハ墨国北半ニ在リテ存シ（墨国北半ノ人民ハ所謂「ペオン」ノ階級ニ属スル多数少民ニ至ルマテ總シテ米国文明ノ感化ヲ受クルコト多ク其ノ智識慾求共ニ之ヲ南半ノ人民ニ比スレハ大ニ優レルモノアリト云フ革命運動カ主トシテ北方ニ起ルハ故ナシトセス）現ニ其ノ制御ノ下ニ在ルハ「ガイマス」ヲ除ク「ソノラ」州全部、「マザトラン」ヲ除ク「シナロア」州全部、「チウアウア」州一円、「コアウイラ」、「デユランゴ」兩州ノ大半、「ヌエボ、レオン」、「タマウリパス」兩州ノ一部、「デピック」地方ノ一部等ニシテ其他ニ

ハ南部墨西哥ニ於テ夫ノ「ザパチスト」ノ「モレロス」州ヲ根拠トシテ革軍ニ応スルアルノミ之ヲ面積ヨリスレハ全国ノ三分ノ一強ヲ占ムルモ人口ヨリスレハ僅ニ二百万内外即チ全国ノ七分ノ一内外ヲ制スルニ過キス而シテ經濟力ニ至リテハ十分ノ一ニモ及ハサルヘシト云フ其ノ余ハ免モ角今尚現仮政府統御ノ下ニ在リト言フヲ以テ勝敗ノ數ハ予見スルニ難カラサルカ如キモ實際ハ必スシモ然ラス寧ロ革軍ノ大体ニ於テ進取ノ勢ヲ示セルニ反シ官軍ハ輒モスレハ退守ニ傾カントスルノ觀ナキニアラス「ウエルタ」政府ハ昨年中現ニ八万ノ陸軍ヲ有シ近ク之ヲ十五万ニ増加スヘシト称シ本年二月ニ至リテハ更ニ之ヲ二十万ニ増加スヘキヲ布告シタルカ能ク實際ヲ知ルモノ、説ニ拠レハ右ハ何レモ虚喝ニシテ現役兵士ノ實數ハ精々五万ヲ出テサルヘシト云フ其ノ確否ハ知ルヘカラサルモ兎ニ角此等ノ兵士ヲシテ服役セシムルニハ日給一「ペソ」半ヲ与ヘサルヘカラスト云ヘハ之ニ要スル費額ノ少カラサル推シテ知ルヘク「ウエルタ」政府ノ財政ニ通スル者ノ説ニ拠レハ同政府カ今日現状ヲ維持シ行ク丈ケニテ少クトモ月千二百万「ペソ」以上ヲ要スル処收入ハ到底之ニ応スヘクモアラス去レハトテ外債

ハ到底見込ナク為ニ昨年来間税内地税ヲ激増シ紙幣ノ兌換ヲ停止シ又本年二月以降ハ外債利子（月額約百六十万円）

支払ヲ停止シ諸銀行諸会社又ハ一私人ノ富裕ナル者等ヨリ時々少額ノ短期借入金ヲ為ス等種ユル手段ヲ尽スモ其ノ財政ハ日ニ逼迫ヲ加フル一方ニシテ昨今ニ至リテハ一部官吏ノ俸給支払スラ停止シ以テ兵士給料支弁ノ急ニ応セサルヲ得サル程ナルヲ以テ此ノ一点ヨリ考フルモ彼カ果シテ能ク革軍討滅ノ功ヲ奏シ得ルヤ否ヤハ疑ハシトセサルヘカラサルカ如シ尤モ革軍ト雖決シテ財政裕ナルニアラス實際ニ於テハ其ノ窮迫或ハ官軍ヨリ一層甚シキモノアルヘシト雖之ヲ例ヘハ曩ニ清国ニ於ケル官軍兩派ノ争ノ如ク官軍派ノ失フ所多ク得ル所少キ地位ニ在ルニ反シ革軍派ハ失フ所少ク得ル所多キ側ニ立テルヲ以テ勢ノ利鈍日ヲ同フシテ語ルヘカラサルモノアリ從ヒテ今日彼等革軍ノ長驅前進直ニ首府ニ迫リテ官軍ヲ圧スルノ力ナシトスルモ其ノ叛乱ヲ繼續シ得ル丈ケノ力ハ意外ニ強大ナルモノアリト見サルヘカラス換言スレハ墨国騒乱平定ノ期ハ未タ決シテ近シトスヘカサルニ似タリ仮リニ其ノ何レカ早晚困憊ニ斃レ暫ク平定ノ外觀ヲ呈スルコトアリトスルモ墨国騒乱ノ根原タル腐敗政

治ニシテ一新セラレサル限り又忽チニシテ平和ハ破壊セラ
ルヘク而シテ「ウエルタ」カ此ノ政治一新ニ意ナク又其ノ
伎倆ナキハ彼レ及彼レノ与党カ就職以来何レモ其ノ私腹ヲ
肥スニ窮心スル外他ニ治績ノ見ルヘキモノナキニ徴スルモ
明ナリ（「ウエルタ」政府ノ内幕ニ通スルモノ、語ル処ニ
依レハ「ウエルタ」ハ既ニ少カラサル私財ヲ蓄積セルモノ
、如ク現ニ本年一月下旬其ノ私藏ニ係ル正金約三十万「ペ
ソ」ヲ一配下ノ者ニ托シ窃ニ他國ニ輸送セントシ「ヴェラ
クルズ」税関ニ於テ押収セラレタルノ珍事スラアリタリト
言フ其他現政府ノ文武顯官中昨日迄ハ無産ノ人タリシモノ
今日ハ有数ノ外国銀行預金者中ニ數ヘラル、モノモ少カラ
スト言フ）然ラハ仮リニ革軍側ノ「カランザ」ヲシテ之ニ
代ラシムルトセンカ彼レニ果シテ真摯ナル濟世ノ抱負経綸
アリ幾分覺醒ノ機運ニ向ヘリト云フ北部民心ヲ中堅トシテ
能ク大勢ヲ支配シ得ヘキ手腕アリヤ頗ル疑ハシク寧ロ異レ
ル標榜ノ下ニ結局同一事ヲ繰回ヘスニ過キサルヘシトスル
ノ事實ニ近キハ彼レカ過去ノ閱歷ニ鑒ミ一身ノ利慾以外何
等ノ抱負経綸アリトモ思ハレサル「ヴィヤ」「ウルビナ」
ノ如キ革賊ノ頭目ヲ拉シテ其ノ部將タラシムルノミナラス
動モスレハ斯輩ノ指揮制御ニ圧迫セラレントスルモノアル

日迄ハ軍艦ヲ派遣シ置カサルヘカラストナラハ之ヲ無期限
ニ派遣シ置ク覚悟アルヲ要スヘシ

尚若シ今後形勢ノ変化ニ依リ實際重大ナル危険ノ生スルニ
当リテ最モ有効ニ墨國在留外人特ニ日本人ヲ保護スルノ実
力ト準備トヲ有スルハ蓋シ米國ナルヘク現ニ今日ト雖墨國
各地ニ最モ多ク領事館ヲ有スルハ米國ニシテ且各地通信聯
絡ノ便ヲ有スルコトモ亦最モ大ナルカ故ニ米國々境ノ「ボ
ルフィリオ、ヂャズ」市附近等英國領事ノ駐在セサル地方
ニ在留スル邦人ハ固ヨリ英國領事館所在地方ニ在留スル邦
人ト雖從來ノ如ク英國領事館ノ保護ニ依頼スルヨリハ寧ロ
米國領事館ノ保護ニ依頼スルヲ以テ更ニ便宜ナリトスル事
情アリト思料セラル

墨國出張復命書附録第一号

伊藤書記生報告

墨國北部國境附近ニ於ケル邦人ノ現状其他

小官ハ大正三年二月十八日米國「フロリダ」州「ジャクソ
ンヴィル」ニ於テ埴原書記官ト別レ米墨國境ニ向ヒ、同月
二十日午後七時半「テキサス」州「サン、アントニオ」ニ
於テ墨國「コアウィラ」州「パラウ」炭坑地在留東洋移氏

カ如キニ見ルモ想像ニ難カラス惟フニ墨國民ハ如斯ニシテ
遂ニ自ラ他ノ干渉ヲ招カسنハ息マサラントスルモノニア
ラサルカ今日米國政府及國民ノ多數カ墨國ニ向ヒテ武力干
渉ヲ加フルヲ欲セサルハ左モアルヘキ事ナリト雖墨國ノ事
態ニシテ到底内ヨリ之ヲ救済スルノ望ミ少シトセハ米國ハ
其ノ欲スルト否トニ拘ラス早晚干渉ヲ余儀ナクセラル、ニ
至ルコトナキカ本官ハ前記第二ノ見ノ或ハ正鵠ニ近キモノ
アランヲ慮ル、モノナリ

因ニ墨國ニ於ケル有力ナル内外実業家及大地主等ノ間ニ
ハ平和サヘ確保シ得ラルヘクンハ米國ノ干渉敢テ辞セス
トスルモノト又平和ハ切ニ之ヲ欲スルモノヒ米國ノ干渉
ニシテ行ハレンカ復タ私利私朋ノ擅行ヲ許ササルヘキヲ
以テ自家ノ利便擁護上飽迄旧制ノ回復維持ニ力メサルヘ
カラストスルモノトノ二派アルモノ、如ク而シテ墨國ニ
利益ヲ有スル米國人中ニスラ此ノ後者ト希望ヲ同フスル
モノ意外ニ少カラスト云フ

要之墨國騒乱ノ果シテ何レノ日ニ平定スヘキヤハ今ニ於テ
予見スルコト難シト言フヘク從ヒテ在留民保護ノ為實際必
要ノ有無ト其ノ効果如何トハ暫ク措キ兎モ角モ騒乱平定ノ

合資会社出張員森醇一並ニ同州「シウダド、ボルフィリオ、
ディアス」ニ酒保ヲ當メル愛媛県人寺沢福太郎ノ兩人ト会
合セリ、蓋シ前者ハ在墨安達公使及ヒ其支店ヨリ予メ電信
ニテ打合せアリ後者ハ森ト共ニ在「コアウィラ」州邦人ノ
現状ヲ報セン為メ國境「イーグル、パッス」ヲ經テ此地ニ
來リ小官ヲ待合セタルナリ、依テ小官ハ右兩人ト「スポッ
フォード」迄同車シ約五時間彼等ノ報告ヲ聴ケリ、今其要
領ヲ摘記セン

昨年々初頃ニ於ケル「コアウィラ」州在留本邦人ノ數ハ約
六百四十名余ニシテ左ノ如ク分布セリ

「パラウ」炭坑	Palau	二三〇名（「ラス、エスベ」 「ランサス」炭坑）
「コンキスタ」炭坑	Conquista	三〇〇
「フィニックス」	Phoenix	五〇〇
「ロシタ」	Rosta	八〇〇
「クロエテ」	Cloete	四〇〇
「アグヒータ」	Aguita	一五〇
「リオ、エスコ ンディド」	Rio Escondido	七〇〇
「ムスキス」	Musquiz	一四〇
「クチャーヤ」	Cuchilla	一四〇

「ポルフィリオ、 Ciudad
ディアス」 Portirio Diaz 四〇名
「サン、カルロス」 San Carlos 一〇〇名
其他各地 四〇名

然ルニ騒乱ノ結果

「フィニックス」炭坑ハ昨年四月事業休止ノ為内

「二十名ハ「サン、カルロス」耕地ニ

「二十名ハ「シ、ピ、ディアス」ニ行ケリ

「ロシタ」炭坑ハ六月ヨリ休止ニ付各自各所ニ退散シ

「クロエテ」「アグヒータ」炭坑モ同様ノ運命ニテ各人

退出シ

「リオ、エスコンディド」ニ於ケル多数ハ「サン、カル

ロス」耕地又ハ「シ、ピ、ディアス」ニ行キ

「パラウ」炭坑

ハ七月ヨリ休止ニ付九月三日ニ百

二十名同月二十七日ニ五十名ヲ

「コンキスタ」炭坑「サン、カルロス」耕地ニ送リタリ

其他ニ尚多少ノ移動アリタルガ現在調査シ得ル数ハ

「パラウ」及「ムスキス」附近 約百七十名

「シ、ピ、ディアス」附近 約二百名

「サン、カルロス」耕地 約六十名

官軍雇兵（義勇兵ト称スルモノ）約五十名
一日一円ノ制ニテ雇
上給料不払ノ由ナリ

県人甚ダ多ク、又タ彼等ハ皆ナ墨人ノ呼名ヲ附セラレ居ル
由ナリ）

又タ「サン、カルロス」耕地ハ「ラス、エスペランサス」

炭山ノ移民ヲ一時之レニ移サン為メ前記森醇一専ラ之レガ

周旋ニ勉メタルモ何分一日ノ給料一円ニ滿タズ炭坑労働ニ

慣レタルモノハ斯ル僅少ノ労銀ニ甘ンセズ頗ル不満ノ有様

ニテ之ニ赴キシガ實際就働ノ結果耕主ハ約束以上ニ好遇シ

賃金モ一円以上ヲ仕払ヒシ為メ尚ホ続々同耕地ニ赴カント

欲スルモノヲ出セルヲ以テ森ハ再ビ其交渉ノ任ニ当リタル

由ナルモ移民側ニ於テ到着ノ期日ヲ違ヘシト其後間モナク

事業ヲ休止シ耕主ハ米國ニ避難セル為メ遂ニ其目的ヲ達ス

ルニ至ラザリキ

「シウダド、ポルフィリオ、ディアス」附近ニ在ル本邦人

モ其収入平日ノ如クナラズ又タ労働者ノ需用少キヲ以テ三

々伍々或ハ小農地ニ就働シ或ハ家内労役ニ服シ或ハ小商売

ヲナシ又ハ河岸ニ穴居シテ漁業ニ従事（穴居ハ家賃ヲ要セ

サル為メ）シ居ルモノアリ、決シテ安楽ナル生計ヲ営メル

ニアラスト雖、現ニ糊口ニ窮シ救恤ヲ要スルガ如キモノモ

亦尠シ彼ノ前日在墨公使館ニ救助ヲ願出デシモノ、如キモ

同上第四十二聯隊歩兵

約三十五名
一日一円五十仙衣食
官給ニテ六ヶ月ノ製

同上義勇兵

二名「ムスキス」附近ニ
十数名ノ内三名死ビシタリト
アリ給料前払

叛軍兵士

其他「ロシタ」「クロエテ」附近ニ散在スルモ其数詳ナ

ラズ

要スルニ炭坑、耕地及軍隊以外ノモノハ各自商、漁業、家
内労働ニ従事シ衣食ニ窮シ居ルモノハ甚ダ尠ナク「パラウ」
炭坑ノ如キハ近日事業ヲ再始スル筈ニテ目下着々準備中ナ
レバ該地ニ於ケル邦人ハ満足ニ労働シ且ツ彌々事業開始ノ
上ハ続々帰来スルモノアルベシト予期セラル

騒乱ノ始メニ於テ急ニ就働口ヲ失ヒタルモノノ内三十余名
ハ叛軍ニ投ジ糊口ノ途ヲ得ントセシガ其後叛軍ノ勢ヒ日ニ
否トナリ昨年九月末迄占頗セシ「シ、ピ、ディアス」市サ
ヘ十月六日ニハ官軍ノ手ニ歸シタルヲ以テ彼等邦人ハ官
軍ノ為メ虐殺サレンコトヲ虞レ自ラ官軍ニ投シ雇官兵トナ
リシヲ始メトシ爾後百名近ク迄官兵トナリ比較的容易ニ勞
銀ヲ得ントセシモ給料仕払ノ滞ルコト多キ為メ容易ニ脱隊
スルコトヲ得ス困ジ果テ居ル由ナリ（因ニ兵士中ニハ沖繩

目下差迫リタル窮乏ヲ感ジ居ルニハアラザルモ唯々何トナ
ク心細サノ余リ公使館ニ依頼セハ何トカ安心ノ途ヲ得ラレ
ンカト思惟シタルニ過キス

尚ホ墨國人ノ本邦人ニ対スル感情ハ至ッテ良好ニシテ今日
迄ハ官叛何レノ兵士ヨリモ迫害ヲ受ケタルモノ之レナシト
雖、現状ニシテ極限ナク永續スルカ或ハ昨今頻リニ噂セラ
ル、如ク叛軍ガ「トレオン」市ヲ奪取シ勢ヒ此地方迄モ兵
禍ノ及ブコトアランカ、如何ニシテ自活ノ途ヲ求メ、將タ
誰レニ保護ヲ依頼センカハ不絶同胞ノ痛心スル所ナリ、在
墨公使館ヨリハ有事ノ際英國領事ニ保護ヲ依頼セヨ、英國
軍艦ニ避難セヨトノ訓示アリシモ此地方ニハ英國領事ノ駐
在スルモノナク、又タ英艦ニ避難センニハ「タムピコ」港
ノ余リ遠距離ニ在ルヲ如何セン、依テ在留同胞ノ切望スル
所ハ太平洋岸ノ在留邦人が軍艦ノ派遣ニヨリ大ニ慰安ヲ受
ケタル如ク、可成至急外務省吏員ノ来リテ彼等ヲ慰問シ、
彼等ノ現状ヲ調査シ将来ヲ策スルト同時ニ常ニ国境ノ内外
ニ於ケル出来事ニ注意シ、必要ノ際ハ米國領事ニ保護ヲ依
頼シ或ハ一時米領内ニ避難スルノ方法ヲ講セラレタキコト
之レナリ云々

二月二十一日午後六時四十五分「エル、パソ」ニ到着ス、先是「シカゴ」ヨリ出張シ居ル馬場書記生宛小官ノ到着ヲ電報シ置キシヲ以テ同書記生ハ在留邦人数名ト共ニ同地停車場ニ小官ヲ待受ケ居リシト雖如何セン停車場時間僅カニ半時間ニ充タサリシヲ以テ何等ノ打合せヲナスヲ得ス分袖シタルハ甚タ遺憾ナリキ

× × × × ×

二月二十二日午後「ノガレス」着、此地米墨兩國ニ跨リ僅カニ東西ニ貫通スル街路ヲ境トシ北ヲ米國「アリゾナ」州トシ南ヲ墨國「ソノラ」州トス人戸僅カニ六千人位其七割ハ墨人ニシテ一割ハ米人他ハ支那人、仏人、葡人、猶太人等ナリ（墨人ノ官軍ニ同情スル避難者ハ米境内ニ在リ叛軍ニ属スルモノハ墨領内ニ在リ互ニ相交通セズ）本邦人ノ此地ニ在ルモノ

「ソノラ」州「ノガレス」

七人 小酒店一人 小酒店一人

「アリゾナ」州「ノガレス」

三人 商人一人 無職一人

小官ハ到着匆々墨国内ニ入り米國領事ヲ訪問シタレトモ生憎日曜日ニテ面会スルヲ得サリシヲ以テ更ラニ日本人ノ所

ナク頗ル平穩ニ渡世シ居レリ、今其一証トシテ拳ゲンカ同地ニハ日本会ナルモノ組織ヒラレ会頭ハ M. Fukunaga, Calle de Guerrero no. 21. Hermosillo, Sonora, Mexico ナルガ本國樞島ノ慘事ヲ聞キ自分等ガ戦乱ノ地ニ在ルヲ忘レ義捐金ヲ募リ今ヤ正副会頭之ヲ携帶シテ「ノガレス」ニ来ラントシツ、アリ、決シテ外部ニテ案ジ居ル程彼等ハ危険ヲ感ジ居ラサルナリ云々又タ

「カナネア」ニハ本邦人五十名程アリ（内二十五名位は商業婦ナリ）

「マグダレナ」ニハ二十四五名（商店四五軒アリ酒店一軒、残りハ労働者）

其他尚ホ四五十名ノ本邦人各地ニ散在ス

前記金子ハ「ソノラ」州ノ前途甚ダ有望ナルコト、本邦人事業ノ起シ易キコト、憲政軍ノ現状等ヲ説明シタル後チ小官ニ語リテ曰ク

最近一週間迄ハ米領内ニ在ル日本人ガ墨国内ニ入ルコト頗ル容易ナリシガ最近ニ至リ國境ニ移民官ヲ派シ之ヲ通過セントスル本邦人ヲ拒ンテ入國セシメズ、米國人ノ或ル者ハ之ヲ解釈シテ日本人中「ウエルタ」派ノ間諜アルヲ恐レテナラント云ヒ、或ハ日本ガ「ウエルタ」政府ニ武器ヲ供給シタル為メ憲政軍ノ惡感ヲ招キシ為メナリト

在ヲ訪ネ同タ小官ノ宿所ニ来ランコトヲ依頼シ一旦米領ニ歸リタ刻再ヒ墨領ニ入り夕食ヲナセリ

同夜本邦人金子建一郎ナル者来訪同人ハ数年「バンクーバー」及「ロス、アンゼルス」ニ在留セシガ数ヶ月前ヨリ此地ニ来リ（American-Mexico Produce Exchange Co. P. O. Box 96, Nogales, Arizona）ノ名義ヲ以テ墨國物産買出シノ為メ「ソノラ」州「エルモシーヨ」附近迄屢々旅行セシヲ以テ該地方ニ於ケル本邦人ノ現状ヲ詳知セリト云フ今其語ル所ヲ略記センニ

「エルモシーヨ」市ニハ日本人男九十名女一名アリ何レモ

三ヶ年前程無一文ニテ此地ニ来リシモノナルガ彼等ハ頗ル向上心ニ富ミ勤儉力行ノ結果悉ク相応ノ成功ヲナシ目下二十軒ノ商店ヲ有スルニ至リ（酒保、理髮店、料理店、雜貨店、牛乳屋（牛五十頭ヲ有ス）等）丸山「ドクトル」最モ著ハル、墨國人ノ氣受ケ頗ル好ク日、墨、支三人相並ビテ同種ノ商店ヲ開ケバ日人商店ノ繁昌スルニ引替ヘ他ノ二商店ハ必ラス破産ニ瀕スト云フ位ナリ、從テ今日迄何等ノ迫害ヲ蒙ラズ戦費ノ徵発ヲ受クルコト墨人ニ比シ非常ニ尠

云ヒ、又タ或ル者ハ憲政軍ノ首領「カランサ」ガ米國ノ歡心ヲ買ハンタメ加州ニ倣ヒテ東洋人排斥命令ヲ發シタルニ由ルト所説紛々タリト雖、邦人ノ新タニ入國シ得サルハ事實ニシテ現ニ余モ亦此厄難ニ遭ヒタレドモ狂氣セラルガ如キ彼等ニ對シ理ヲ以テ勝タントスレハ却テ後難ノ患ヒナシトセズ故ニ間接ニ或ル手段ヲ講ジ余一人ノミハ國境ヲ出入シ得ルコト、ナレリト

翌二十三日小官ハ早朝米國領事ヲ訪ハントテ態々移民官ノ前ヲ横キリ國境ヲ過キタリト雖何等誰何スル者ナカリキ依テ米國領事ニ對シ斯ル命令ノ存否如何ヲ尋ネタルニ支那人ガ一般ニ墨人ヨリ嫌惡サレ居ルト西班牙人ガ「チウアウア」州ニ於テ憲政軍ノ惡感ヲ招キシ為メ兩國人が其入國ヲ禁止サレ居ル事實ハアレドモ日本人ニ對シ斯ル命令ノアルヲ知ラズト答ヘタリ依テ小官ハ同領事ヲ勞シテ墨國移民官ノ事務所ニ至リ此種命令ノ存否ヲ尋ネタルニ同主任官ハ頗ル激昂タル口調ヲ以テ「然リ」ト答ヘタリ、其理由ヲ聞ケバ彼ハ唯「日本本ハ「ウエルタ」政府ヲ承認シタレトモ憲政軍ヲ承認セザルガ故ナリ」ト答フルノミナリト雖其間ハズ語リニ言フ所ニヨレバ（而シテ憲政軍ヲ承認シタル國ハ未ダ

アラズ)

日本ハ武器ヲ「ウェルタ」ニ供給シタリ、答札大使ヲ歡迎セリ、軍艦ヲ派遣シ到ル処御祭リ騒ギヲナセリ、カ、ル国人ハ「ヴェラクルス」又ハ「マンサニーヨ」ニハ自由ニ出入スルヲ得ベケレドモ憲政軍ノ所在地ニハ入ルヲ得ズトテ暗ニ日本ガ官軍ニ同情スルノ不満ヲ洩シタリ

依テ小官ハ此命令ナルモノ、原文ヲ得シコトヲ求メタルモ彼ハ之レニ応ゼザリキ(實際カカル命令ハ發布セラレズ單ニ口頭ノ訓令ナルラシク察セラル)小官ハ之レ以上更ラニ深く立入りテ質問スルノ必要ヲ認メザリシニ付勿々ニシテ辭シ、万一ノ場合邦人ノ保護ヲ米領事ニ依頼シ「ノガレス」ヲ去リ「ツーソン」ヨリ安達公使宛「日本人禁止ハ事実ナリ」ト簡單ナル電報ヲ發シ尚ホ委細ヲ停車場ニテ書面ニ認メ報告セリ

尚ホ上記金子ノ談ニ拠ルニ從來「エルモシーヨ」在留日本人宛公使館ヨリ来リシ郵便物ハ往々ニシテ没収セラレシ形跡アリ故ニ今後ハ可成同人宛文通セラル、ヲ安全トス、又タ今日ノ實際ニ見ルニ「カランサ」政府ト交通シ居ルハ米國領事ノミニシテ現ニ「シウダド、ホアレス」ニ於ケル英

外務書記生 伊藤 敬一

五五〇 三月十八日

在墨國安達公使ヨリ
牧野外務大臣宛

墨國外相ノ墨國時局ニ関スル悲觀的談話報告

ノ件

附屬書

三月十三日附墨國農務及殖民大臣ヨリ安達公使

宛書翰和訳文

日本移民歡迎ニ関スル件

機密第一二号

(四月二十九日接受)

大正三年三月十八日

在墨國

特命全權公使法学博士 安達峯一郎(印)

外務大臣男爵 牧野 伸顯殿

本月初頃ノ事ナリシ当地三井物産会社代表者高木舜三氏来館軍務大臣ヨリ軍艦一隻購入方斡旋ノ依頼ヲ受ケタルコトヲ告ゲ尚ホ同大臣ノ話ナリトテ此事ニ関シテハ何レ大統領ヨリモ日本公使ヲ訪問ノ上親シク面談セラルル筈ナリトノコトナリシガ大統領來訪アリタルヤト尋ネタルニ付本使ハ未ダ其事ナキ旨ヲ答ヘ置候処其後今日迄未ダ大統領ノ來訪

人「ベントン」銃殺事件モ専ラ米國領事ヲ煩ハシ居ル事實ヨリ見ルモ有事ノ日邦人ノ保護ヲ依頼シ得ルハ唯米國領事アルノミトノコトナリシガ米國領事モ亦別レニ臨ミ「到底充分ナルコトハナシ難キモ自分ニ出来得ルコトハ何ナリトモ致スベキニ付左記宛通信アリタシ」ト申述ベタリ(「ノガレス」ニハ米國領事館アルノミナリ)

Frederick Simpich, Consul of the United States of America. P. O. B. 511, Nogales, Arizona, U. S. A. (態ト墨領「ノガレス」ノ宛名ヲ避ケタリ)

× × × × ×

〔附記〕小官「サン、アントニオ」ヨリ「ロス、アンゼルス」ニ至ル間ニ前後五回米國移民官ノ為メ旅券ノ檢閲ヲ受ケタリ、桑港ニ到着ノ後同地方ニ赴キシ邦人ニ就テ聞クニ此等移民官ノ我ガ邦人ヲ待遇スルコト頗ル暴慢ヲ極メ旅券ヲ提示セザレバ逮捕スルナド嚇スコトアリ何故同一人ニ就キ度々同様ノコトヲ繰回スヤヲ問ヘバ日本大使館ノ要求アリ詳細ナル報告ヲ要スト答フル由ニテ大ニ不愉快ヲ感ズトイフ

大正三年三月十六日、日本丸船上ニテ

無之候又本月十三日農務及殖民大臣「タマリス」氏ヨリ別紙写ノ書翰ニ接シ候之ニ拠レバ大統領ハ墨國政府ガ墨國ノ道德上及經濟上ノ發達ニ資スル移民ヲ奨励スル計畫ヲ有スルコト並ニ日本人ハ墨國政府及人民ノ所有同情ヲ有スルヲ以テ大統領ハ日本帝國ヨリ墨西哥國ニ健全ニシテ勤勉ナル移民ノ流入センコトヲ希望セラル、コトヲ公文ヲ以テ本使ニ聲明スベキ旨外務大臣ニ命ゼラレタル趣ニ候処外務大臣ヨリハ未ダ之ニ関スル公文ニ接到致サズ候

本月十六日外務大臣「ボルチイヨ」氏ハ数日前當館ニ於テ晚餐ノ饗應ヲ受ケタル挨拶ノ為メ來訪有之候ニ付或ハ前記軍艦購入ノ事及ビ日本移民歡迎ノ件ニ関シ何等カノ談話アラシカト期待シタルモ会谈ニ時間ノ長キニ及ビタルニ拘ハラズ終ニ此等ノ事ニ言及スルコトナク時局談及雜談ニ時ヲ移シテ立歸ラレ候其中談時局ニ及ビタルトキ同大臣ハ意氣甚ダ銷沈セル口氣ヲ以テ先ヅ墨國ノ前途如何ニ可相成ヤヲ知ラズトノ冒頭ヲ置キ北方ノ叛徒ハ其首領間ニ乘離ヲ生ジタルコト近時益々明白トナリタレバ彼等ガ當首府ヲ略奪スルガ如キコトハナカルベシト信ズルモ顯ミテ現政府ノ財政ヲ見ルニ益々困難ヲ加フルノミニシテ頃日来苦心慘憺ヲ重

ネタルモ内外債共已ニ望ナク唯尚増税スルノ一途アルモ是トテ果シテ予期ノ増収ヲ獲ラル、ヤ甚ダ覺束ナク又米國ノ對墨政策ハ依然トシテ変改セザルノミナラズ現状維持ノ上ニ於テ多少好意的態度ヲ望ムモ亦得ベカラザル次第ナリ而シテ歐洲列強ノ形勢ヲ視ルニ英國公使「カルデン」卿ハ今回墨國ノ政況報告ノ為メニ歸國シ本月十七日英京出發歸任ノ途ニ就キタル由ナルガ同國ノ米國ニ對スル關係ニ鑑ミ同國ガ率先シテ墨國ノ時局ニ援助ヲ与フベシトモ思ハレズ独仏諸國亦何等ノ望ヲ繫クコト能ハズ甚ダ心細キ次第ナリト述ベ畢リ少シク語氣ヲ一転シテ唯ダ聊カ人意ヲ強フスルニ足ルハ大統領ノ時局ニ對シ極メテ樂觀的ニシテ必ズ平定ノ目的ヲ達スベシトノ強固ノ信念アルコトノミナリ本日モ謁見シテ親シク長時間會談スル所アリシガ大統領ハ平然トシテ極メテ冷靜ナル態度ヲ持シ乃公ニ非ズンバ此ノ難局ヲ救フ能ハズト云フガ如キ概アリタリ本大臣ニ於テモ目下朝野ノ人物ヲ通覽スルニ此ノ難局ニ当ルニ足ルハ現大統領ヲ措テ他ニ其人ナキヲ信ズル者ナレバ同大統領ノ自ラ此ノ如キ強固ナル信念ヲ有セラル、ハ其レ或ハ時局ノ前途ニ向テ一

道ノ光明ト謂ヒ得ベキ歟云々ト語ラレ候

日本國

於墨府 エ、タマリス

特命全權公使 安達峯一郎閣下

五五一 三月二十五日

在墨國安達公使ヨリ
牧野外務大臣宛

墨國官叛両軍ニ本邦人參加防止方ニ付請訓ノ

件

機密第一六号

(四月二十九日接受)

大正三年三月二十五日

在墨

特命全權公使法学博士 安達峯一郎(印)

外務大臣男爵 牧野 伸顯殿

墨國內亂繼續ノ結果北部諸州在留本邦人ニシテ糊口ニ窮スルノ余往々官軍若クハ叛軍ニ投シテ兵卒トナルモノ有之現ニ過般「コワウキラ」州在留本邦人ヨリ同地方在留同胞ノ官軍ニ投シ居ル者約百名叛軍ニ在ル者数名ナリトノ報アリテ其安否ニ關シテハ甚タ憂慮シ居リタル所ニ有之候処此頃「モンクロヴァ」州近ノ激戦ニ當リ日本人兵ノ戦死三負傷四アリタル旨「コワウキラ」州「ピエドラス、ネグラス」

右ノ如ク外務大臣ガ時局ニ関スル極メテ悲觀的感想ヲ本使ニ述ベラレ恰カモ其苦境ヲ訴フルガ如クナリシハ或ハ前記軍艦及移民ノ件ニ関スル話頭ヲ本使ヨリ誘出セントノ底意アリシニ非ズヤト付度セラレシモ事極メテ機微ニ涉リ候ニ付本使ニ於テモ心付カザリシモノ、如ク装ヒ何等之ニ話及セザリシ儀ニ有之候

右御參考迄及報告候 敬具

註 別紙農殖民大臣來翰寫省略

(附屬書)

墨國農務及殖民大臣ヨリ安達公使宛書翰和訳文

日本移民歡迎ニ関スル件

拜啓陳者墨國政府ニ於テ墨國ノ無形上及經濟上ノ發展ニ至大ノ影響ヲ來スヘキ移民ヲ普ク奨励スルノ意思有之候処日本移民ハ墨國官民ノ所有同情ヲ有スルヲ以テ日墨兩國間ニ健全ニシテ勵精ナル移民渡來ノ潮流ノ開設セラルコトハ大統領自身ニ於テモ大ニ之ヲ歡迎致ス旨ヲ外務大臣ヨリ公式ニ閣下ニ御通告致候様同大統領ヨリ下命相成候事ヲ茲ニ閣下ニ御通知スルハ本官ノ深ク満足ニ堪ヘサル所ニ有之候右得貴意候 敬具

一千九百十四年三月十三日

市在留寺沢某ヨリ電報アリタル次第ハ本月十九日付拙電第八十九号ヲ以テ及報告置候ニ付已ニ御了知ノ事ト存候本件ニ関シテハ曩ニ在米大使ヨリ転電アリタル一月二十日付貴電第十一号ヲ以テ御訓示ノ次第モ有之候ヘ共前記ノ兵士ト為リタル者ノ事情ヲ聞クニ何レモ久シク飢饉ニ迫ラレ已ムヲ得ス糊口ノ途ヲ軍隊内ニ求ムルニ至リタル者ニシテ決シテ他外國人ノ如ク冒險的志望ニ驅ラレテ從軍スル者ニハ無之(獨公使ノ内話ニ依レハ先頃迄当地ニ在リ商業ニ從事シタル数名ノ獨人ハ頃日北方ノ叛軍ニ投シ二人ハ大佐、一人ハ中佐、二名ハ少佐ト為リ大ニ歛待セラレ權威ヲ振ヒ居ルガ孰レモ「ガリバルヂー」ノ先例ヲ慕ヒ友人ノ忠言ヲ排シ北方ニ赴キタル者ノ由仏伊人等ノ北方叛徒ニ從軍シ居ル者概ネ此類ナリ)誠ニ憫ム可キ者ニ有之候得バ之ヲ其儘ニ差措クコトハ決シテ國家ノ義務ヲ尽シタルモノト謂フ能ハサル儀ト存候就テハ同地方ニ於ケル失業者ニ對シテモ「ホワレス」及「チワワ」両市ノ例ニ依リ之ヲ救護シテ其ノ兵士ト為ルヲ防止シ已ニ兵士ト為リ居ル者ハ各々其ノ希望ニヨリ漸次其本業ニ返ラシムルコトニ御方針御確立相成候様致度而シテ愈々右ノ御方針御確立上ハ其實行ニ相當ノ費用ヲ

要スルハ申迄モナク又実況ヲ調査シテ根本的救護ノ方法ヲ講スルノ必要有之候ニ付前便公第三七号ヲ以テ「ホワレス」市駐在員ニ関シ具申致置候荒井書記生出張ノ際之ヲ処理セシメ度存候ニ付本件至急御詮議ノ上何分ノ御回訓相成度此段及稟請候 敬具

五五二 三月二十七日

在墨国安達公使ヨリ
牧野外務大臣宛(電報)

北墨地方ノ邦人失業者「メキシカリ」転住ニ

付馬場書記生ノ措置報告ノ件

第九四号

最近馬場書記生ヨリ来電ノ要領左ノ如シ

日本政府カ官軍ニ同情シ居ルヤノ風説アリタル際日本人 Calixico 移住ハ政府ノ発意ニ依ルモノナリトノ新聞記事ト日本人ノ入国禁止問題ニ付キ米國領事ヲ通シテ叛軍幹部ニ質問ヲ提出セル事実ハ相待テ叛軍幹部ノ本邦人ニ対スル反感ヲ挑発セル様觀察セラルルニ付テハ今回小官カ当地ニ出張セルコトヲ成ルヘク叛軍ニ秘シ置キ失業者移住ノ件ハ表面上土屋及「スミ」ヲシテ実行セシメ政府ハ単ニ彼等ノ請願ニヨリ米國通過ノ件ヲ取計ヒタルニ過キササルコトヲ叛

動シタシ米墨兩國ノ妥協ヲナスハ形勢既ニ明ナリ云々本店ヘ電報アリ三井ヨリ政府ノ意向伺出タルニヨリ此場合新注文ノ契約ハ断シテ不可ナル旨申聞ケ置キタリ右御参考迄ニ申進ス尤モ本件ニツキ何等御意見アラハ御申越アレ
右安達公使ヘモ転電アレ

五五四 三月二十九日

在墨国安達公使ヨリ
牧野外務大臣宛(電報)

出雲墨國「クリアカン」ニ来港セバ大歓迎ス

ベシト革命軍ヨリ申出ノ件

第九七号

Culiacan 在留奥村ヨリ革命軍司令官 Nebo 出雲来港セハ大歓迎ヲ為スヘシト同人ニ洩ラシタル旨在桑港總領事ヲ經テ電報アリタルニ付本使ハ之ヲ艦長ニ転電スルト同時ニ此際叛徒ノ歓迎ヲ受ケサル方大局上穩当ナルヘシト思考スル旨ヲ附言シ置キタル処艦長ハ奥村ニ対シ小生病後恢復期ナルト石炭補充ノ為 Altata ニハ一晝夜以上停ル能ハス好意ハ謝スル所ナルモ可然御伝ヘアリタシト發電シタル趣「マザニヨ」出張中ノ武富ヨリ電報アリタリ尚出雲ハ四月一日「アルタタ」ニ寄港同地ヨリ士官二名卒一名ヲ上陸セシ

一九 「メキシコ」革命動乱関係一件 五五四 五五五

軍ニ諒解セシムル考ナリ但シ目下叛徒ヨリ何等ノ妨害ナク且ツ右ノ方法ニヨリ実行セハ将来モ障害ナカルヘシト思ハル以上ノ次第ナルニ付此ノ際強テ急ニ事ヲ行ハントスルコトハ却テ障害ヲ醸スヤノ懸念アルニ付キ極メテ自然的ニ時機ヲ待ツテ実行スルコト最モ然ルヘシト思ハル「チワワ」トハ未タ交通ノ機關杜絶セルカ「チワワ」ニ於ケル移住希望者ハ既ニ万事承知シ居リテ便アリ次第 Juarez ニ来ル予定ナリ Juarez ヨリノ移住者ハ七十三名ナリシモ真ニ困難セルモノハ再ヒ厳密調査ノ結果及一時ニ多数ヲ出發セシムルノ不利ナル目下ノ状況トニ鑑ミ差当リ四十四名土屋同伴シテ二十三日出發セシメタル処二十四日 Mexicali ニ著ニ十五日耕地ヘ配布セル旨同人ヨリ電報アリタリ

五五三 三月二十八日

牧野外務大臣ヨリ
在米國珍田大使宛(電報)

三井ノ墨國官軍側ヘノ山砲売込ハ不可ナル旨

申聞ケタル件

第八九号

在墨西哥三井代表者ヨリ「トレオン」会戦ニ於テ官軍勝利ヲ得バ四五千万ノ内債募集成功ノ見込ニツキ山砲売込方運

メ Culiacan ニ至ラシメ叛徒占領地内ニ於ケル日本人情況ヲ觀察セシムル筈ニテ本使モ同意シ置キタリ詳細ハ艦長ヨリ海軍大臣ニ発シタル電報ニ就キ御了知ヲ請フ

五五五 四月九日

在墨国安達公使ヨリ
牧野外務大臣宛(電報)

北墨邦人失業者転住ニ関シ馬場書記生ノ「カ

レキシコ」出張ヲ稟請ノ件

第一〇四号

往電第九四号ニ関シ更ラニ「チワワ」ノ移住者及「ホアラス」残留ノ者合計六十五名本月三日「エルパソ」発四日「メキシカリ」ニ着シ之レニテ全部ノ移住ヲ終ル旨五日馬場来電アリ然ルニ本件ハ既ニ帝國政府ニ於テ輸送中及移住後米國潛入ノ恐れニ付キテハ責ハ負ヒ難キモ十分注意スヘシト宣明シアル趣意ニ鑑ミ是非馬場ヲシテ「カレキシコ」ニ出張其ノ辺ノ措置ヲ為サシムル必要アリト存シ居リシ処前記馬場来電ニ依レハ現ニ「カレキシコ」米國移民官ノ希望モアリ移住者統一指揮ノ機關トシテ「ジャパニース、コロニー」ヲ組織セシメタキ希望ナルモ同人市俄古出発前領事ト事務打合せノ事情アレハトテ在留民「スミ」ヲ「カレ

キシコ」ニ出張セシメ前記用務及残務ヲ処理セシメタシト
ノコトナリ依テ本使ハ前記馬場出張ヲ要スル事情ヲ市俄古
領事ニ訴ヘ帰任方猶予ヲ請ヒタルモ同領事ニ於テハ年度末
会計事務ノ整理上此ノ上帰任ヲ猶予セシメ難ク今後ハ桑港
領事館ヲシテ監督セシメラルル様致サレタキ旨回電アリ移
住後将来ノ監督ハ別トシ此ノ際ハ前記帝國政府宣明ノ趣旨
ニ照ラシ是迄ノ成行ヲ熟知セル馬場ノ出張ヲ絶対的ニ必要
トスル次第ニ付キ市俄古領事館会計事務ノ都合ハ十分諒セ
ラルルモ尚本件ヲシテ九俣ノ功ヲ一簣ニ欠カサラシムルコ
トノ重要ナルコト及出張ニ要スル時日十日ヲ越エサルコト
ヲ御諒察相成リ馬場出張方ニ付何分ノ御配慮ヲ懇願ス尤モ
本件ノ始末ハ至急ヲ要スル義ナルヲ以テ当館々員ノ出張ハ
此ノ際不可能ナルノミナラス前記在留民「スミ」ニ付キテ
ハ本使ニ於テ未タ本件ヲ処理セシムルノ意旨ヲ有セス

五五六 四月九日 在墨国安達公使ヨリ
牧野外務大臣宛(電報)

墨国「トレオン」在留邦人全員無事ナル旨同
地英国領事ヨリ電報アリタル件

第一〇六号

貴電第一〇四号ニ関シ貴官ノ指揮通り馬場書記生ヲ「カレ
キシコ」ニ出張方阿部領事ニ電訓セリ

五五九 四月十五日 在墨国安達公使ヨリ
牧野外務大臣宛(電報)

墨国官叛両軍激戦中「タンピコ」在留邦人無
事ナル旨同港英国艦隊司令長官ヨリ報告アリ
タルノ件

第一一二号

四月十四日朝「タンピコ」碇泊英国艦隊司令長官ヨリ「ヴ
エラクルーズ」迄無線ニテ夫レヨリ普通ニテ英国公使館ニ
達シタル報告ニ依レハ過日来ノ激戦中同港在留日本人ハ総
テ無事叛徒ハ Ciudad Victoria ニ向ヒ退却中ノ由

五六〇 四月十五日 在米国珍田大使ヨリ
牧野外務大臣宛(電報)

米国軍艦ヨリ「タンピコ」ニ上陸セル主計官
及水兵若干墨国官軍ニ逮捕セラレタル件

第九九号

米国砲艦 Dolphin ノ主計官及ヒ水兵若干ハ物資ヲ買求ム
ル為メ四月九日「タンピコ」ニ上陸シタルニ同港ヲ守備セ

一九 「メキシコ」革命動乱関係一件 五五九 五六〇 五六一

「トレオン」在留邦人総テ無事ナル趣同地英国領事ヨリ
「エルパン」經由電報アリタル旨英国代理公使ヨリ通知ア
リ

五五七 四月十日 牧野外務大臣ヨリ
在シカゴ阿部領事宛(電報)

北墨邦人失業者転住ニ関シ馬場書記生「カレ
キシコ」出張方訓令ノ件

第九号

馬場書記生「カレキシコ」ニ出張方安達公使ヨリ稟請アリ
右ハ事情必要ト認ムルノミナラス十日間位ニテ終了スル次
第ナルニ付同公使ノ指揮通り出張方同書記生ニ至急貴官ヨ
リ電達アレ尚六十五名ニ対スル救護費ハ既送前渡ニテ支弁
シ三月三十一日以前ニ仕払タルコトニ整理セシメラルヘシ

五五八 四月十日 牧野外務大臣ヨリ
在墨国安達公使宛(電報)

北墨邦人失業者転住ニ関シ馬場書記生「カレ
キシコ」出張方電訓ノ旨通報ノ件

第三八号

ル墨国官軍 Hinojosa 大佐ノ部下ノ為メニ逮捕セラレタリ
公報ニ接スルヤ「タンピコ」近海ヲ監視スル米国艦隊司令
官 Mayo ハ直チニ「タンピコ」守備官軍司令官 Zaramosa
將軍ニ向ヒテ第一、逮捕サレタル米国水兵ヲ解放スヘシ、
第二、米国政府ニ謝罪スヘシ、第三、「タンピコ」港ニ碇泊
セル墨国砲艦 Zaragoza ヨリ米国国旗ニ対シ二十一発ノ礼
砲ヲ発スヘシ、トノ三個ノ要求ヲ提出シタル墨国ハ第一、
第二ノ要求ニ応シタルモ未タ第三ノ要求ニ応セス仍テ四月
十四日閣議ノ結果米国海軍長官ハ Hampton Roads ニア
ル大西洋艦隊司令長官 Badger ニ其部下ノ艦隊ヲ率イテ
直チニ「タンピコ」ニ向フヘキ旨ヲ命スルト同時ニ各地ニ
碇泊シ又ハ航行中ノ軍艦ニモ同様ノ命令ヲ発シ且ツ New
Orleans ニアル Hancock 号ニ八百人ノ陸戦隊ヲ乗セテ
「タンピコ」ニ急航スヘキヲ命令シタル尚ホ第三要求ニ付テ
ハ最初司令官ヨリ時刻ヲ限リテ要求シタルモ其後時刻ノ制
限ハ米国側ニテ撤回シタルモノナリ 墨国済

五六一 四月十八日 在墨国安達公使ヨリ
加藤外務大臣宛(電報)

「タンピコ」事件解決ノ為ノ米墨交渉状況ニ

関スル墨国外相及在墨米國代理大使ノ談話報

告ノ件

第一一五号

四月十七日午後墨国外務大臣ニ礼砲問題ノ成行ヲ尋ネタルニ大統領頑固ナル為メ依然トシテ行惱ミ居ルモ米國代理大使ハ答砲発射ノ約束ヲ書面ヲ以テ為シ得ヘキ権限ヲ与ヘラレタル旨通告シ来リタレバ四月十七日夜大統領ノ臨席ヲ請ヒ閣議ヲ開ク積リナリト述ヘタルニ付本使ハ本件解決ニ関シ相互的ニ対等的 Protocol ヲ作成スルコト穴勝ニ不可能ニアラサル場合ニ自國官憲ノ過失ヲ謝スル為メ片務的ニ礼砲ヲ発射シタル先例モ尠ナカラス要スルニ斯ノ如キ輕微ナル事件ノ為メ國內平定事業ニ頓挫ヲ来ス様ノコトナキヲ熱望スル旨ヲ全ク個人ノ資格ヲ以テ述ヘタリ次ニ米國代理大使ニ面談シタルニ本件ハ未タ案觀ヲ許ササルモ四月十七日夜ノ閣議ニ望ヲ属シ居ル趣ナリ

「トレラン」ノ方面ヨリ仏独露公使館ヘ達シタル私報ニ依レハ官軍ノ形勢不良ナル由

価値

- 三、墨米武備ノ比較
- 四、日米關係及其移民問題
- 五、日米戦争ノ場合ニ於ケル兩國ニ対スル墨國ノ価値
- 六、巴奈馬運河開通前ノ日米戦争
- 七、巴奈馬運河開通後ノ日米戦争
- 八、結論（日米ノ勝敗ハ墨國ニ於ケル兩國勢力ノ消長如何ニアリ）

（附屬書）

四月十七日朝刊「テークリツヘルンドショウ」掲載ノ論文

墨西哥、亜米利加及日本

（四月十七日
「テークリツヘルンドシャウ」）

一、日米兩國ノ官叛兩軍ニ対スル援助
官軍ト叛軍トハ一勝一敗ノ間ニアリテ墨西哥ノ内乱ハ遂ニ絶ユルノ期ナカラントス為メニ其財政状態ハ正ニ沈淪ノ極ニ陥リ居ルヲ以テ官叛兩軍トモ猶克ク争鬭ヲ続行シツツアルハ実ニ怪ムニ堪ヘタリ特ニ叛軍側ニ於テ此疑ヲ深クス現大統領「ウエルタ」ハ米國自身ノ公言スルガ如ク米國ニトリテハ極メテ不便ノ人物ニシテ其真偽ハ暫ク之ヲ措クモ米

五六二 四月十八日 在独国杉村大使ヨリ
加藤外務大臣宛

日米兩國ノ對墨關係ニ関スル論文報告ノ件

附屬書 四月十七日朝刊「テークリツヘルンドシャウ」

掲載ノ論文要記

公第七八号 （五月十五日接受）

大正三年四月十八日

在独

特命全權大使 杉村 虎一（印）

外務大臣男爵 加藤 高明殿

墨西哥ニ関シ當國新聞雜誌ニ現レタル重要ナル論文ハ其都度御報告申進候次第ニ有之候処本月十七日朝刊「テークリツヘルンドシャウ」ニ現ハレタル墨、米、日ト題スル論文ハ對墨國日米利害關係ヲ詳論シタルモノニシテ注目ニ値スルモノト被存候ニ付左記各項ニ頒テ其大体翻譯ノ上御報告申進候 敬具

記

- 一、日米兩國ノ墨國官叛兩軍ニ対スル援助
- 二、西米戦争後ノ米國ノ地位及米國ニ対スル巴奈馬運河ノ

國が叛軍ニ対シテ武器其他ノ軍需品ヲ供給シツツアリトノ疑ヲ受クルモ亦止ムヲ得ザル所ニ属ス外國人保護ノ目的ヲ以テ墨西哥海岸ニ遊戈セル「フレツチャ」艦隊ハ叛徒ニ対スル此任務ヲ受ケ居ルモノナリトハ叛乱地ニアルモノノ明言スル所ナリトス之等ノ報道ハ今遠ニ信ズベキモノニアラズト雖モ叛徒ノ勢益々猖獗ナルハ注目ニ価スルモノト云ハサルベカラズ然ルニ又一方日本海軍將校ハ過般墨西哥首都ニ入りテ墨國上下ヨリ未會有ノ歡迎ヲ受ケタルガ一公宴ノ席上墨國側ノ一人ハ立チテ日墨共同ノ敵ハ米國ナル旨ヲ演說シ猶今後モ日本ヨリノ武器輸入ヲ希望スト述ベタリ現ニ米國新聞紙ニヨルニ三年前ニ於テ既ニ多数ノ日本將校兵士ガ墨西哥ニ移住スルモノアリタリトノ事ニテ久シキ間日本人ハ墨西哥ヲ米國ニ向ツテケシカケ居ルヤノ疑アリ

中略

二、西米戦争後ノ米國ノ地位及米國ニ対スル巴奈馬運河ノ
価値

米西戦争ノ結果米國ハ比律賓并ニ西印度諸島ヲ獲得スルコトナリ引イテ従来墨西哥ニ対シテ行ヒタル單純ナル經濟政策ニ重大ナル變更ヲ加フルコトナリタリ則チ之等ノ諸

島ノ占領ニヨリテ米國ハ太平洋ト大西洋トノ聯絡ヲ完成シ之ヲ維持スルノ急務ナルヲ認メタルナリ比律賓群島タルヤ其位地甚ダ日本ニ接近セルヲ以テ一朝日米戦争起ルノ日アラシカ必ズ先ヅ日本ノ攻撃ノ焦点トナリ遂ニ日本ニトリテハ絶好ノ質物タルニ終ルベシ比律賓ノ天恵ノ豊富ノミヲ以テスルモ巴奈馬運河開鑿ノ価値充分ナルガ今ヤ運河ハ將ニ開通セントスルニ至リ運河地帯ハ遂ニ米國ノ占領スル所トナリタリ大西太平洋両洋ヲ連統セル此運河タルヤ全ク米國ノ死命ヲ制スルモノト云フベシ蓋シ之ヲ敵ニ占領セラレンカ米國海軍ノ活動ハ之ヲ期スルニ由ナケレバナリ而シテ運河ノ死命ハ陸上ニ勢力ヲ有スルモノノ手ニ帰スベケレバ其地帯ト米國トノ間ニ地國ニ属スル地域アルトキハ米國ハ之ヲ保ツコト甚ダ難シ故ニ米國人タルモノ（必ズシモ政府ト云ハズ）其自衛又ハ其莫大ナル利益保護ノ為メニ墨國ヲ其堅全ナル与國トナスカ然ラサレバ其独立ヲ否定セサルベカラズ

三、米墨兩國武備ノ比較

今試ニ墨米兩國ノ武備ヲ比較セン墨國陸軍ハ少数ナレトモ精銳ニシテ普國式ノ訓練ヲ受ケ居レリ常備軍ハ三万五千ニ

起シ為メニ比律賓群島ヲ独逸ニ売却スベシ等ノ議論モアリタリ日露戦争ハ偶々米國ニ小康ヲ与ヘタルモ其結果ハ露國ノ敗○ニ終リ茲ニ米國ハ名譽アル仲買人トシテ二國ノ平和ヲ仲介シ日本ヲシテ如何ナル形ニ於テモ償金ヲ得セシメズシテ自國ノ利益ニ資シ以テ日本ヨリ米ル危険ヲ除却セント謀リタルモ日本ハ財政上及其他ノ点ニ於テモ米國人ノ想像セシガ如ク貧弱ナルニ至ラザリキ

米國西部ノ諸州殊ニ加州ハ夙ニ日本人ノ殖民スル所トナリ果樹園ノ如キハ全ク日本人ノ独占シ居ル有様ナリ日露戦争後日本ノ移民ハ其數益々多キヲ加ヘ来リ遂ニ西部諸州ハ日本人ニ市民権ヲ与ヘズ從ツテ今後確固タル殖民ヲナスコトヲ得サラシムベキ法律ヲ規定スルノ止ムヲ得ザルニ至レリ茲ニ於テ世人ハ日米戦争ヲ想像スルニ至ル米國ノ西海岸タルヤ天恵ニ富ミ人口稀薄ナルヲ以テ日本人ノ増殖ニ適スルノミナラズ移植セシ日本人ハ常ニ本國ヲ忘レズ而カモ其繁殖力強大ナルガ故ニ其勢力ハ決シテ侮ルベカラサルモノアルト同時ニ日本人ノ商工業并ニ軍事ニ対スル優秀ナル能力ヲ以テシテハ他國ノ下風ニ立ツコトヲ忍バサルベキノミナラズ其天性タル誇性ニ見ルニ遂ニ米國西部ヲ支配セズンバ

シテ現役ヲ二ケ年トシ予備役ヲ三年トス戰時ニハ八万五千ノ精兵ヲ得ベク（公ケニハ十八万ト称ス）陸軍國トシテハ前途甚ダ有望ナリ

然ルニ一方米國ヲ見ルニ其人口約九千五百万ニ達シ富力亦無尽蔵ナルヲ以テ一見墨西哥ノ敵スル所ニアラサルガ如キモ仔細ニ之ヲ檢スレバ必ズシモ斯ク容易ニ判断スルコト能ハサルナリ米國ノ最近ノ陸軍ノ予算ハ一億三千万弗ヲ越ユルモ其兵數ハ殖民地ヲ通ジテ九万ニ滿タズ其多クハ志願兵ニシテ軍隊ノ規律行ハレズ兵士ノ逃亡ノ如キ敢テ珍トスルニ足ラサル有様ナリ其地所謂民兵ナルモノアリテ九千ノ將校ト十万八千ノ兵卒トヲ有スルモ軍隊教育ニハ殆ド欠乏セリ又國家危急ノ秋ニハ十八歳ヨリ四十五歳ニ至ル男子ハ悉ク兵役ノ義務アルモ是皆烏合ノ衆ノミ故ニ兵力ヲ以テシテハ開戦ニ當リテハ墨西哥ニ優越スルコト甚ダ難シト云ハザルベカラズ

四、日米關係并其移民問題

西米戦争ノ結果米國ハ亜細亞ニ領土ヲ有スルニ至リテヨリ米國政治家ガ眼ヲ隣國日本ノ上ニ注グニ至リシハ是亦当然ノコトニシテ特ニ日本海軍ノ發展ハ著シク米國ノ注意ヲ喚

止マサルベシ

五、日米戦争ノ場合ニ於ケル兩國ニ対スル墨國ノ価値日米兩國ノ墨西哥兩交戰団体ニ与ヘ居ル同情ノ表示ハ言論新聞ニヨリテナサレタルト又金錢武器ノ供給ニヨリテナサレタルトヲ問ハズ或意味ニ於テ日米將來ノ葛藤ノ前提ト見ルヲ得ベシ若シ日本ニシテ墨國歴史中ニ決定的ノ感化ヲ行フコトヲ得バ未來ノ對米戦争ニ際シ墨西哥ニ於ケル確實ナル軍事根據地ヲ有スルヲ以テ絶大ナル利益ヲ受クルモノト云フベシ日本ニシテ米國ト事ヲ構フル前軍事上ノ教育完全ナル數万數十万ノ所謂労働者ヲ墨國ニ送り置ク時ハ少クトモ開戦ノ当初ニ於テ非常ニ堅固ナル地位ヲ獲得スルコトヲ得ベシ故ニ此際米國ノ為メニ謀ルニ墨國現時ノ動乱ヲ自己ノ利益ニ歸スルガ如ク導クカ若シクハ巴奈馬運河開通スル迄日本ニ攻勢ヲ取ルノ機會ヲ与ヘサルニアリ米國艦隊ハ其數ニ於テ日本艦隊ニ勝ルモ之ヲ以テシテハ開戦ノ曉ニ於ケル勝敗ハ未ダ俄ニ逆賂シ得ベカラズ

六、巴奈馬運河開通前ノ日米戦争

茲ニ試ニ日米開戦ノ場合ヲ想像セン日本艦隊ハ先ヅ太平洋ノ制海權ノ掌握ヲ勉ムベク其第一着ハ米國太平洋艦隊ノ壓

減ニアルベク次デハ比律賓ノ占領トナリ而シテ日本艦隊ハ悠々大陸軍ヲ墨国并ニ加州ニ送り茲ニ徐ニ米国大西洋艦隊ノ出動ヲ俟ツコトナルベシ先年米国艦隊ノ日本訪問ノ経験ニヨリテ明ナルガ如ク米国艦隊ガ「ケープホルン」ヲ迂廻スルコトハ決シテ容易ノ業ニアラズ日本艦隊ハ自ラ逸ニ居リテ敵ノ勞ヲ待ツモノナレバ米国艦隊ノ運命モ蓋シ「バルチック」艦隊ノソレト毫モ撰ム所ナカルベシ

七、巴奈馬運河開通後ノ日米戦争

然レトモ巴奈馬運河開通ノ後ハ其地位全ク顛倒スベク米国艦隊ハ直ニ墨西哥湾ヨリ運河ヲ通過シテ策戦根拠地タル桑港ニ集中スベシ日本ヨリ桑港迄ハ五千哩ナルニ反シ巴奈馬ヨリ桑港ハ三千哩ニシテ達スベシ之ヲ一万千哩ノ南米迂廻線ニ比スレバスベテノ点ニ於テ其利スル所恐ク想像ノ外ニアルベシ

八、結論（日米ノ勝敗ハ墨国ニ於ケル勢力ノ消長如何ニアリ）

要之巴奈馬運河開通迄ハ仮令米国ガ墨国ヲ左右スルコトヲ得ルニシテモ日本ニ対シテ勝算ナキハ確実ナリ運河開通後ハ其趣蓋シ如斯ナラサルモノアルベシ故ニ墨国ニ於ケル両

ガ誤解セルモノナルコトヲ発見セルヲ以テ其旨并ニ今後日本人ノ入国ハ自由タルヘキコトヲ同官ヲシテ言明セシメ置ケリ仍テ今後入国ニ付キテハ何等故障ナシ

五六四 四月二十一日

在墨国安達公使ヨリ
加藤外務大臣宛（電報）

「タンピコ」事件ニ関スル米國ノ要求ヲ墨國

拒絶ノ件

第一一九号

四月二十日午後一時往訪ノ本使ニ対シ墨国外務大臣ハ拙電第一一七号所載米國代理大使ノ談話ト同様ノ事ノ外其ノ談話ノ要領左ノ如シ

四月十九日午後米國代理大使ト会见シ同代理大使カ本國政府ヨリ受取レル正式訓令ノ外尚秘密訓令ナルモノノ内示ヲ受ケシガ其ノ文辭傲慢ヲ極メ吾人ハ之ニ服スルヨリ寧口死シテ國ノ名譽ヲ保ツニ如カスト決心スルニ至リ大統領ハ午後十時各大臣立会ノ上米國代理大使ニ対シ米國ノ要求ニ応シ難シト確答シタル次第ナリト尚同大臣ハ本使ノ問ニ応シ米國政府ニ於テ協約案ヲ拒絶セシハ全ク其調印ハ承認ノ意ヲ含ムト云フニ在ルヘシト想像セラルルコト及墨國政府ニ

國ノ角逐ハ其勝敗ノ分岐点ナリトス米國ニシテ墨國ヲ自家葉籠中ノモノトナストキハ運河ハ確実ナルモ若シ日本ガ之ヲ左右スレバ運河ノ破壊ハ免ルベカラズ斯ガ故ニ今日ニ於テハ米國ノ墨國ニ対スル利害關係ハ決シテ從來ノ如ク僅少ナルモノニアラズ故ニ墨國ニ於ケル兩國ノ競争ハ表面甚ダ痴鈍ナルガ如キモ其実甚ダ執着ナリ

以是觀之日米兩國ノ何レガ墨國ヲ左右スルニ至ルカハ避クベカラズト想像セラルル日米戦争ノ決勝点ナルノミナラズ恐ラクバ將來「コーカサス」族ガ世界ヲ支配スルヤ又ハ豪古族ガ覇ヲ宇内ニ唱フルヤノ分岐線トナルベシ

五六三 四月二十日

在墨国安達公使ヨリ
加藤外務大臣宛（電報）

墨國叛軍側ノ日本人入國禁止ハ支那人入國禁止ノ誤ナル旨墨國移民官言明ノ件

第一一八号

馬場ヨリ左ノ通

第五五号

日本人入國禁止問題ニ関シ *Mexico* 墨國移民官ト交渉ノ結果右ハ支那人ノ入國禁止ニ関シ叛軍政府ノ命令ヲ移民官

於テハ本件ヲ以テ承認ノ同意ヲ得ル為協約案ヲ提出シタルニ非サルコト等ヲ答ヘタルヲ以テ本使ハ同大臣ニ対シ尚円満解決ノ望ナキニ非サルヲ説キ此際該協約案中本協約末ニ米墨兩國間現在ノ外交關係ニ何等變化ヲ及ホスモノニ非ストノ一条ヲ加フルコトトセハ如何ト申述ヘタルニ同大臣ハ本使個人の提案ニハ至極同意ナルノミナラス大統領ニ於テモ多分同感ナルヘシト言明シタルモ既ニ十九日午後六時當方ヨリ米國政府ニ回答シタルニ付之ニ対シ先方ヨリ何等申来ルニ非サレハ事ノ順序トシテ當方ヨリ右ノ修正案ヲ提出シ難シトテ躊躇ノ色アリタルニ付本使モ深ク言及セスシテ其儘別レタリ

註 安達公使ノ第一一七号電報省略

五六五 四月二十一日

在墨国安達公使ヨリ
加藤外務大臣宛（電報）

米墨間ノ紛争ニ付我方ノ執ルベキ態度ニ関スル件

第一二〇号

米國ニシテ一旦墨國ニ武力干涉ヲ行フニ於テハ容易ニ手ヲ抜キ得サル難境ニ陥ルヘキニ付日本國ハ其ノ機ニ乘シ強硬ナル態度ヲ以テ対米諸問題ヲ根本的ニ解決スルコトヲ得ヘ

キカ故ニ日本國ノ為メニハ成ルヘク米國カ墨國ニ干渉スル様措置スルコト得策ナリトノ説アリ当地ノ同僚等ヨリモ曾テ之レヲ耳ニシタルコトアル処墨國ハ官叛兩軍ノ実力略ホ相等シク北部分立ノ大勢ハ既ニ成レルモノノ如クナレトモ(昨年機密第一九号拙信本年機密第三号拙信及第八号参照)米國カ此ノ際「ウエルタ」政府ニ干渉シ漸次墨國ヲ「コントロール」スルノ目的ヲ達スルコト左迄難事ニアラサルヘク從テ米國カ墨國トノ紛糾ニ牽制セラレテ我カ要求ヲ容諾スルコトヲ余儀ナクセラルル如キハ到底望ミ得ヘカラサル義ニ有之更ラニ北部分立ノ大勢ハ本使ニ於テ未タ之レヲ防止スル案ヲ発見セサルヲ遺憾トスル次第ナルカ責メテ帝國ニ對シ昨年来深甚ナル好意ヲ表セル「ウエルタ」政府カ無謀ノ行動ヲ以テ没落スルカ如キハ成ルヘク之レヲ防キタク該政府ニシテ幸ニ墨國ノ大部分ヲ平定シテ其ノ權力確立スルニ至ルハ帝國ノ利益ナルヘシト思考シ帝國政府ヲ少シモ「コンミット」スルコトナク全ク墨國外務大臣ノ友人タル私交上ノ資格ヲ以テ拙電第一一五号及第一一九号ノ通陳述シタル次第ニシテ墨國外務大臣ニ於テモ之レヲ德トシ居ル次第ナルカ若シ帝國政府ノ方針ニ背馳スル義ナラハ折返シ

五六七 四月二十一日 在墨國安達公使ヨリ
加藤外務大臣宛(電報)

墨國ノ通信杜絶ノ場合ニ於ケル措置振ニ付予

メ請訓ノ件

第一二二号

諸外國トノ通信杜絶スル虞アリトテ心痛スル同僚諸ナカラサル処右様ノ場合ニ於テ大体昨午外務大臣來電第五八号所載ニ準拠シ可然哉

註 大正二年日本外交文書三一二文書

五六八 四月二十一日 在墨國安達公使ヨリ
加藤外務大臣宛(電報)

「タンピコ」事件ニ関スル米墨交渉決裂ノ件

第一二三号

米國大代理使ハ四月二十日当地外交團ニ廻章ヲ發シタルカ其ノ大要ハ初メ本國政府ノ訓令ニ基ク旨ヲ明記シタル後「タンピコ」事件ニ関シ墨國側ハ米國政府ノ寛容ナル態度ヲ誤解シ同時礼砲発射ノ不道理ナル提議ヲナスニ至リシヲ以テ予ハ四月十九日午後六時限り墨國側ニ於テ Mayo 提督ノ要求ニ応セサルトキハ米國大統領ハ本件ヲ四月二十日

御回訓アリタク稟請ス

五六六 四月二十一日 在墨國安達公使ヨリ
加藤外務大臣宛(電報)

在米國墨國臨時代理大使召還ノ場合ノ墨國利益保護ヲ日本政府ヘ懇願ニ付請訓ノ件

第一二二号

四月二十一日正午墨國外務大臣ハ墨國大統領ノ命ヲ奉シ本使ニ對シ左ノ通申出タリ
在米國墨國臨時代理大使ニ召還ヲ命セサルヲ得サル様可相成哉モ難計処墨國政府ハ詮議ノ末右ノ場合ニ於テ在米國日本國大使並ニ各日本國領事ニ於テ在米國墨國大使館並ニ領事館ノ書類ヲ保管セラレ且在米國墨國人ノ利益保護ニ任セラレ度旨ヲ折入テ懇願シ度ニ付帝國政府ニ於テ承諾相成ル様斡旋セラレタシト

依テ本使ハ右ニ関シ早速帝國政府ニ電報シ其回訓アリ次第返答ニ可及旨答ヘタリ

右ハ事実至急ヲ要スルコトト思考セラレ且右ノ如キ懇願ヲ受ケタル上ハ万機所ナキ義付可成速カニ御回訓相成タシ(四月二十一日午後十一時)

ノ國會ノ議ニ附スヘシト墨國ノ事實上ノ政府ニ通告セリ而シテ「ウエルタ」ニシテ前記期限ヲ過クルモ尚依然讓歩ノ態度ニ出テサルニ於テハ余ハ之レヲ在墨外交官ニ通告シ且在墨米國領事ニ訓令シ在墨米國人ノ墨國退去ヲ勸告セシムヘシ云々又四月二十日深更ニ至リ墨國外務大臣カ各國外交官ニ書面ニテ通報シ來レル大要左ノ如シ

「タンピコ」事件ニ関シ墨國政府ハ先ツ墨國要塞ヨリ米國々旗ニ對シ次テ米國軍艦 Dolphin ヨリ墨國々旗ニ對シ礼砲ヲ発射スヘシトノ米國政府ノ提議ヲ容認スルニ至リタルカ外交上ノ慣例ニ基キ覚書ニ調印スルカ又ハ尠ナクモ公文ノ交換ニ依テ右礼砲ニ関スル協約ヲ証明スルカノ問題ニ関シ米國大統領ハ在墨代理大使ニ訓令シ「ウエルタ」政府ノ承認ト見做サレ得ヘキ書類ハ總テ調印ヲ拒否セシメ之レト同時ニ米國大統領ハ墨國政府ヲシテ一定ノ期間内ニ無条件ニテ礼砲発射ニ関スル要求ヲ承諾セシメント試ミタリ「ウエルタ」政府ノ承認ニ付テハ兩國ノ國旗ニ對シ礼砲互發ニ関スル口頭ノ協約カ政事上及法律上協約ヲ証明スル書類ト同一ノ価値ヲ有スルコトハ毫モ疑ヲ客レス又墨國ハ米國ニ對スル苦情ヲ各國ニ通牒スルコトヲ見合セ他日適當ノ時機

ヲ待ツヘシ只米國艦隊カ墨國諸港ニ派遣セラレタリトノ報道伝ハリタルニヨリ墨國政府ハ武力ヲ以テ同艦隊ノ攻撃ヲ撃退スルニ決シタルヲ以テ右ハ特ニ貴國政府ニ通牒セラレタシ云々

五六九 四月二十一日

在米國珍田大使ヨリ
加藤外務大臣宛(電報)

米國軍艦ニ依ル墨國「ヴェラクルス」税関差

押ニ付國務長官ヨリ通告ノ件

第一一〇号

四月二十一日請ニ依リ往訪シタルニ國務長官ハ四月二十日夜墨西哥國ヨリ到着シタル情報ニ依レハ Veracruz 港務長官(Comandante)ハ同港ニ在ル鐵道車輛等ヲ取纏メテ墨西哥市ニ引揚ケ其去ルニ從テ鐵道線路ヲ破壊セントノ企画ヲ有シ四月二十一日ヲ以テ之ヲ実行セントスル趣ナリ然ルニ首府ト大西洋沿岸唯一ノ線路ノ交通ヲ遮断スルニ至レハ事態容易ナラサルニ付米國政府ハ同港碇泊中ノ軍艦ニ對シ直チニ同港税関ヲ差押ヘ尚車輛搬出鐵道破壞ノ行為ヲ防止スヘキ様命令シタリト述ヘ此旨本國政府ヘ内密ニ通牒方本使ニ依頼アリ同日國務長官ハ墨國ト關係ノ多キ各國代表者

キヤウ特ニ御注意アルヘシ

五七二 四月二十二日

加藤外務大臣ヨリ
在墨國安達公使宛(電報)

米墨關係切迫ノ今日墨國官憲ニ對シ助言又ハ

意見陳述ヲ為サザル様訓示ノ件

第四七号

貴電第一二〇号末段ニ関シ帝國ノ墨國ニ對スル政治上ノ利害關係極メテ薄キモノナル次第ハ前大臣ヨリモ屢次申進メアル通りニテ殊ニ米墨ノ關係最モ切迫セル今日貴官ハ公私孰レノ資格ニ於テスルヲ問ハス墨國官憲ニ對シ政治ニ關スル「サゼツション」ヲ為シ又ハ其需メニ応シテ意見ヲ述ヘラルル等ノコトハ蔽ニ之ヲ避ケラルル様此際特ニ御注意アリタシ

五七三 四月二十二日

加藤外務大臣ヨリ
在墨國安達公使宛(電報)

在米墨國臨時代理大使召還ノ場合墨國利益保護

護ノ要請拒絶方回訓ノ件

第四八号

貴電第一二二号ニ関シ在米國帝國領事館ハ其数多カラサル

ニモ同様ノ依頼ヲナセリ

五七〇 四月二十二日

在米國珍田大使ヨリ
加藤外務大臣宛(電報)

米國海軍墨國「ヴェラクルス」港税関ヲ占領

ノ件

第一一一号

「ヴェラクルス」ニ在ル「アドミラル・フレッチャー」ヨリ既ニ同港税関ヲ占領シタル旨米國海軍省ニ報告アリタル趣新聞号外出ヅ米兵死者四名傷者二十名墨國側死者二百余墨國洛

五七一 四月二十二日

加藤外務大臣ヨリ
在墨國安達公使宛(電報)

墨國ノ時局ニ関シ政府側及叛軍トノ交渉等ノ

措置振ニ付回訓ノ件

第四六号

貴電第一二二号関シ御稟申ノ通り往電第五八号ノ趣旨ニ遵ヒ適宜御措置アレ尚万一ノ場合ニ墨國政府方反軍ノ何レヲ問ハズ其重立チタルモノニ於テ貴館ヲ避難所トナスガ如キコトアリテハ政策上甚タ面白カラサルニ付右様ノコト之ナ

ノミナラス多数墨國人所在ノ地ニハ領事官駐在セサル有様ナルニ付遺憾ナカラ到底墨國政府ノ依頼ニ応スルコト能ハサルニ付其旨ヲ述ヘ右依頼ヲ拒絶セラレタシ

五七四 四月二十二日

在米國珍田大使ヨリ
加藤外務大臣宛(電報)

在米墨國臨時代理大使ヨリ同國大使館及領事

館ノ文書保管方要請ニ付請訓ノ件

別電

同日在米國珍田大使宛加藤外務大臣宛第一二四

号

墨國臨時代理大使ニ對スル本國政府訓令

第一一三号 至急

当地駐在墨國代理大使四月二十一日午後十一時來訪墨國外務大臣宛同代理大使宛別電ヲ示シテ文書保管方本使ニ依頼申出タルニ付本使ハ本件ニ付帝國政府ヨリ未タ何等訓令ヲ受ケ居ラサルニ付之ニ接スル迄ハ何等確答ヲ与フルコト能ハサル旨ヲ答ヘ置キタリ尚本件ハ墨國政府ニ於テ既ニ直接帝國政府ノ承認ヲ得タル結果ナルヤ否ヤト質問シタルニ同官ハ右電報以外ニハ何等報道ニ接シ居ラスト答ヘ又旅券ハ成ルヘク四月二十二日要求シ四月二十三日頃ニ出発シタキ

積ナリト述ヘタリ就テハ右ニ関シ至急何分ノ御電訓アリタシ墨済シ

(別 電)

四月二十二日在米国珍田大使発加藤外務大臣宛電報
日本大使館ニ文書保管要請方ニ関シ墨国臨時代理大使ニ対スル本国政府訓令

第一一四号

Put your archives under provisional protection of Japanese Embassy. Ask at once for your passport. Communicate your consuls to put their archives under the protection of Japanese consuls.

墨済

China.

五七五 四月二十三日

加藤外務大臣ヨリ
在米国珍田大使宛(電報)

在米墨国大使館及領事館ノ文書保管ノ要請拒絶方回訓ノ件

附 記 四月二十三日加藤外務大臣ト在本邦米国大使ト

ノ会談要領

第一一八号 至急

貴電第一一三号ニ関シ墨国外務大臣ハ安達公使ニ対シ在米墨国臨時代理大使召還ノ場合ニハ在米日本大使及領事ニ於テ墨国大使及領事館ノ書類ヲ保管シ且在米墨国人ノ利益保護ニ任セラレタキ旨大統領ノ命ニ依リ帝国政府ニ斡旋方懇願シタル趣ニテ右回訓方安達ヨリ稟請アリタルニ依リ本大臣ハ右ニ対シ在米帝国領事官ハ其ノ数多カラサルノミナラス多数墨国人所在地ニハ領事官駐在セサル有様ナルニ付乍遺憾右依頼ニ応スルコト能ハサル旨ヲ述ヘ之ヲ拒絶スル様回電セリ

右ノ次第ナルニ付貴地墨国代理大使ノ依頼ハ前記ノ趣旨ニ依リ之ヲ拒絶セラルヘシ

(附 記)

大正三年四月二十三日加藤外務大臣ト米国大使トノ会談要領墨西哥事件ニ関スル件

大正三年四月二十三日在京米国大使来訪別紙写ノ通米国々務長官発同大使宛電報ヲ内示シタル後個人トシテ承知シ度キコトアリトテ日本ハ中立ノ態度ニ出テラルヘキヤトノ疑問的言葉アリタルニ付大臣ハ勿論ノコトナルモ両国間ニ開戦ノ宣言ヲ見サル間ハ第三国ニ於テ中立ノ宣言ヲ為スニ由

ナカルヘキカト答ヘ尚ホ墨国外務大臣ヨリ安達公使ニ対シ在米墨国代理大使召還ノ場合ニハ在米日本大使及領事ニ於テ墨国大使館及領事館ノ書類ヲ保管シ且在米墨国人ノ利益保護ニ任セラレタキ旨懇願シ来リタルヲ以テ之ニ対シ在米帝国領事官ハ其数多カラス且多数墨国人ノ所在地ニハ日本領事官ハ駐在セサル有様ナレハ遺憾ナカラ右依頼ニ応シ難キ旨回答スル様安達公使ニ訓令シ又在米墨国代理大使ヨリモ珍田大使ニ対シ同様ノ申出アリタルニ対シ前記ノ趣旨ヲ以テ拒絶方珍田大使ニ訓令シタル趣内話シ置カレタリ

(別 電)

國務長官発在本邦米国大使宛電報写

American Embassy

Tokio

Senate passed by vote of seventy two to thirteen following resolution supporting President "in view of the facts presented by the President of the United States in his address delivered to the Congress in joint session the 20th day of April 1914 in regard to certain affronts and indignities committed against the United States in Mexico, be it resolved that the President is justified in the employment of the armed forces

of the United States to enforce his demands for unequivocal amends for affronts and indignities committed against the United States, be it further resolved that the United States disclaims any hostility to the Mexican people or any purpose to make war upon them." House has accepted Senate resolution without debate. It differed but slightly from House resolution which was adopted Monday by a vote of 337 to 37. Please note that the word justified is used instead of authorized. This was done to emphasize the fact that the resolution is not a declaration of war but contemplates only the pacific redress of a specific indignity.

Admiral Fletcher has taken possession of custom house at Vera Cruz. No resistance at time but later battery and scattered forces fired on Americans which was returned. Four Americans killed twenty wounded. Loss on Mexican side not known estimated one hundred and fifty.

Bryan

五七六 四月二十三日 加藤外務大臣ヨリ
在墨国安達公使及在桑港沼野總領
事代理各宛(電報)

米墨間時局ニ鑑ミ在墨邦人ノ保護ニ関スル
急手段ニ付意見提示方訓令ノ件

第四九号(墨宛)

第三〇号(桑港宛)

米墨間時局進行ノ模様ニ依リテハ在墨本邦人ニシテ危害ヲ
蒙ル者ナキヲ保シ難キ処其保護ニ関スル応急手段ニツキ何
等御意見アラハ至急電報アリタシ

沼野宛ノ分ヘ加フ

本電ノ終リニ左記ノ文句ヲ加ヘ珍田大使ヘ転電アレ

「以上安達及沼野ヘ電訓シタル処本件ニ関シ諸国ノ執レ
ル措置等御聞込ノ件アラハ電報アリタシ」

五七七 四月二十三日 在墨国安達公使ヨリ
加藤外務大臣宛(電報)

在米墨国臨時代理大使召還ノ場合ノ墨国利益
保護拒絶申入ノ件

第一二九号

四月二十二日午後七時墨国外務大臣ニ面会貴電第四八号ノ

Vari ニアリ「ニューレンベルグ」艦長ト協議シ「グアイ
マス」在留民保護ヲ同艦ニ托シ尚三好大尉ト卒一名ヲ残コ
シ我ハ午後六時発「トポロバンポ」ヲ経テ「マザトラン」
ニ向フ二十四日著予定以下次号(二十二日航海中)

五七九 四月二十三日 在墨国安達公使ヨリ
加藤外務大臣宛(電報)

在米墨国利益保護拒絶後ノ墨国人ノ対邦人態
度憂慮セラルルニ付墨国ニ於ケル米国利益保
護引受ハ好マシカラサル旨電稟ノ件

第一三〇号

拙電第一二九号ノ通り米国ニ於ケル墨人利益保護ノ依頼ヲ
拒絶シタル後本使ノ憂心忡々トシテ甚タ不安ニ堪ヘサル所
アリ元来墨国人ハ甚タ輕薄ニシテ今日迄ハ本邦人ニ対シ一
般ニ濃厚ナル好意ヲ表シ居ルモ変化シ易キ国民性ノコトト
テ前記保護拒絶ノ次第一般ニ洩ルルカ如キコトアル場合ニ
ハ今日迄ノ好意ハ変シテ深刻ナル反感トナルヘキハ客年
「ディアス」答礼大使拒絶ノ前轍ニ鑑ミルモ明白ニシテ居留
民保護上本使ノ責任甚タ重大ナルヲ感シ憂慮ニ堪ヘサル次
第ナリ然ルニ今朝来当地在留米国人ヨリ墨国ニ於ケル米国

趣申入レタルニ同大臣ハ次官ヲ呼寄セ暫時相談ノ後痛ク失
望ノ体ニテ帝国政府ニ於テ御断リ相成タル上ハ他ノ友邦ニ
依頼スル外ナキガ在米墨国代理大使ニ内訓シ置キタル如ク
至急ノ場合ナレバ一兩日間ニテモ在米大使館ニ於テ仮ニ在
米墨国大使館ノ書類ヲ保管セラルルコト叶ハスヤト述ヘ
タルニ付外国公館ノ書類ヲ保管スルハ該外国人ノ保護ニ任
スルヲ意味シ数日間ノミ一ノ外国公館ニ於テ前記ノ書類ヲ
保管シ次ニ他ノ外国公館ニ移スコトハ全ク先例ナキ所ナル
ガ故ニ不可能ナリト述ベテ断リ置キタリ

五七八 四月二十三日 在桑港沼野總領事代理ヨリ
加藤外務大臣宛(電報)

出雲艦長ヨリ海軍大臣宛米墨間時局ニ関スル
電報取次ノ件

第一二九号

出雲艦長ヨリ海軍大臣ヘ(六九)

米墨間事態重大トナリ無線ノ交信ヲ妨ケラルルコト大ナリ
「ニュー、オルレアンス」正午「グアイマス」著事態ハ未
タ「ヴェラクルス」ノ衝突丈ニ限ラレ居ル如シ米艦ハ米人
全部ノ引揚ニ着手セリ市中稍々恐慌墨官憲モ不安ノ状態

人ノ保護ハ日本ニ依頼セラレタルコトヲ聞キタルニ付「ヴ
エラクルス」ヘノ通行券ノ下附及保護ヲ当館ニ願出ヅル者
有之管テ田辺書記官米国代理大使訪問ノ節同代理大使ガ大
使館引揚ノ場合ニハ日本公使館ニ事務ヲ引継クヘシト笑
話シタルコトアルヲ思合セ察スルニ右ハ華盛頓ニ於ケル官
辺ノ消息ヲ私報ニテ伝ヘ来リタル結果ニ非ズヤ又当地米国
代理大使既ニ墨国政府ヨリ「パッスポート」ヲ受取タルニ
拘ハラス出発期日尚不明ナルハ米国人保護ノ件目下帝国政
府ト交渉中ノ為メニアラサルヤト懸念セラルル処果シテ然
ラハ現ニ当地人心米国ニ対スル激昂甚シク已ニ華盛頓ノ銅
像ニ凌辱ヲ加ヘテ市中ヲ引廻リ米国人商店ヲ破壊シ米国人
住所ヲ取調ヘ昨夜ハ爆裂彈ヲ以テ米国大使館ヲ破壊セント
シタル者アリ又米国大使館貯蔵武器彈藥ヲ当国官憲没収シ
タル由斯カル事情ノ下ニ於テ而カモ前記墨国人保護ヲ拒絶
後ニ於テ在米墨国人保護ト同時ナラハ格別当国ニ於ケル米
国人ノミ帝国ニ於テ保護ヲ引受クルコトハ当国ニ於ケル本
邦人保護ノ職責及当国政府ニ対スル關係上最モ痛切ニ本使
ノ微力ヲ感スル余リ不取敢電稟ス尚当国政府ニ於テ在米国
墨国人ヲ何国ニ依頼シタルヤ未タ明カナラス或ハ当国政府

ニ於テハ帝國ニ拒絶セラレタル為メ他外国トノ交渉困難ヲ感シ居ルニアラスヤト想像セラル

貴電第四五号及第四八号欠号ナリヤ尤モ第四九号ハ番号重複セリ拙電皆揃ヘリヤ貴電第四九号保護応急手段ニ関スル御訓令熟考中(四月二十三日午後一一、三〇)

五八〇 四月二十四日

加藤外務大臣ヨリ
大隈總理大臣外各大臣及各元老宛

「米墨關係ノ法的性質」送付ノ件

附屬書 米墨關係ノ法的性質

大隈 内閣總理大臣
尾崎 司法大臣
岡 陸軍大臣
八代 海軍大臣
大浦 農商務大臣
若槻 大藏大臣
武富 通信大臣
一木 文部大臣
山県 有朋
大山 巖

宛各通

手段ヲ使用スルニ決シ四月二十一日米兵ハ「ヴェラククルーズ」ニ上陸シ税関及停車場附近ヲ占領シ墨兵ト干戈ヲ交ユルニ至レリ

右ノ如ク米國今回ノ挙ハ「ウェルタ」派ノ不法行為ニ對シ所期ノ救済ヲ求ムルヲ目的トシ之レカ為メ強制手段ニ訴フルニ至リタルモノニシテ國際法上所謂復仇權^{レパルサール}ノ行使ニ外ナラス此事ハ四月二十日米國大統領ノ教書中ニ「要スルニ「ウェルタ」ヲ承認セサル報復トシテ「ウェルタ」派ニ於テ特ニ合衆國ヲ凌辱ノ目標ト為セリトノ墨國民間ノ印象ハ到底其後ノ説明及形式的陳謝ニ依リ變更セラルヘキモノニ非ス而カモ此儘ニ推移セハ事態次第ニ險惡ニ陥ルノ危險明カナリ而シテ遂ニハ重大ナル事件ヲ誘起シ開戦ノ避クヘカラサルニ至ルヤモ計ラレス依テ全墨國民ノ注意ヲ喚起シ且「ウェルタ」自身ヲシテ再ヒ遺憾ノ意ヲ表セサルヲ得サル如キ事件ヲ繰返スヘカラサルコトヲ痛切ニ感セシムルニ足ルヘキ謝罪ヲ為サシメサルベカラス」「我政府カ如何ナル場合ニ於テモ墨國國民ト戦フ交ユルニ立到ラザラムコトハ余ノ切ニ希望スル所ナリ」「若シ夫レ戦争ノ開始ヲ見ルアラバソハ唯「ウェルタ」並ニ彼ヲ扶助スルノ徒ニ對スル

井上 馨

松方正義

機密号外

墨國事務局ニ関シ当者ニ於テ別紙調製致候間御參考迄供貴覽候也

(附屬書)

米墨關係ノ法的性質

(大正三年四月二十三日調)

今回米國葛藤ノ原因ハ四月九日米國砲艦「ドルフキン」ノ主計官及水兵若干名カ物資ヲ購買スルカ為メニ「タンピコ」ニ上陸シタルニ同港守備ノ墨國官軍ノ為メニ逮捕セラレタルニアリ右ノ報知ニ接シタル米國艦隊司令官ハ直チニ「タンピコ」守備官軍司令官ニ對シ第一、逮捕サレタル米國水兵ヲ解放シ、第二、米國政府ニ謝罪シ且第三「タンピコ」ニ碇泊スル墨國砲艦ヨリ米國々旗ニ對シテ二十一発ノ礼砲ヲ発スヘシトノ要求ヲ提出シ墨國ハ右ノ内第一、第二ノ要求ニ応シタルモ無條件ニテ第三ノ要求ニ応スルヲ拒ミ其後米墨間ニ折衝ヲ經タルモ議纏マラス此ニ於テ米國政府ハ「ウェルタ」ヲシテ第三ノ要求ニ応セシムルカ為メニ強制

モノニシテ吾人ノ目的ハ混亂セル共和国人民ニ其自身ノ政府及其自身ノ秩序ヲ再立スルノ機會ヲ回復セムトスルニ在ルノミ戦争ノ如キハ目下問題トナラザラムコトヲ切望ス」トノ記載アルニ徴スルモ又四月二十一日米國國務長官ガ「ヴェラククルーズ」港務長官ハ同港ニ在ル鐵道車輛等ヲ取纏メテ墨西哥市ニ引揚ケ其去ルニ從テ鐵道線路ヲ破壊セントノ企画ヲ有シ四月二十一日以テ之ヲ実行セントスル趣ナリ然ルニ首府ト大西洋沿岸唯一ノ線路ノ交通ヲ遮斷スルニ至レバ事態容易ナラサルニ付米國政府ハ同港碇泊中ノ軍艦ニ對シ直ニ同港税関ヲ差押ヘ車輛搬出鐵道破壞ノ行為ヲ防止スヘキ様命令シタリ」トノ旨ヲ珍田大使ニ語リタルニ鑑ミルモ或ハ又四月二十二日米國上下兩院合同會議ガ「大統領ハ合衆國ニ向テ加ヘラレタル凌辱及非礼ニ對スル明確ナル謝罪ノ要求ヲ強制スルカ為メニ合衆國ノ武力ヲ使用スルモ差支ナシ合衆國ハ墨國國民ニ對スル敵意又ハ墨國ト戦フノ目的ヲ有スルコトヲ全然否認ス」ト決議シタルニ案スルモ米國目下ノ行動ハ平時強制手段ノ一種タル復仇ニ依リテ其要求ヲ貫徹セント欲スルニ外ナラスシテ戦争ヲ為スノ意思ナキコト頗ル明瞭ナリ墨國側ニ於テモ米國目下ノ行動ヲ

戦争行為ト看做サス又自ラ進ンテ戦争ヲ為スノ意思ナク唯
米國ノ強制ニ對抗スルヲ目的トスルモノノ如ク四月二十日
墨國外務大臣ガ在墨外交団ニ交付シタル廻章中ニモ「米國
艦隊カ墨國諸港ニ派遣セラレタリトノ報道伝ハリタルニ依
リ墨國政府ハ武力ヲ以テ同艦隊ノ攻撃ヲ撃退スルニ決シタ
リ」トノ記載アリ

之ヲ要スルニ今後事態ニ変化ヲ来タス場合ハ措テ論セス目
下墨米兩國間ニハ戦争關係成立シ居ラス米國ハ平時強制手
段ノ一タル復仇ニヨリテ所期ノ要求ヲ貫徹セント欲シ墨國
ハ此強制ニ對抗スルカ為メニ武力ヲ使用スルモノト觀察ス
ルヲ妥當トスヘシ而シテ米墨兩國ノ代表者カ各其任地ヨリ
撤退スルコトアルモ外交關係ノ断絶カ必スシモ戦争ノ開始
ヲ意味セサルハ敢テ贅言ヲ要セサル所ナリ

復仇トハ一國力紛争事件ニ付其正當ト信スル要求ヲ貫徹シ
相當ノ救済ヲ求ムルカ為メニ對手國ヲ強制スルノ目的ヲ以
テ其國又ハ其人民ノ財産ニ對シテ為ス一切ノ手段ヲ云フモ
ノニシテ實例甚タ多シト雖モ中ニ就キ千八百九十五年英國
對「ニカラグワ」事件ハ今回ノ事件ニ最モ類似シ居ルニ付
其概略ヲ左ニ掲ク

此事件ハ「ニカラグワ」官憲カ在「ブリュートフキールド」
英國副領事館員並ニ二十余名ノ在住英國臣民ヲ不法ニ捕縛
シ之ヲ拘禁シ又ハ退去ヲ命シタルニ依リ英國政府ハ其救済
ヲ要求セルニ「ニカラグワ」政府之ヲ拒絶セルニ基クモノ
ニシテ千八百九十五年四月二十七日英國艦隊ノ陸戰隊ハ
「コリント」ニ上陸シ同地ノ税關及其他ノ官署ヲ占領シ英
國艦隊司令官ハ「ニカラグワ」ノ国旗ヲ掲揚スル總テノ船
舶ヲ紛議ノ満足ナル解決ヲ告グルニ至ル迄押収スル旨ヲ布
告スルト同時ニ「コリント」ノ占領中住民ノ身体、財産、
通商ハ尊重セラルヘシト雖モ占領軍ニ反抗シ又ハ騷擾ヲ誘
発スルモノハ処分セラルヘキ旨ヲ声明セリ然ルニ幾何モナ
ク「ニカラグワ」政府ハ賠償ノ支払ヲ承諾セルヲ以テ五月
五日英國ハ其占領ヲ撤去セリ

復仇ハ紛争國間ニ交戦關係ヲ生セサルカ故ニ第三國ハ全然
之レト没交渉ニシテ局外中立義務ヲ負フコトナキハ勿論ト
ス復仇權ヲ行使スル國ハ其權利行使ノ一部トシテ對手國ニ
仕向ケラレタル武器ノ押収ヲ為スノ舉ニ出ツルコト或ハ之
レ有ルヘキモ中立義務ノ存在セサルニ當リテ為ス武器ノ輸
入ハ國際法上毫モ不適法ノ行為ニ非サルカ故ニ押収以上ニ

之ヲ没収スルカ如キハ不法タルヲ免レサルノミナラス押収

ヨリ生スル損害ノ賠償ハ當然支払ハルヘキモノナリ要スル
ニ復仇カ第三國及其臣民ニ及ホス影響ハ甚タ微弱ナレトモ
若シ之レト同時ニ平時封鎖ノ施行セラルルニ於テハ其影響
スル所時ニ或ハ大ナルモノアリ國際法學者中ニハ平時封鎖
カ其性質上平和關係ト併立シ能ハサルコトヲ説クモノ尠ナ
カラスト雖モ國際間ノ實例ハ平時封鎖ノ存在ヲ認メ國際法
學會亦之ヲ是認シタリ現今多數ノ學者ハ國際法學會決議ノ

モアリ又千八百三十一年仏國カ葡萄牙海岸ヲ封鎖シタル際ノ
如キ事件ノ解決後單ニ商船ノミヲ返還シ被封锁國軍艦ハ之
ヲ没収シタリ而シテ平時封鎖ノ實施後戦争開始セル場合ニ
抑留船舶ヲ没収スルハ從來ノ例ニシテ「ホール」モ亦之ヲ
是認ス

五八一 四月二十五日

在奧洪國西臨時代理大使ヨリ
加藤外務大臣宛(電報)

米墨紛争ニ對スル日本ノ態度發表ノ必要ニ関

スル件

第四〇号

被封锁港ニ出入スルノ自由ヲ制限セラルヘキモノニ非スト
論シ國際間ノ實例ハ仏國ノ為シタル例ヲ除キ總ヘテ此意見
ト一致シ居レリ唯千九百二年英独カ「ヴェネズエラ」ニ對
シテ為シタル封鎖ハ第三國ニモ其効果ヲ及ホシタレトモ學
者ハ多ク此封鎖ヲ目シテ戰時封鎖トナシ居レリ要スルニ平
時行動ナリトシテ施行シタル封鎖ノ性質ハ多クノ場合ニ於
テ甚タ曖昧タルノミナラス突然又ハ有耶無耶ノ間ニ戰時封
鎖ニ變更シタル例尠ナカラス

平時封鎖違反ノ船舶ニ對スル制裁ヲ單ニ抑留ニ留ムルコト
ハ從來ノ實例中多數ヲ占ムル所ナレトモ之レト反對ノ實例

米墨問題ニ関シ在奧露國大使ノ内話トシテ信攬スヘキ筋ヨ
リ聞知シタル所ニ依レハ露國当局者ノ間ニハ米國カ万一墨
國ヲ其勢力下ニ置クカ如キ場合アルニ於テハ日本國ハ太平
洋ニ於ケル地位上非常ノ不利益ヲ蒙ムルヘキニ依リ必ス之
ニ反對スヘク為メニ或ハ武力干涉ヲモ辞セサルヘシト觀察
シ居レリト云ヘリ又奧國一二ノ有力ナル新聞紙ハ日墨西
國間ニ何等カ政治上ノ entente アリトノ推定ノ下ニ今日ノ
場合墨國大統領ハ暗ニ日本ノ後援ヲ期待セルカ如ク論評シ
日本ハ既ニ墨國ニ向ヒテ軍艦ヲ増遣シタリトノ報道ヲ掲ク

ル等今後時局ノ發展ニ伴ヒ非米國側ノ策略モアリ或ハ我ニ不利ナル浮説ノ伝ランモ難計ニ付当地ニ於テモ適當ノ時機ニ於テ本件ニ關スル帝國ノ態度ヲ發表シ置クノ必要アルヤニ思考ス右ニ關シ何分ノ義訓令アリタシ

(秘都發四月二十五日三、〇〇)
(第二五八号)

五八二

四月二十五日 在米國珍田大使ヨリ
加藤外務大臣宛(電報)

在墨邦人ノ米國へ避難ヲ希望スル者ニ對スル

米國側ノ便宜供与ニ關シ國務長官ヨリ申出ノ件

第二二〇号

請ニヨリ四月二十二日面会ノ節國務長官ハ本使ニ對シ避難民收容ノ為メ「サン、デイゴ」ヲ起点トシテ從來墨西哥太平洋沿岸航路ヲ往復シ居ル某汽船会社ノ航海度数及寄港地ヲ臨時増加セシムル筈ニシテ避難本邦人モ船賃自弁ニテ便乗スルコト差支ナシ尤モ移民規定關係上引揚タル本邦人ハ「サン、デイゴ」ヨリ汽車(賃金自弁)ニテ最寄領事館所在地ニ至リ日本國ニ歸ルカ又ハ領事ノ責任ヲ以テ墨西哥國鎮定迄右所在地附近ニ滞在セシメ差支ナシ尚墨西哥國々

境附近避難本邦人ニ對シテモ汽車ニテ同様ノ取計ヲナスヘシ右ノ条件ニテ取計方御希望ナレハ其旨公然申出ラレタシト述ヘタリ右ニ對シ何分ノ義御電訓ヲ請フ

五八三

四月二十六日 在米國珍田大使ヨリ
加藤外務大臣宛(電報)

米墨紛争ニ對スル南米三国ノ居中調停申込ヲ

米國受諾等報告ノ件

第二二二号

米墨紛争ニ關スル其後ノ主要ナル出来事左ノ如シ

(一)四月二十四日「ヌエボ、ラレド」ノ墨國官軍ハ同市ニ放火退却シ米國領事館モ災ニ罹レリ引揚ノ際彼等ハ國際橋梁米國守備兵ニ向ヒ発砲シ米兵之ニ答フ

(二)同日西班牙ハ在米墨國ノ利益保護ヲ引受ケタリ

(三)同日國會ハ志願兵徵募法ヲ可決ス

(四)伯重智三国代表者ノ居中調停ノ申込ニ對シ米國之ヲ受諾セル往復公文四月二十五日發表セラル右回答中米國ハ三國政府ガ其尽力ニ依リ墨國民ノ諸分子ヲ代表スル適任者ヲ見出シ之ト協議ノ上成立セル提案ニ對シ公平且調和的精神ヲ以テ三國政府代表者ト審議ヲ遂クヘキ旨ヲ述フル

ク答ヘ置キタリ

墨濟ミ

五八五

四月二十七日 加藤外務大臣ヨリ
在埃洪國西臨時代理大使宛(電報)

日墨關係ニ關スル無根ノ報道訂正方ニ付回訓

ノ件

第二二〇号

貴電第四〇号ニ關シ帝國ノ墨國ニ對スル政治上ノ利害關係ハ極メテ薄キモノニシテ武力干涉日墨間「アンタント」軍艦増派ノ説ノ如キ何レモ全然根拠ナキ報道ナリ右御含ノ上若シ必要ナラハ新聞紙上ノ誤解訂正等可然御取計アリタシ本電參考トシテ貴電第四〇号ト共ニ在英、仏、独、露、米、各大使ヘ転電アリタシ

五八六

四月二十七日 加藤外務大臣ヨリ
在米國珍田大使宛(電報)

米國ニ避難希望ノ在墨邦人ヘノ便宜供与ニ關

スル國務長官申出ニ付回訓ノ件

第二二四号

貴電第二二〇号ニ關シ米國政府ノ厚意ハ帝國政府ノ深謝ス

ト同時ニ目下米墨外交關係断絶シ居ルヲ以テ米國ノ既定ノ行動ハ之ヲ中止スルヲ得サルハ勿論墨國側ノ侵略の行動ニ對シテハ米國ハ之ヲ阻止スルノ行動ヲ執ルノ外ナキモ平和の解決ニ對スル(脱文)為成ルヘク速ニ良好ノ結果ヲ見シコトヲ希望スル旨ヲ述ヘタリ

(五)目下米國政府ハ在墨米國避難民ノ收容ニ全力ヲ注キ居レリ

(六)米墨紛争ニ對シ日本ハ嚴正中立ノ態度ヲ採ルヘキ旨ノ大隈伯ノ宣言當國諸新聞ニ掲載セラレタリ

五八四

四月二十七日 在米國珍田大使ヨリ
加藤外務大臣宛(電報)

米墨紛争ノ居中調停提案ニ關連シ國務長官ヨリ

リ日本政府ノ処置ニ付質問ノ件

第二二四号

四月二十七日面会ノ節國務長官ハ本使ニ對シ在墨國独仏兩國公使ガ(南米三国)ノ居中調停申出ニ応スヘキ様「ウエルト」ニ勸告シ居ル旨ヲ述べ在墨日本公使モ同様ノ処置ヲ執ラレ居ルヤト尋ネタルニ付本使ハ何等承知スル所ナシ帝國政府ハ米墨紛争ニ對シ純然局外ノ態度ヲ執リ居ル旨ヲ輕

ル所ナル旨竝ニ必要ノ場合ニ於テ右厚意ニ浴スヘキ旨國務長官ニ申述ヘ置カレタシ

五八七 四月二十七日 在墨国安達公使ヨリ
加藤外務大臣宛(電報)

南米三国ノ米墨紛争居中調停ニ関スル在墨國
伯、英公使ノ談話報告ノ件

第一三二号

在米珍田大使ヘ

第一〇四号

貴電第九二号ニ関シ四月二十七日午後五時伯國公使ト会见
同公使ノ談話左ノ如シ

「ウエルタ」政府ハ先刻三国政府ノ居中調停ヲ主義トシテ
承諾シ談判地ハ華盛頓ト定メ解決方法ニ何等(不明)ニ非
ス此事ニ付テハ既ニ二ヶ月以來度々試ムル所アリシガ承認
ヲ受ケサル國ヨリノ調停ニハ応スル能ハストテ常ニ峻拒シ
来リタル「ウエルタ」政府ガ兎ニ角主義丈ニテモ承諾シタ
ルハ既ニ好キ徴候ニ非サヤト述ヘテ談判ノ結果ニ望ヲ属セ
ルモノノ如ク又英國公使モ本使ニ対シ三国調停ニ望ヲ属シ
居ル旨ヲ述ヘ且此際「ウエルタ」ト交渉スルニ非サレハ時

ニハ嚴正中立ヲ守ルヘキ旨及華盛頓電報トシテ日本國政府
ハ墨西哥國政府ヨリ米國內墨西哥國人保護ノ要請ヲ拒絕シ
タル旨伝ヘラレ当地諸新聞皆ナ日本國ニ対シ好意的記事ヲ
掲載シ殊ニ四月三十日「レコード」「ヘラルド」杜説欄ハ
米國ニ対スル日本政府ノ態度最嚴正ナルヲ賞讃シ之レヲ以
テ黄色紙ニ対スル一大痛棒ナリト結ヘリ

五八九 四月三十日 在墨国安達公使ヨリ
加藤外務大臣宛(電報)

墨國変乱ノ際ノ在墨邦人保護ノ手段ニ付回申
ノ件

第一三三号

墨西哥北部諸州ハ日本人ノ最モ多ク在留スルニ拘ハラス当
地トノ交通杜絶ノ為メ直接保護ノ途ナク昨年時局切迫以來
英國領事ニ依頼シアルモ英國領事駐在セサル地方モ渺カラ
ス又米國領事ニ依頼スヘントノ説モアレドモ元來外國領事
ヘ依頼スルノ効果殆ント皆無ナルコトハ貴大臣宛在米大使
往電第一一九号所載各國大使ノ談話ニテモ明白ノ次第ナリ
而シテ昨今現ニ館員急派ヲ電稟スルモノアリ就テハ他ノ公
館在勤員中ヨリ適當ノ者二名墨國在勤ヲ命シ一名「Jares

局収拾スヘカラスト信スルカ故ニ同人ヲ直ニ辭職セントス
ルカ如キコトヲ先決問題トスルハ甚タ不可ナルヲ在米英國
大使ニ注意ヲ与ヘ置キタル由ナリ右ノ通談判地貴地ニ定メ
ラレタルニ付テハ其進行ノ模様ニ付本使ノ参考トナルヘキ
コトハ常ニ本使ニ御電報ヲ懇願ス尚北方叛徒勢力強ク遠カ
ラス首府ニ近ツクヘキ模様アルニ付速ニ調停ヲ進行セシム
ル必要アルヘキ旨ヲ述ヘタルニ伯國公使ハ今朝「ヴェラク
ルス」ヨリ到着シタル一米人ノ言ニ依レハ米國政府ハ叛徒
ト交渉ヲ開始シタル由ナレハ当局ヘ來襲スルコトナカルヘ
シト答ヘタリ(四月二十七日午後九時)

五八八 四月三十日 在シカゴ阿部領事ヨリ
加藤外務大臣宛(電報)

シカゴ諸新聞米墨紛争ニ対スル日本ノ公正ナ
ル態度ヲ賞讃ノ件

第二〇号

米墨關係危殆ニ陥リシ以來伯林電報ニ依リ日本國カ墨西哥
國ニ同情ヲ有スルノミナラス此ノ際同盟ヲ結ヒテ米國太平
洋沿岸遠征ノ陰謀アリト伝ヘラレ竊カニ遺憾トセシ所ナル
カ今回大隈總理大臣ノ言明トシテ日本國ハ米墨開戦ノ場合

ニ駐在シテ Chihuahua Coahuila 兩州ヲ他ノ一名ハ Her-
mosillo ニ駐在シテ Sonora Sinaloa 兩州ヲ各其管轄区域
トシテ何レモ当館ノ指揮監督ヲ受ケ在留日本人保護ノ任ニ
当ラシムルコトハ此際絶對的ニ必要ナルノミナラス北部分
立ノ趨勢ニ照ラスモ甚タ機宜ニ適スル義ニ付是非至急御実
行相願度尚右駐在員ニハ英西兩國語ニ通スルモノヲ選任ス
ルノ必要アル処本年三月公第三七号上申ノ次第モ有之此際
荒井書記生ヲ出張セシムルコトヲ得サルニ付銓衡ノ上馬場
書記生及在智利國三隅通訳生ヲ最モ適任者トシテ推薦ス可
然御繰合ノ上御任命アリタシ

又当局ニ関シテハ今後最惡ノ形勢ヲ想像スルニ米兵若ク
ハ叛徒カ当局ニ來襲シテ外交團ハ「ウエルタ」政府ト共ニ
他ノ地方ニ移ルカ若クハ当局ニ籠城スルカ如キコト万一之
レ無キヲ保シ難シ其場合ニハ交通杜絶スヘキカ故ニ館員俸
給館費及居留民救護費等六ヶ月分概算トシテ邦貨八万五千
円ヲ受取り置ク必要アルヘキヲ以テ時局發展ノ模様ニ依リ
テハ時機ヲ失ハス右ノ送金ヲ電請スルヤモ難計ニ付御含ア
リタシ

以上熟考中ノ折柄貴電第四九号ニ接シ不取敢電稟ス尚自衛

ノ計画ハ各国共極秘ニ付シアルニ付御承知置アリタシ(四月三十日)

五九〇 四月三十日 在墨国安達公使ヨリ
加藤外務大臣宛(電報)

南米三国ノ居中調停ニ依ル米墨紛争ノ解決ハ

容易ニ期待シ難キ件

第一三五号

目下ノ形勢ニ開シ過日米当地官憲及同僚等ト往復探聞スル所大要左ノ如シ

(一)南米諸国ノ居中調停ハ歐洲諸大國陰ニ之ヲ幫助シ居ルコト明カニナレルニ依リ多少其前途ニ屬望シ得ルニ至リ又米國ノ對墨輿論モ昨夜來緩和ニ傾キ米レルニ依リ休戦ノ約ヲ為シ徐ニ居中調停談判ニ入ルヲ得ヘシト觀測セラル只米國ガ昨年八月以來支持シタル「ウエルタ」排斥ノ主張ニ関シテハ墨國官憲ハ米國ハ最早之ヲ支持セサルヘシト觀測シ居レトモ同僚等ハ然ラスト觀測シ居ルヲ以テ談判愈々本論ニ入ラハ直ニ不調ニ歸センコトヲ予期シ墨國及「ウエルタ」自身ノ名譽ヲ損セサル平和の時局收拾策トシテハ米國ヨリ明白ニ「ウエルタ」ノ辭職ヲ提議セラレサル以前ニ「ウ

第一三〇号

伯刺西爾、亞爾然丁、智利調停運動ノ五月一日迄ノ経過左ノ如シ

(一)米國及「ウエルタ」カ居中調停ヲ承諾シタルハ既報ノ如シ「カランサ」ハ米墨紛議ニ関シテハ承諾シタルモ「ウエルタ」關係ニ就テハ留保シテ答ヘス

(二)調停協議進行中休戦ヲ勤告セルニ三国ノ申出ニ對シ米國及「ウエルタ」承諾シタルモ「カランサ」未タ之ニ答ヘス

新聞紙ノ報スル所ニ依レハ却テ叛徒ハ「タンピコ」ノ官軍攻撃ヲ開始シタル趣ナリ
墨濟ミ

五九二 五月三日 在米國珍田大使ヨリ
加藤外務大臣宛(電報)

米墨紛争ニ關聯シ墨國外相辭職ノ件

第一三一号

安達ヨリ貴大臣宛

第一三八号

五月一日墨西哥國外務大臣ハ米國トノ妥協案ニ關シ大統領

一九 「メキシコ」革命動乱關係一件 五九二 五九三

「ウエルタ」ノ辭職ヲ見ル外ナキモ如何セン此際「ウエルタ」ニ對シ周囲ノ墨國人側ヨリ一人モ之ニ勸告スルノ勇アルモノナキヲ以テ「ウエルタ」自身モ辭職ニ付何等考慮シ居ラサル狀態ナリト悲觀シ居レリ而シテ日墨兩國間ノ好情日ニ深厚ナリト信スル同僚及重ナル墨國民間政事家ハ本使ニ於テ斡旋ノ勞ヲ執ルヲ可トスト云フモノアレトモ本使ハ之ニ對シテハ全然内政問題ナレハトテ常ニ態能ク斷ハリ居レリ(三)拙電第一三四号ニ開シ外務次官「エステヴハ、ルイス」ハ攜帶シ行クヘキ訓令ノ關係上ト稱シ未ダ出発ヲ見合ハセタリ

(四)「カランサ」ハ既ニ居中調停ヲ主義ニ於テ同意シタルヲ以テ道理上「ヴィヤ」モ之ニ服従スヘキ筈ナルモ「ヴィヤ」ノ人物及既ニ「モンテレー」ヲモ衝カントセル戰勝ヲ得タル彼トシテハ果シテ然ルヤ否ヤ疑問トセラルル所ニシテ寧ロ「モンテレー」ヨリ長駭首府ヲ襲フニ至ルヘキヲ予想スル者多シ(四月三十日午後十一時)

五九一 五月二日 在米國珍田大使ヨリ
加藤外務大臣宛(電報)

南米三国ノ米墨紛争調停ニ關シ報告ノ件

ト意見合ハス辭表捧呈シ直ニ聞届ケラル後任者不明一般ニ時局甚タ重大ト認メラル(一日午後九時三十分)

五九三 五月五日 在墨国安達公使ヨリ
加藤外務大臣宛(電報)

墨國叛軍治下ノ邦人ノ狀況、叛軍ノ財源等出雲艦長ヨリ海軍大臣宛報告取次ノ件

別電 同日安達公使發外務大臣宛電報第一四一号

右海軍大臣宛報告

第一四〇号

空電ト目下頻繁ナル交信トニ妨ケラレ發電シ難キタメトテ在「マサトラン」森山艦長ヨリ海軍大臣ヘ發電方米艦ニ托シ四月二十六日付書信ヲ以テ依頼アリタルニ付別信數電海軍大臣ヘ御移牒ヲ乞フ

(別電)

五月五日在墨国安達公使發加藤外務大臣宛(電報)

出雲艦長ヨリ海軍大臣宛報告

第一四一号 別電

「トモヤ」ノ談在留邦人^(註2)方面二十四人^(註3)Heh方面百十七人「マンダ」方面八人一般ニ格別ノ影響ヲ受ケス各其

八七三

業ニ安シス革命以来強行徴発ヲ受ケ不払ノ儘ナルモノ各方
面トモ一二二人アリ多キモ五百「ペソ」ヲ超エス少キハ約五
十「ペソ」ナリ是等ハ「トモヤ」会谈ノ結果遠カラス夫々
支払ヲ約セリ「ノガレス」ヨリ邦人ノ入国ハ西人支那人ト
事実禁止同様ナリ即チ「ソノラ」「シナロア」ニ永住セル
コトアルモノ又ハ有力ナル知人ヲ有セルモノノ外通過セシ
メサル現状ニアリト云フ州当局ハ決シテサル事実ナシト称
ス会谈ノ結果間接ニ改善ノ効アラシモ元来「ノガレス」移
民官ハ「カランサ」直屬ノモノニテ極メテ意地悪キモノナ
リトノコトナレハ直接彼等ノ誤解ヲ解カサレハ改善ノ効ナ
カルヘシ視察地ノ邦人ハ一般ニ好意ヲ以テ取扱ハレ居レリ
革軍側上下カ誤解シテ我國ニ惡感ヲ拘ケル点ハ日本ハ「ウ
エルタ」政府ノ肩ヲ持ツカ如シ三井ハ兵器彈藥ヲ供給シテ
敵側ノ便宜ヲ計レリ出雲艦長ノ歡迎「デラバラ」ノ歡迎ハ
何等カノ特別關係アルカ故ナルヘシト云フカ如キ淺墓ナル
邪推ニアリ会谈ノ結果誤解ヲ解クニ効アリシハ勿論ナレト
モ尚一般ニ亘リ了解セシムルノ手段ヲ執ル必要アルヘシ
北墨六州独立ノ上米國保護下ニ入ラントノ説ハ無根ナルカ
如シ

3 Her く Hermosillo ナリ

五九四 五月六日 加藤外務大臣ヨリ
在墨国安達公使宛(電報)

「メキシコ」北部居留邦人保護ノ為メ伊藤書

記生派遣ノ件

第五四号

貴電第一三三三号ニ関シ外務書記生伊藤敬一ニ桑港在勤ヲ命
シ「エルパソ」ニ駐在セシメ専ラ貴官ノ指揮ノ下ニ在留邦
人ノ保護ニ任スルコトトセリ伊藤ハ至急出発ノ答

五九五 五月七日 在墨国安達公使ヨリ
加藤外務大臣宛(電報)

三井力墨国政府ニ売込ノ武器到着予定問合ノ

件

第一四六号

三井力墨西西哥国政府ニ売込ミタル武器ハ四月二十八日本
邦ヨリ積出サレタル旨数日前当国外務次官ヨリ内聞セル処
右ハ何船ニ積込ミ何処經由何時頃当国何港ニ到着ノ予定ナ
ルヤ時局關係上承知シ置ク必要アルニ付キ本使内密ノ心得

革命ノ財政ハ富豪ノ財産全部没収ヲ第一ノ財源トス没収ノ
上土地ハ小作ニ賃貸シ又家屋ヲ賃貸シ道具ハ売却ス去ル五
日「クリアカン」ニテ官軍奥シトノ口実下ニ残レル富豪等
五十四五名ハ米領ニ放逐セラレ停車場泣別レノ光景ハ悲惨
ヲ極ム

土地売買ハ過船来禁止セリ之レ没収ヲ恐レテ名義ヲ外人等
ノモノトナスヲ防クノ手段ナルカ如シ第二ハ不換紙幣ノ乱
発ナリ革軍諸州ヲ通シテ現在約四千万「ペソ」ニ達スヘシ
一二千万「ペソ」ハ米銀行ノ保証アルモノナリト云フ「デ
ユランゴ」州紙幣ハ最早通用セス在留邦人ハ前途価値ナカ
ルヘシトノ紙幣ヲ貯フルコトヲナサス或ハ土地ヲ買ヒ扱メ
或ハ商業ノ發展ニ使用セルカ如シ第三ハ下級人民ニ直接影
響ナキ増税ニテ給与ニハ現在渋滞ヲ見サルカ如シ(不明)
交通極メテ少数ノ汽罐車ト客車貨車ニ依ル故意外ニ困難ニ
テ殆ト全部軍用ニ使用シ旅客ヲ収容セス(不明)為サル六
日頃(不明)セシメタレハ(不明)ヲ見ルコトアルヘシ
終ル 出雲艦長

註1 「トモヤ」ハ友貞大尉、細谷中尉ナリ
2 Culi く Culiacan ナリ

迄ニ電報アリタシ尤モ右ニ関シ当地三井代理人ニ於テハ何
等通知ニ接セサル由

五九六 五月八日 在墨国安達公使ヨリ
加藤外務大臣宛(電報)

墨国 Puerto Mexico ノ在留邦人英艦ニ避難

等報告ノ件

第一四八号

四月二十一日以来墨間形勢不安ノ為メ Puerto Mexico
(「ウエラクルーズ」州)在留邦人一同ハ同港碇泊英國軍艦
ニ避難スルコトナレル旨同地邦人ヨリ四月二十三日附電
報本日到着セリ又 Chiapas 州 Tapachula 日墨共同会社
ヨリノ電報ニヨレハ同地方残留米人ハ捕縛セラレ人心騒然
タルモ在留邦人ハ皆無事其業ニ安ンセル由(五月八日)

五九七 五月九日 加藤外務大臣ヨリ
在墨国安達公使宛(電報)

英艦避難ノ Puerto Mexico 在留邦人ノ員数

及現状電報方訓令ノ件

第五七号

貴電第一四八号ニ関シ Puerto Mexico 在留本邦人ハ何名ナルヤ又今尚英国軍艦ニ避難中ナルヤ御取調ノ上電報アリタシ

五九八 五月九日 加藤外務大臣ヨリ
在墨国安達公使宛(電報)

三井ガ墨国政府ヘ売込ノ兵器ハ積出見合ノ件

第五八号

貴電第一四六号ニ関シ三井ハ始メ御米示通ノ企画ヲ為シ居タル処時局上東洋汽船会社ニ於テモ其輸送ヲ拒ミタル為旁々全然積出方ヲ見合セタル趣ニシテ右ハ客月末貴地三井代理人ニ電報シタル由ナリ

五九九 五月十一日 在墨国安達公使ヨリ
加藤外務大臣宛(電報)

英艦ヘ避難ノ Puerto Mexico 在留邦人数及

其現状報告ノ件

第一五〇号

貴電第五七号ニ関シ Puerto Mexico 在留本邦人ハ十六名ニテ四月二十三日一同英艦 Berica ニ避難シ二十八日英艦出帆ニヨリ同日一同上陸セシカ其後危険ナク一同安心セル

旨同地邦人ヨリ電報アリタリ(十一日午前)

六〇〇 五月十四日 在墨国安達公使ヨリ
加藤外務大臣宛(電報)

墨国叛軍ノ「タンピコ」占領、南米三国ニ依ル米墨紛争居中調停会議ニ対スル墨米ノ方針等報告ノ件

第一五二号

往電第一四七号ニ関シ其後当国官憲竝同僚等ト往来探聞スル所左ノ如シ

(一) 「タンピコ」ハ五月十三日遂ニ叛徒ニ占領セラレタルヲ以テ官軍ハ同地敗兵ト共ニ「サルティエヨ」ヲ撤兵シ「サンリスボトシ」及「アグアスカリエンテス」ニ於テ防戦ヲ為ス計画目下準備中ナリ占領後ノ「タンピコ」ハ平穩ナル為メ予テ同地ヨリ避難シ居レル在「ヴェラクルス」英国人ノ一部ハ英国軍艦ニヨリ本日帰途ニ就キタル由ナレバ同地本邦人ハ無論安全ナルベシ

(二) 「ナイアガラ」會議^(註1)ニ関シ墨西哥国委員三名ハ五月十一日家族ヲ携帯シ当地ヲ出発セルガ其ノ受ケタル訓令ノ内容ハ極秘ナルモ全權委任状ハ墨西哥国外務大臣代理ノ

ハ未タ該巷説ノ真否ヲ確メ得サルヲ遺憾トス

(四) 拙電第一四七号西国公使ノ叛徒入京予防案ニ付テハ他ノ同僚等ニ於テモ其実行不可能ナルヲ説キ且米国政府ノ此際敢テセザル所ナルヲ察シツアリ又西国公使ト同一ノ趣旨ニ依リ同僚中ニハ各国海兵入京ノ議ヲ説ク者アレトモ本使ハ今日ノ所其ノ実行ハ種々ノ關係上(昨年拙電第九五号第三項^(註2)参照)前議ニ比シ更ニ多大ノ困難アルヘシト存シ居レリ(五月十四日午後六時三十分)

註1 五月七日安達公使発外務大臣宛電報第一四七号ハ省略セラレタルガ同電中ニ左ノ一章アリ
「五月五日調停者ハ談判地ヲ加奈陀側「ナイアガラ、フォール」トシ五月十八日ヨリ談判開始ヲ米墨兩國政府ニ申入レタルカ墨国政府ハ喜ンデ之ヲ承諾シタリ談判地ニ就テハ相手方同意セシナラン」

註2 日本外交文書大正二年第一冊二八五文書ノ(三)(第三九四頁)

六〇一 五月二十日 在米国珍田大使ヨリ
加藤外務大臣宛(電報)

墨国叛軍進撃ノ状況、米墨紛争調停ノ「ナイアガラ」會議五月二十日開会等報告ノ件

(三) 米国カ今回ノ會議ニ於テ提出スヘキ条件ニ関シ兩三日

米巷説トシテ一部ニ伝ヘラルル所ニ依レハ「ウエルタ」辭職国債竝 Concession 制限「テウアンテペック」鉄道賃銀制限米国人損害賠償「マグダレナ」灣租借ニ如フニ日本人支那人入国禁止ヲ条件トスル由ナルガ本使ニ於テ

第一四三号

往電第一四二号ニ関シ第一叛軍ノ一部隊ハ「サンルイスボトシ」附近ノ官軍ヲ破リ同地ヲ占領シタリト云フ第二「ヴェラ」ノ兵ハ「サルティヨ」附近ニテ尚交戦中第三「ウェルタ」ノ内務大臣 Urrutia ハ五月十八日墨都ヨリ「ヴェラクルス」ニ逃ケ来レリ第四「ナイヤガラ」会議ハ二十日ヨリ開会セリ第五憲政軍首領「カランサ」ハ墨国内部ノ問題ヲ処理スルハ墨国民ノ權利ニ屬スルヲ以テ憲政軍ハ「ナイヤガラ」會議ノ約束ニ拘束セラルルモノニアラストノ態度ヲ維持スト伝フ

墨濟

六〇二 五月二十四日

在墨国安達公使ヨリ
加藤外務大臣宛(電報)

墨国大統領「ウェルタ」ガ退職ヲ辞セザル趣旨ヲ「ナイアガラ」會議ニ於テ宣言セシメタル旨ノ情報等ニ関スル件

別電 五月二十四日安達公使発加藤外務大臣宛電報第一五九号

墨国政府向ケ武器積込ノ風説アル静洋丸ニ関シ
米国政府ニ説明方珍田大使ニ依頼ノ件

ヤ四月二十一日独逸国汽船 Ypiranga ガ墨国政府宛ニテ武器ヲ積ミ居リタル為米国軍艦ヨリ停船命令ヲ受ケタル前轍ニ顯ミ大ニ懸念シ居ル由静洋丸ニ武器ヲ積込ミ居ラサルハ貴電第五八号ノ通ニ有之又仮ニ積込ミ居ルトスルモ停船臨検等ヲ為スコト能ハサル義ナルガ万一ノ事故予防ノ為別電第一五九号ノ通在米大使ニ發電シタリ
何或ル信スヘキ筋ヨリ聞得タル所ニ依レハ墨国政府ハ「ナイアガラ」會議ニ米国ヨリ日本人墨西哥入国禁止問題ヲ予期シ其場合ニハ断然之ヲ拒絕スヘキ旨墨国全権委員ニ訓令シ置キタル由ノ処当国政府当局者ハ本使ニ対シ該會議々題ヲ全然秘シ居リ從テ該問題ガ會議ニ上ラサルコト明白ナラサルニ付本使ハ尚懸念ニ堪ヘス当地限ニ於テハ引続キ探查ヲ怠ラサルヘシ(五月二十四日午後二、三〇)

(別電)

五月二十四日在墨国安達公使発加藤外務大臣宛(電報)

墨国政府向ケ武器積込ノ風説アル静洋丸ニ関シ米

国政府ニ説明方珍田大使ニ依頼ノ件

第一五九号

珍田へ第一二三号

第一五八号

拙電第一五二号ニ関シ

(一)「ウェルタ」ハ五月二十一日「ナイアガラ」會議ニ於ケル墨国全権委員ニ電報シ若シ調停国ガ平和ノ為必要ナリト認ムルニ於テハ自分ノ進退ニ関シ遠慮セラレサル様致度旨ヲ宣言セシメタル由五月二十三日伯国公使ヨリ確聞セリ又墨国外務大臣代理ハ「ナイアガラ」會議ガ五月三十日頃終了スルコトヲ信スル旨本使ニ語レリ

(二)「ウェルタ」退位後叛徒入京前首府ハ一時無政府ノ状態ニ陥ル懸念アルモ英國公使ガ本使ニ示シタル在米英國大使ノ來電ニ依レハ同大使ガ「ウェルタ」退位後如何ニシテ後継政府ヲ組織スルヤトノ質問ニ対シ米国國務長官ハ Nature requires vacuum 其内ニ何トカ好キ工夫モ附クナラント答ヘタル由ナレハ米国政府ハ米軍ノ入京ヲ断行セサルヘク察セラレ且各国水兵ヲ入京セシムルコトモ甚タ困難ナルヘケレハ其ノ間秩序ヲ維持センカ為執ルヘキ手段ニ関シ同僚間ニ内談中ナリ

(三)五月二十七日「マンサンヨ」着ノ静洋丸ニ武器ヲ積込ミ居ル由米国新聞ニモ見エ当国当局者モ之ヲ信シ居ルモノニ

外務大臣宛拙電第一五八号(三)ニ関シ万一米国軍艦ニ於テ無根ノ想像ニ驅ラレ誤リテ停船等ノ手段ヲ執ルコトアラハ甚タ遺憾ナルニ付万全ヲ期スル為貴大使ヨリ米國々務長官又ハ適當ナル向ニ可然御話シ置カルル様御取計下サルコトヲ得ハ仕合ト存ス(五月二十四日午後十一時三十分)

六〇三

五月二十五日 在米国珍田大使ヨリ
加藤外務大臣宛(電報)

静洋丸ニ関シ事前ニ國務長官ニ申入ルルハ不

得策ナル旨在墨公使へ電報ノ件

第一五〇号

在墨安達公使宛第一二二号

貴電第一二三号ニ関シ武器ヲ積込ミ居ルヤ否ヤニ拘ハラス米国側ニ於テ停船臨検等ヲ行フヘキ謂レナキ静洋丸ノ入港ニ関シ想像ニ基キテ國務長官ヘ予メ交渉スル事ハ却テ武器密輸入ヲ隱蔽スルニ非サヤトノ感覺ヲ与フルノ虞ナシトセス況ヤ静洋丸ハ武器ヲ積載シ居ラサルニ於テハ尚更右様ノ交渉ヲ要セサルヘシト思考ス尚ホ軍艦ニ不都合ノ所為アラハ交渉スヘキニ付速カニ御電報アリタシ

六〇四 五月二十九日 在墨国安達公使ヨリ
加藤外務大臣宛(電報)

出雲艦長ト協議ノ為「マンサニヨ」へ出張ニ
関スル件

第一六三号

拙電第一六〇号ニ関シ出雲ハ五月二十七日「マンサニヨ」ニ回航シ当分該地滯泊ノ予定ナルニ付テハ之カ為本使往復日数ヲ短縮シ得ラルヘク且「ナイアガラ」會議ニ於テ日本人墨西哥入国禁止問題ハ今日迄未タ提出セラレサルコト墨国外務大臣代理ヨリ確聞シ且万一提出セラレタルトキハ墨国政府ハ全力ヲ尽シテ之ヲ排斥スヘキ旨明言ヲ得タルノミナラス為念伯国公使ノ好意ヲ以テ夫レトナク在米国伯国大使ヘ聞合セ貰ヒテ前記問題ノ提出ナキヲ確ムルコトヲ得タルニ付又当地ノ形勢ニモ急ニ大変化ナカルヘク觀察セラルルニ付本使ハ武富外交官補帶同五月二十九日午後六時当地ヲ出發セリ「マンサニヨ」着ハ五月三十一日ニシテ同日午後五時同地発六月二日午前八時帰京ノ予定ナリ内務大臣ノ言ナリトテ信スヘキ筋ヨリ聞得タル所ニ依レハ米国政府ハ「マグダレナ」灣租借若ハ買収ノ要求ヲ「ナイ

官兩軍ニ入りタルモノ約百三十名アル由ヲ聞キタルモ其内最近戦死者四名負傷者六名及逃亡セルモノ十数名ヲ除キテハ本邦人ニシテ迫害ヲ受ケタルモノアルヲ聞カス目下当地方生命ニ危険ノ虞ナシ

珍田大使安達公使阿部領事済ミ

六〇六 五月三十一日 在墨国安達公使ヨリ
加藤外務大臣宛(電報)

「ナイアガラ」會議ノ進行状況、日本人入墨
禁止ノ提案無キコト等在墨伯国公使ノ談話報
告ノ件

第一六四号

五月三十日田辺書記官伯刺西爾国公使ト会谈ノ結果左ノ如シ

(一)日本人入墨禁止問題ニ付キ伯刺西爾国公使ハ在米伯刺西爾大使來電ノ内容ヲ示サレタルカ該問題ハ未タ提出ナキコトヲ述ヘタル後万一提出セラルルコトアルモ調停者ハ之レヲ受付ケサルヘシトアリ

(二)在米大使往電第一五二号訳文ヲ示シタルニ同公使ハ熟読ノ上大体ニ於テ真相ヲ得タルモノト評シタル後大要左ノ如

一九 「メキシコ」動乱革命關係一件 六〇六 六〇七

アガラ」會議ニ於テ提出シ墨国政府ニ於テハ一旦之ヲ峻拒シタルモ米国政府ハ尚之ヲ固守シ居ル由(五月二十九日午後八時三十分)

在米大使済

六〇五 五月三十日 在イーグルバス馬場書記生ヨリ
加藤外務大臣宛(電報)

「イーグルバス」近傍ノ墨国在留邦人ノ状況

報告ノ件

第一号

阿部領事宛貴電第一二二号ニ関シ Porfirio Diaz 及其附近ニ在ル本邦人ノ数ハ約百五十名ニシテ其内四十名ハ客月叛徒ノ同市占領以來職ヲ失ヒテ目下糊口ニ窮シ居レリ右等ノモノハ最近迄本邦人商店ヨリ救助ヲ受ケ生活シ居タルモ商店ハ此上救助ヲ施スノ資力ナキヲ以テ己ムヲ得ス二十八日ニ至リ叛軍ノ兵士ヲ志願セルモノ三名アリ右ノモノ入隊スルニ於テハ統テ数名ノモノハ叛軍ニ投スヘキ形勢アリ又当市附近ニ於テハ差当リ職業ヲ得ヘキ見込ナシ Palau 炭砒ニ二百名以上 Rosta 炭砒ニ十五右両炭砒附近ニ散在スルモノ約五十名アル由ニ付其消息ハ目下探索中ナリ又客年來叛

ク内話セリ今回ノ會議ニ於ケル米国ノ態度ノ頗フル温和ナルハ当地ニ於テ尽力ノ末(此ノ事秘密ナリト注意セリ)「ウエルタ」ヲシテ其ノ退位ノ已ムヘカラサルヲ悟リ會議ニ先チ自カラ進ンテ辞意ノ宣言(拙電第一五八号)ヲ為サシメタルカ故ニシテ之レニ関スル訓電ハ五月十九日午前二時墨西哥国委員ニ發送セラレタリ其ノ結果予期ノ如ク大ニ米国政府ノ「ウエルタ」ニ対スル態度ヲ一変セシメ會議モ好都合ニ進行シツツアリ最近武器輸入サヘモ默許スルニ至リタル次第ナリ多分會議ハ兩三日中ニ終了スルナラン云々

(三)「マグダレナ」灣租借説ニ就テハ同公使ハ事實無根ナリト否認セリ

米済

註

在米大使發外務大臣宛第一五二号省略セリ同電ハ「ナイアガラ」會議ニ於テ略々協定ニ達セリト云フ墨国新政府設立ノ手順等ニ関スル新聞報道ヲ綜合報告セルモノナリ

六〇七 六月一日 在米国珍田大使ヨリ
加藤外務大臣宛(電報)

「カランサ」五月三十一日墨国仮大統領タル
コトヲ宣言ノ件

第一五六号

「カランサ」ハ自ラ仮大統領タルコトヲ五月三十一日宣言シ「サルティエーヨ」ヲ仮ノ首府トナシ内閣員選任ニ着手シタリト云フ三国調停者ハ「カランサ」カ休戦ヲ承諾セサレハ其代表者ヲ「ナイアガラ」会議ニ出席セシムルコトヲ肯シセス

六〇八 六月二日

在墨国安達公使ヨリ
加藤外務大臣宛(電報)

墨国「コアウィラ」方面ノ邦人困窮者ノ兵士

志願説諭方並従軍邦人ノ逃亡等ニ関シ馬場書

記生へ指示ノ件

第一六六号

馬場書記生ヨリ窮難民中兵士ヲ志願スルモノ続出シタル由ニテ説諭シテ之ヲ止ムヘキヤ又ハ其儘ニ放任シテ然ルヘキヤ五月二十九日附第五号電報ヲ以テ伺出タルニ付兵士ヲ志願スルモノニ対シテハ説諭ヲ加ヘテ成ルヘク思止マラシムヘキ旨回訓シ置キタリ又同書記生ヨリ六月一日附第六号ヲ以テ左ノ通電報アリタリ
官軍ノ兵士ニシテ逃亡シテ「ボルフキリオ、デアス」ニ隠

レ居ル本邦人約十名アルコトハ公然ノ秘密トシテ叛徒側ニ於テモ今迄黙許シ来リタルコトハ日本人ニ同情ヲ有スル Murgia 將軍ノ influence ニ依ルモノナルモ目下同將軍カ当市ニ居ラサルヲ機トシテ当地新聞ハ右日本人ヲ検挙シ嚴罰ニ処スヘシト論シ輿論ヲ喚起セント努メ居レリ就テハ当地在留寺沢ハ平素同將軍ト親交ノ好アルニ付同人ヲ Monclova ニ送り同將軍ニ面会シテ其 influence ヲ仮リテ右新聞紙緩和策ヲ講セシメタシト存スルニ付同人ノ旅費雜費トシテ米貨三十弗閣下ヨリ御支出下サレ間敷ヤ尚序ニ同人ヲシテ過日戦争ニテ負傷ニ悩メル同胞一名ヲ Muquiz ナル本邦人医者ノ下ニ送り届ケタク同時ニ Palau 地方ノ状況モ内偵スル様依頼致シタシ
右ニ対シテハ本日米貨三十弗電信為替ニテ送金シ寺沢出張ノコト取計ハレタキ旨回電シ置キタリ(二日午後八時)

六〇九 六月三日

在米國珍田大使ヨリ
加藤外務大臣宛(電報)

「ナイアガラ」會議ニ於テ墨國委員ヨリ「ウ

エルタ」大統領ノ辞意ニ付公表ノ件

第一六〇号

「ウエルタ」政府ノ委員ハ墨國政事の平和状態回復サルルニ於テハ大統領ハ引退スルコトニ決定シ居ル旨竝「ナイアガラ」會議カ國際紛議調停方ヲ協議スルニ当リ内國ノ平定策ヲ講究スルハ國權ヲ侵害スルモノト認メサル旨ヲ公表セリ
二、米國政府ハ「カランサ」代表者ノ出席ヲ希望シ居ルモ三国調停者ハ前提条件トシテ戦闘ヲ中止スルヲ要ストノ意見ヲ變セシテ此趣旨ヲ以テ「カランサ」ニ回答スヘシト云フ
墨濟ミ

六一〇 六月五日

在墨國田辺公使館書記官ヨリ
加藤外務大臣宛(電報)

出雲艦長ト協議ノ為「マンサニヨ」ニ出張ノ

安達公使叛軍鉄道破壊ニ依リ帰京困難トナリ

タル件

第一六七号

往電第一六三号ニ関シ安達公使ハ途中鉄道故障ノ為メ六月一日「マンサニヨ」著同夜 Colima ニ歸リ六月二日朝 Colima 發 Guadalajara ニ向フ旨電報アリタル処六月三日

「グアダラハラ」滞在中ノ中里大尉ヨリ「コリマ」「グアダラハラ」間ナル Sayula 附近ノ鉄道及橋梁叛徒ノ為メ破壊セラレテ六月二日以来不通トナリ且電信モ通セサル旨電報アリタルニ付小官ハ直ニ外務大臣代理ヲ訪問シテ公使一行ノ保護ヲ依頼シ置キ一面出来得ル限りノ手段ヲ執リテ一行ノ消息ヲ知ルニ努メタル処六月四日ニ於テ当國政府ノ無線電信ヲ借り出雲ト通信スルコトヲ得テ(六月三日夜モ之ヲ試ミタルモ成功セズ)左ノ通公使ヨリ六月三日発電報転電アリタリ「昨日 Sayula ニ在リ延着叛徒出沒危険アリ帰京ノコトハ甚困難ト察セラル田辺へ無線電信ニテ墨國政府へ交渉方申送ラレタシ」

六一一 六月九日

在墨國田辺公使館書記官ヨリ
加藤外務大臣宛(電報)

叛軍鉄道破壊ニ依リ帰京困難トナレル安達公

使ノ出迎ノ為特別車及自動車差立方墨國外務

大臣ニ依頼ノ件

第一七四号

六月八日夜無線ニテ出雲艦長ヨリノ通信左ノ如シ
森少佐一行ハ七日午前十時「サユラ」安著公使ノ一行安全

ナリ森ノ一行全部ハ公使ノ一行ト合シ九日早朝馬上ニテ「サユラ」発「グアダハラ」ニ向ヒ十日同市著ノ予定名譽領事ハ病氣ノタメ同行シ難ク「サユラ」ハ何等ノ不安ヲ感セサル現状故当分同地ニ滞在スル旨在「サユラ」森少佐ヨリ Zapotlan 局発ノ電ニ接ス「サユラ」ニハ叛軍居ラサルモノト推察セラル

右ノ報ニ接シタルニ付小官ハ直チニ外務大臣代理ニ面会シ「グアダハラ」ノ知事ニ電訓シテ公使一行出迎ノ為メ至急自動車ヲ差立シムル様依頼シ同時ニ在同地日本人ニモ依頼シテ別ニ自動車ヲ雇入レ日本人二名ヲ乗セテ公使出迎ノ為メ至急出発セシムルコトセリ又当地ニ於テハ外務大臣代理ニ交渉シテ特別車及自動車三台ヲ「グアダハラ」ニ送ルコトニシ三浦書記官日本人五名ヲ率ヰ本日午後六時出発ノ筈（六月九日午後一時）

六一二 六月十三日 在墨国安達公使ヨリ
加藤外務大臣宛（電報）

安達公使帰館ノ件

第一八〇号

本使三浦書記官武富官補ヲ帶同シ森少佐一行ト共ニ本日無

事帰還ス（六月十三日）

六一三 六月十三日 在墨国安達公使ヨリ
加藤外務大臣宛（電報）

「マンサニヨ」出張ノ帰途鉄道破壊ノ為出雲艦長及墨国官憲、叛軍司令官等ノ援助ニ依リ
帰館ノ状況報告ノ件

第一八一号

拙電第一八〇号ニ関シ本使ハ「マンサニヨ」ヨリノ帰途「コリマ」出発ニ至ル迄ハ五月二十九日夜「サユラ」ニ於ケル官軍一部ノ無法ナリシコト「サコアルコ」方面ニ草賊出沒ノ報及「ピエダ」附近不穩ノ徵ヲ目撃セルノミニテ特ニ鉄道沿線ニハ危険ヲ感セス單ニ目下鉄道燃料供給欠乏ノ為発着不規則ナルコトヲ知りタルノミナリシカ六月二日朝「コリマ」ヲ発シテ正午「サユラ」駅ニ近ツクト共ニ出沒セル革命軍ト小銃戦ヲ開始シテ既ニ破壊セラレタリシ橋梁ヲ修繕シツツ汽車ハ進行シテ午後四時辛シテ「サユラ」駅ニ達セリ然ルニ同駅以後ノ各駅ニモ多数ノ革命軍アリテ鉄道破壊セラレ居ルトノ報アリタルノミナラス夜ニ入ルト共ニ革命軍襲来ノ危険益々加ハル虞アリ乗客一同ノ恐慌一方ナラ

ス護衛兵指揮ノ勸告モアリ本使ハ武富官補「マンサニヨ」名譽領事一行並ニ出雲水兵五名ト共ニ普通乗客ト前後シテ午後六時「サユラ」町ノ一旅館ニ入レリ前記革命軍ハ本使ノ首府出発ノ時日ト前後シテ「テビツク」州方面ヨリ出動シ来リ急遽「ハリスコ」州方面鉄道沿線ヲ占領シテ「グアダハラ」ニ北上セントスルモノノ如ク其勢力侮リ難ク當時既ニ「サユラ」ノ北「カルメリタ」「コフラディア」ヨリ「サコアルコ」ニ至ル地点ヲ占領シ居リ三日ニ至リ南方「サボトラ」方面ヲモ占領セルヲ以テ「サユラ」ハ三日ニ至リテハ全然孤立シ鉄道及電信ハ遮断セラレ本使ハ其所ニ在ヲ通信スルノ方法ナク四日ニ至リ「ハリスコ」州知事ニ宛保護方並ニ必要ナラハ革軍ト交渉シテ本使通行ノ安全ヲ図ル様依頼ノ密使ヲ送ランカ為郡長ヲ經テ二十有余人ニ依頼シタルモ皆沿道ノ危険ヲ恐レテ応セス六日朝辛シテ一人ヲ得書信ヲ托シタルモ時既ニ遅ク官軍對峙ノ形勢ハ「サユラ」ノ官軍ニハ日々ニ非ニシテ同官軍ハ最早援兵ヲ得ルノ望ナク且彈藥軍資欠乏ノ為又モヤ謀反ノ兵士ヲ生スヘキ徵ヲ呈スルニ至リ官軍指揮官ハ本使ヲ來訪シ「サユラ」ヲ撤退シテ「チャバラ」經由「グアダハラ」ニ引揚タルノ已

ムヘカラサルヲ告ケ本使ニ同行ヲ勸メタルモ本使ニ於テハ最早近ク来リテ「サユラ」ヲ占領スヘキ革命軍ト交渉シテ進退ヲ決スル外ナシト信シ体ヨク断リタリ斯クテ六日夜官軍ハ全部撤退七日ニ至ルモ革命軍来ラスサレト出雲艦長ノ派遣セル森少佐中尉ノ一行ハ同日午前「トウスパン」ヨリ騎馬ニテ到著シタルカ之レ三日朝「マンサニヨ」ヘノ電信線一時回復セル際發送セル本使ノ電報ニテ本使ノ所在明白トナリ出雲艦長ニ於テ迅速ニ森少佐一行ヲ派遣シ同一行ハ「サボトラ」ニ於テ革將ト交渉シ本使ノ所在ヲ確メ急行シ来レル結果ナリ而シテ同日夜「サユラ」市民代表者ハ「コフラディア」ニ在ル革命軍ニ招カレタルヲ機トシ本使ノ滞ヲ革將ニ語リタルニ革將ハ本使カ北上「グアダハラ」ニ赴クニ付出来得ル限りノ便宜ヲ与フル旨宣明セル趣ヲ本使ニ告ケタルノミナラス翌八日革命軍ノ騎兵隊約四百ハ「サユラ」ニ来リテ本使ヲ訪問シ敬意ヲ表シ市民ノ予テ恐怖セル掠奪其他ハ一切之ヲ行ハスシテ去リシハ特ニ本使ヲ憚リタルノ形跡アリ依テ森少佐トモ協議ノ上南行シテ「マンサニヨ」「サリナクルス」經由ノ途ニ依ルヨリモ寧ロ北行シテ「グアダハラ」ニ至ルヲ以テ機宜ノ処置ナリ

ト一決シ九日朝九時本使及武富官補ハ森少佐ノ率ユル下士卒十一名ノ周到ナル護衛ヲ受ケツツ全隊騎馬ニテ北上ノ途ニ就ケリ時恰モ「カルメリタ」「コフラディア」方面ノ革命軍ノ大部分ハ附近ニ出動シ六日「サユラ」ヲ撤退セル官軍ト交戦中ニシテ沿道ハ同日夕刻「サコアルコ」ニ至ル迄小數ノ革命軍ヲ見タルノミナリシモ「サコアルコ」ニハ革命軍司令官アリテ本使ヲ迎ヘ其好意ニ依リ郡庁内ニ宿泊スルヲ得タルノミナラス翌十日同地出発ノ際ニハ同指揮官ハ「サントアンナ」附近迄護衛ノ將士ヲ送り紀念品ヲ送ルナト款待頗ル努メ十日午後九時本使一行ハ無事「トラホームルコ」ニ著シ一泊ノ上十一日同所ヲ発シテ「サントアヒタ」ニ至リ此ニ前夜護衛隊ヨリ出セル急使ノ報ニ依リ三浦書記官外數名カ墨国政府及「ハリスコ」州知事ヨリ供給シタル自動車ヲ以テ本使ヲ迎フルニ会シ一行ハ馬ヲ棄テテ自動車に依リ午前十一時「グアダハラ」ニ著シ一泊ノ上十二日午前墨国政府ヨリ特派セラレタル特別列車ニ依リ本日当府ニ歸著セリ「サユラ」出発以來長路ノ旅行頗ル困難ナルニ拘ラス本使等ヲシテ何等ノ危険ニ遭逢セシメス斯ク速ニ本使ヲシテ当府ニ歸著セシメタルハ全ク出雲派遣隊ノ機敏果

斷ナル行動ニ依ルコト勿論ナルカ首府在留民中ヨリモ決死隊五名ヲ以テ三浦書記官ニ伴ハシメ「グアダハラ」在留民中ヨリモ汽車沿道ヲ搜索スル為鐵道工夫ニ変装シ出発セシモノアル等熱心ナル尽力モ亦本使ノ感激ニ堪ヘサル所ナリ又本使通過ノ沿道ハ革命軍出沒ノ為人心恐慌タルニ拘ラス至ル所ノ民衆本使一行ニ対シ便宜ヲ供給セルノミナラス官軍兩軍何レヨリモ均シク本使一行ニ対シ好意ヲ表シタルコトハ一同ノ快感ヲ惹起シタル所ナリ尚本使不在中時局ニ大変化ヲ来サスヤト常ニ懸念シ居リタルニ大局ハ今尚依然トシテ客月下旬ノ如クナルヲ認メタルハ本使ノ僥倖トスル所ナリ(六月十三日)

註 本電報ノ外務省著ハ六月十七日後七、二〇

六一四 六月十四日 在墨国安達公使ヨリ
加藤外務大臣宛(電報)

米墨紛争調停ノ「ナイアガラ」會議完了後軍艦出雲ノ帰還方及交代艦ノ派遣方稟請ノ件

第一八二号

出雲ハ既ニ半年間当國ニ滯泊シテ太平洋沿岸ニ於ケル本邦人ニ保護慰安ヲ与ヘ将来万一ノ危険ニ処スル途ヲモ会得セ

シメ且列国海軍指揮官ト避難ニ関スル方法ヲモ協定シ又官革双方ニ対シテハ機宜ノ措置ヲ施シ以テ一般同胞ノ地歩ヲ安固ナラシメタルヲ以テ今後該沿岸地方ノ形勢ニ変化アルモ最早出雲ノ滯泊ヲ絶對的ニ必要トスルコトナギニ至レリ依テ目下進行中ニシテ遠カラス時局ニ何等解決ヲ与フヘク期待セラルル「ナイアガラ」會議協定事項執行(遅クトモ七月中旬ノ見込)例ヘバ「ウエルタ」辭職新仮政府設立ヲ見タル後カ若クハ該會議完了ノ後ヲ以テ出雲任務終了期トシテ帰途ニ就カシムルハ最適當ノ措置ナルヘント存セラルルニ付右様御取計相成度然ルニ当方面ニ帝國軍艦派遣ハ各種ノ關係ニ於テ有形無形ニ多大ノ効果ヲ及ホセルコト出雲來航以來今日迄ノ実績ニ照ラシ明白ナル次第ニシテ「ナイアガラ」會議カ万一不成功ニ終ル場合ハ勿論幸ニ成功シテ官革双方融和スルニ至ルコトアリトモ一般秩序回復ヲ見ル迄ハ尚渺クトモ尠年ヲ要スルコトト認メサルヲ得サルニ付此期間引続キ我軍艦当方面ニ在ルコトハ出雲カ折角築キ上ケタル各種ノ基礎ヲ維持シ其成果ヲ収ムルニ於テ絶對ニ必要ニシテ昨冬出雲ヲ派遣セラレタル御趣意ニモ叶フモノナリト信セラルルノミナラズ当國特別ナル事情ニ鑑ミ常ニ當

方面ニ於ケル帝國ノ威信ヲ保チ且歐洲諸國ノ行動ヨリ孤立セス以テ帝国外交上ノ立場ヲ明ニスルガ為ニモ極メテ必要ナリト存セラルルニ付出雲引揚後可成速カニ來著スル様交代艦派遣方御取計相成タシ以上ニ付テハ五月三十一日「コリマ」ニ於テ特ニ森山艦長ト会商シ同艦長ニ於テモ全然同意見ナリ

六一五 六月十八日 加藤外務大臣ヨリ
在墨国安達公使宛(電報)

軍艦出雲今暫ク滯墨ノコトニ海軍省トモ協議決定ノ件

第六五号

貴電第一八二号ニ関シ「ナイアガラ」會議ノ結果モ未タ判明セサル今日出雲ヲ引上クルコトハ其ノ時期ニ非サルニ付同艦ハ今暫ク引続キ滯墨ノコトニ海軍省トモ協議内定シタル処ハ決定ノ次第ハ政府ノ都合ニヨリ迫テ申進ズル迄極秘ノコトト御承知アリタシ尚同艦引上ニ際シ交替艦派遣ノ儀ハ詮議シ難シ委細公信貴館ヨリノ電文頗ル冗長ナルノ嫌アリ成ルヘク簡明ニ認メラルルヤウ充分注意アリタシ

六一六 六月二十日 在墨西哥安達公使ヨリ
加藤外務大臣宛(電報)

墨西哥新大統領トシテ現大審院長推挙ノ提案
及墨西哥内動乱ノ混沌タル状勢ニ付報告ノ件

第一八六号

「ナイアガラ」會議ハ在米大使往電第一八三号第一節ノ通行悩ミ居ルニ付委員等ハ極内密ニ米墨双方ノ主張ニ適フヘキ人物ヲ物色シ故 Madero ノ親友タル現大審院長 Carbajal ニ交渉中ニシテ同氏ノ人物米墨双方ヲ満足セシムル場合ニハ同氏ハ一旦「ウエルタ」政府ノ外務大臣トナリ「ウエルタ」辭職ト同時ニ当國憲法ノ規定ニ遵拠シ当然現大統領トナルヘキ筈ノ処斯クテハ「ウエルタ」政府ノ承認ヲ意味スルハ故ニ米國政府ハ絶対的ニ反対シツツアリ当局者ハ最早ヤ匙ヲ投スル外ナシトテ伯刺西爾國代理公使ヨリ本使ノ私見ヲ求メタルニ付本協約ノ規定ハ平和恢復ノ便法ニ過キスシテ「ウエルタ」政府ノ承認ヲ意味セストノ一箇条ヲ特設セハ可ナルヘシト述ヘタルニ同公使ハ大ニ賛成直ニ在「ナイアガラ」伯刺西爾大使ニ同公使ノ意見トシテ電報スヘシト云ヘリ右ハ同僚ノ間ニ答ヘタルモノナレハ貴電第四七号

ト仮政府ハ内乱ノ際政治犯ヲ犯シタル外国人ヲ總テ赦免スルコト並ニ仮政府ハ内乱中軍事行動ノ結果外国人ニ与ヘタル損害ノ要求ヲ処理セシムルタメ委員會ヲ組織スヘキコトヲ定メ第三条ハ調停三國政府ニ於テモ仮政府ヲ承認スヘキ旨ヲ規定シタリ

第二、墨西哥内政ニ関シテハ「ウエルタ」「カランサ」双方ノ代表者間ニテ商議セシムルコトトシ調停者ハ「カランサ」ニ向ヒ右ノ目的ノ為メニ委員ヲ出スヘキ様勧告シタリ第三、二千二百人ノ損害ヲ出シタルモ「ヴェキラ」ノ軍ハ六月二十三日「ザカラカス」ヲ占領シタリト云フ

墨西哥

六一八 六月二十六日 在墨西哥安達公使ヨリ
加藤外務大臣宛(電報)

「ナイアガラ」會議ニ於テ六月二十四日仮調
印ノ議定書ヲ米國政府承認セルモ墨西哥政府ハ

尚墨西哥委員ト交渉中ナル件

第一八八号

在米大使宛外務大臣宛往電第一九二号第一「プロトコル」ハ六月二十四日 ad referendum ニテ署名捺印セラレ米國

一九「メキシコ」革命動乱關係一件 六一八 六一九

ノ御趣意ニ反セサルモノト信ス目下当國官軍ノ勢力範圍ハ當國全面積ノ約三分ノ一ニ出テサルニ至リ各地官兵ノ謀反スルモノ多ク又革命軍ハ一致ヲ欠キ其ノ他ノ叛徒各地ニ蜂起シ形勢混沌タリ

註 在米珍田大使宛外務大臣宛電報第一八三号省略セルガ其ノ第一節ハ「ナイアガラ」會議ニ於テ墨西哥新大統領ノ人選ニ関シ米墨委員ノ主張対立シ居ル旨ヲ報告セルモノナリ

六一七 六月二十五日 在米國珍田大使ヨリ
加藤外務大臣宛(電報)

「ナイアガラ」會議ニ於テ米墨國間爭議處理
ニ関スル三個条ノ議定書發表及「ヴィヤ」軍
ノ「ザカテカス」占領ノ件

第一九二号

第一、「ナイアガラ」會議ハ米國ト「ウエルタ」間ノ國際爭議ヲ處理スル所ノ三ヶ条ノ議定書ヲ六月二十四日發表セリ第一条ハ墨西哥内乱ノ各派ヲ代表スル委員ヲシテ仮政府ヲ組織セシムル事ヲ定メ第二条ハ墨都ニ仮政府成立ノ上ハ米國政府ハ直チニ是レヲ承認シテ國交ヲ恢復スルコト米國政府ハ軍費賠償金又ハ其他何等ノ國際的要求ヲ提出セサルコ

政府ハ已ニ之ヲ承認シタルモ墨西哥政府ハ several parties ノ意味不明ナルト「ヴェラクルス」撤退ノ明記シアラサルトニ依リ未タ承諾ヲ与ヘス墨西哥委員ト交渉中ナル由外務大臣代理ノ内話アリ尚此ノ二点明白トナリ「ウエルタ」ノ承認ヲ得タル上ハ米國ニ於テ故意ニ「ウエルタ」反對派代表者ヲ使喚セサル限り仮政府組織ハ困難ナク行ハルベシトハ墨西哥國政府側ノ予測ナレトモ本使並ニ同僚ハ勝誇リタル叛徒代表者ト「ウエルタ」代表者トノ協定ハ甚覺束ナシト觀測ス大統領選舉ハ予定ノ通七月五日行ハンガ為準備中ナリ(六月二十六日午後十時)

六一九 七月一日 在米國珍田大使ヨリ
加藤外務大臣宛(電報)

米墨紛争調停ノ「ナイアガラ」會議無期休會
ヲ決定ノ件

第二〇七号

六月三十日三國調停者ハ「ナイアガラ」會議ヲ無期休會スルコトニ決定シ兩三日中ニ同地ヲ退散スル筈「カランサ」ハ「ウエルタ」代表者ト墨西哥内政ノ件ヲ会商セシムル為其委員ヲ派遣スル前部下將校ト協議スル必要アリテ尚時日ヲ

要スル旨通報シ来リタルニ付三国調停者ハ右ノ決定ヲナスニ至レリト云フ米國政府ハ双方ノ代表者ヲ会合セシメ仮政府ヲ組織セシメント引続キ尽力中ノ由ナルモ未タ何等確定ニ至ラス

安達済ミ

六二〇 七月二日 在墨国安達公使ヨリ
加藤外務大臣宛(電報)

米墨委員七月一日「ナイアガラ」議定書二正

式調印、米軍「ヴェラクルス」撤兵ノ了解等

ニ関スル件

第一九〇号

往電第一八九号ニ関シ本使病氣引籠中ニ付田辺書記官七月二日外務大臣代理ヲ往訪内々聴取レル要領左ノ如シ
米墨兩國全權委員ハ各本國政府ノ承認ヲ得テ七月一日「プロトコール」ヲ確定的ニ署名調印シタリ Several partiesノ件ハ目下北方叛徒分裂ノ徴アルニ付的確ノ文字ヲ用キサル方可然トノ意見ニテ其儘トスルコトニ決シ又「ヴェラクルス」ニ関シテハ初メ米國政府ハ新仮政府ト協議スル迄該地占領継続ノ一項ヲ「プロトコール」ニ加ヘントノ提議ニ

条約ノ形式ヲ備ヘサルヲ以テ上院ノ承認ヲ要セス兩國ノ紛争ヲ解決セル外交上ノactニ過キスト説明セリ尚右protocol内容ハ珍田電報一九二号ト同様ナリ

六二二 七月十五日 在墨国安達公使ヨリ
加藤外務大臣宛(電報)

墨国仮大統領「ウエルタ」辞表提出ノ件

第一九四号

今日正午確聞セル所ニ依レハ今十五日午後四時「ウエルタ」議會ニ辞表ヲ提出シ午後六時同議會ニ於テ新仮大統領トシテ外務大臣 Carbajal^(電)ノ宣誓式ヲ行フ筈ナリト云フ尚昨十四日深更「ウエルタ」ノ家族ハ既ニ特別列車ヲ以テ首府ヲ遁レタリ(十五日午後一時半)

註 「ウエルタ」ハ七月十日 Carbajalヲ外務大臣ニ任命セリ尚前出六月二十日安達公使發第一八五号電報参照

六二三 七月十五日 在墨国安達公使ヨリ
加藤外務大臣宛(電報)

墨国仮大統領「ウエルタ」ノ辞職ハ下院ノ承認ヲ受ケ「カルバハル」仮大統領ニ就任ノ件

第一九五号

對シ墨國委員反對シ撤回セシメタリ云々然ラバ「ヴェラクルス」ハ結局撤兵セラルルヤ否ヤトノ質問ニ對シ同大臣代理ハ既ニ米國政府ニ於テ占領継続ノ要求ヲ撤回シタル上ハ自然ノ結果トシテ該地ヨリ撤兵セサルヲ得サル訳ニ非ラスヤト答ヘ又伯國公使ハ三国調停者ハ墨國政府ニ對シ米國ガ「ヴェラクルス」ヨリ撤兵スルコトヲ保証セリト云ヘリ尚七月五日ノ選挙ハ結局上下両院議員ノ改選ニ止マリ正副大統領ノ選挙ハ仮令行ハルルモ前回ノ如ク無効ニ版スルナラント察セラル今日ニ至ル迄候補者ト名乗出テタル者殆ント皆無ナリ

六二一 七月九日 在墨国安達公使ヨリ
加藤外務大臣宛(電報)

墨国外務大臣仲理ヨリ米墨紛争ノ顛末及「ナイアガラ」議定書作製ノ顛末ヲ上下両院ニ報告ノ件

告ノ件

第一九二号

墨国外務大臣代理ハ七月八日午后墨國上下両院ニ於テ今次米墨紛争ノ顛末ヨリ「ナイアガラ」會議ノ protocol 作製ニ至ル長文ノ交渉顛末報告書ヲ朗読セシカ該 protocolハ

拙電第一九四号ニ関シ「ウエルタ」ノ辞表ハ本日午後四時半墨國下院ニ提出セラレシヲ以テ委員會ニ附議シ更ニ本會議ニ於テ討論ノ結果午後六時半大多數ヲ以テ承認セラレタリ次テ午後七時外務大臣「カルバハル」仮大統領トシテ下院ニ於テ宣誓ヲナセリ該辞表中ニ在ル「ウエルタ」ノ辞職理由ハ其ノ自利ヲ謀リテ國家ヲ思ハズトノ世評ヲ此ノ際實行ヲ以テ打破スルノ必要ニ迫ラレタリト云フニ在リ(十五日午後九時半)

六二四 七月十六日 在米國珍田大使ヨリ
加藤外務大臣宛(電報)

米國ハ墨國「カルバハル」仮政府ヲ承認シ得ザル旨國務長官談話ノ件

第二一六号

七月十六日面會ノ節國務長官ニ向ヒ「ウエルタ」辞職シCarbajal之レニ代リタルニ付テハ米國政府ハ「ナイアガラ」議定書ノ規定ニ遵拠シ「カルバハル」仮政府ヲ承認セラルル意嚮ナリヤト問ヒタルニ同官ハ之ニ答ヘテ議定書ノ規定ニ依レハ仮大統領ハ官革双方ノ同意ヲ得タルモノナラサルヘカラス「カルバハル」ハ憲政軍ノ同意ヲ得サル人物ナ

ルヲ以テ米國政府ハ其仮政府ヲ承認スル能ハス尤右仮政府ニ付テハ過渡的中間ノ政府ト看做シ得ヘク其内ニ双方党派ノ同意スル所ノ大統領ヲ得ルニ至ルナラント述ヘタリ

六二五 七月十六日 在墨国安達公使ヨリ
加藤外務大臣宛(電報)

新仮大統領「カルバハル」外交団接見ノ際ノ
祝辞等二関スル件

第一九六号

七月十七日新仮大統領外交団接見ノ旨案内アリタルニ付当日ノ服裝及祝辞ニ関シ本日外交団會議アリ本使病氣ニ付田辺三浦兩書記官ヲシテ代リ参会セシメ大禮服用ハ適當ナルモ其場合ニ於テハ其新政府承認ノ意味ヲ有セサルコトヲ表明スル為メ其意味ノ一節ヲ祝辞中ニ加フルコトヲ提議セシメタルモ祝辞中毫モ新政府承認ノ意味ヲ含ミ居ラサルニ付右ノ一節ヲ加フルノ必要ナシトノコトニテ採用セラレス結局明日ノ接見ニハ外交団一同大禮服ニテ出席ノコトニ決定セリ仍テ本使モ健康ノ許スニ於テハ大禮服ニテ館員一同帶同シテ出席ノ答ナリ

「ウエルタ」辭職前外務大臣ヲ除キ内閣員一同辭職シ軍務

シ協議ヲ開始セシムル答(一)現政府ト Zapata トノ間モ個人ノ資格ヲ以テ調停ヲ為スモノ生シ来レリ(七月二十五日)

六二八 八月四日 在墨国安達公使ヨリ
加藤外務大臣宛(電報)

軍艦出雲ノ引揚内定通報ノ件

第七〇号

軍艦出雲ハ時局ノ必要上引上ケヲ命ズルコトニ決定セリ右貴官御含マデ電報ス委細ハ海軍大臣ヨリ出雲艦長ヘ直接電訓ノ答

六二九 八月七日 在墨国安達公使ヨリ
加藤外務大臣宛(電報)

墨国「カルバハル」ノ仮政府及「カランサ」

ノ代表者間ノ交渉決裂ノ件

第二〇五号

拙電第二〇四号ニ関シ Saltillo ニ於ケル交渉ハ不調ニ了リ政府委員ハ既ニ該地ヲ発シ帰途ニ就ケリ要スルニ「カランサ」ハ休戦ト「ウエルタ」党ノ生命財産ノ保障ヲ承諾セス政府軍ノ無条件降伏ヲ要求セルヨリ政府側軍人ハ座シテ死ヲ待タンヨリ進ンテ戦フニ如カスト主張シ大統領ハ策ノ出

大臣ニ Velasco 將軍ヲ任命シタル外新内閣員未タ任命セラレス「ウエルタ」ハ昨夜密カニ「ブエルト、メキシコ」ニ向ケ出發セリ

六二六 七月十七日 在墨国安達公使ヨリ
加藤外務大臣宛(電報)

墨国仮大統領外交団接見ノ件

第一九七号

本日正午仮大統領外交団ヲ接見セリ服裝及祝辞ハ拙電第一九六号ノ通りナリ本使尚ホ外出ヲ許サレス館員一同ノミ出席(十七日)

六二七 七月二十五日 在墨国安達公使ヨリ
加藤外務大臣宛(電報)

新仮大統領「カルバハル」ノ仮政府ハ時局收

拾ニ付「カランサ」派及「サバタ」派ト協議

ノ意向ノ件

第二〇一号

往電第二〇〇号ニ関シ(一)墨國政府ハ今明日中代表者ヲ任命シ直ニ「カランサ」所在地多分墨国 Saltillo ニ派遣シテ先ツ官革兩軍ノ休戦「ウエルタ」党ノ生命財産保障ヲ基礎ト

ツル所ヲ知ラス明日是レ迄執リタル措置及ヒ Saltillo 談判ノ顛末ヲ人民ニ公表スル答ナリ(七日午後)

六三〇 八月十二日 在墨国安達公使ヨリ
加藤外務大臣宛(電報)

墨国革命軍ニ依ル我在「マンサニヨ」名譽領

事逮捕ノ件

別電

同日安達公使宛加藤外務大臣宛電報第二二一号在「マンサニヨ」日本國名譽領事ノ保護方ニ関シ珍田大使ニ依頼ノ件

第二一〇号

在「マンサニヨ」名譽領事革軍ノ為政事上ノ犯罪人トシテ「コリマ」ヨリ「グアダハラ」ニ護送セラレタルニ付本使ノ保護ヲ仰ク旨同人留守宅ヨリノ電報「グアダハラ」英國領事ヲ經テ在米英國大使館ニ達シタルニ付八月十一日在米大使ヨリ第一四一号ヲ以テ本使ニ転電セラレタリ同日更ニ第一四六号ヲ以テ八月十一日國務長官ニ面会ノ節本件ニ付申入ルル所アリタルニ長官ハ早速在墨國米國「エゼント」ニ對シ出来得ルナラバ釈放方取計フベキ旨訓令シタル趣來電アリタルニ由リ別電ノ通り在米大使ニ電報シタリ

(別電)

八月十二日在墨国安達公使發加藤外務大臣宛電報
在「マンサニヨ」日本国名誉領事ノ保護方ニ関シ

珍田大使ニ依頼ノ件

第二二一号 (別電)

貴電ノ趣敬承御取計深謝在「マンサニヨ」名誉領事「ブラ
ス、ルイス」ハ平生「コリマ」ニ居住シ革將「アラシヨ」
曾テ「コリマ」州知事タリシ時同知事ノ放逐ヲ計リタルヲ
以テ其怨ミヲ買ヒ過般「アラシヨ」軍同地ニ迫ルヲ怖レ偶
々本使「マンサニヨ」ノ帰途同行当地ニ避難ノ筈ノ所途中
ニテ「サユラ」ニ止マリ其後ニ至リ特ニ出雲派遣隊ニ護衛
セラレテ「コリマ」ニ歸リタル後消息ナカリシ処遂ニ革軍
ノ為メニ捕縛セラレタル次第ナリ既ニ政争ニ関係シタル以
上其政敵ヨリ迫害ヲ受クルハ自ラ招キタル禍ナランモ同人
カ帝国名誉領事タルト且今日迄帝國ノ為少ナカラス尽力シ
タルニ付目下叙職申請中ナルトニ鑑ミ適切ナル保護ヲ与ヘ
タキニ付此上ニモ同人放免ノ目的ヲ達スル様可然御配慮相
成タシ特ニ懇願ス

註 右別電ハ安達公使發珍田大使宛電報ノ転電ナリ

政府憲政兩軍ノ交代方法ニ関シ協議ノ為十二日夜 Teo-
loyucan ニ向ケ出発セリ

四、「カランサ」ハ一両日中ニ supreme chief of consti-
tutionalist army トシテ入市シ「オブレゴン」ハ都市ノ
守備隊司令官トナル筈「ヴィヤ」モ「カランサ」ニ次デ
入市ノ筈ニテ右兩人間ニ確執アリトノ風説ハ無根ナルカ
如シ(十三日午後)

六三二 八月十六日 在桑港沼野總領事代理ヨリ
加藤外務大臣宛(電報)

墨国ニ派遣ノ軍艦出雲帰国途上ノ件

第二二九号

出雲ハ十日「マンサニヨ」ニテ安洋丸ヨリ需品搭載直チニ
北上十五日午後六時「サンデイゴ」著十六日載炭ノ由同艦
長ヨリ来電アリ
大使済ミ

六三三 八月二十三日 在墨国安達公使ヨリ
加藤外務大臣宛(電報)

「カランサ」墨都ニ入京、其外交関係ノ措置
振、「マンサニヨ」日本国名誉領事ニ対スル

一九 「メキシコ」革命動乱関係一件 六三二 六三三

六三一 八月十三日 在墨国安達公使ヨリ
加藤外務大臣宛(電報)

各国公使館ニ憲兵配置、「カルバハル」飯大
統領首府退去、「カランサ」入京ノ形勢等報
告ノ件

第二二二号

往電第二〇九号ニ関シ

一、外交団委員ハ「カランサ」及「オブレゴン」ト Teo-
loyucan ニテ会見ノ結果各公使館ニ五十名宛ノ neutral
gendarmes ヲ配付セシムルコトナレリ
二、伯刺西爾公使ハ单独「カランサ」ニ対シ米国ノ新仮政
府承認ヲ容易ナラシムル為「カランサ」「カルバハル」
間政權授受ノ協定ヲナサンコトヲ勧告シタルモ「カラン
サ」承諾セス依テ「カルバハル」ハ人民ニ宣言書ヲ残シ
十三日未明陸相以外ノ内閣員ト共ニ「ヴェラクルス」ニ
向ケ当市ヲ去レリ「カランサ」ノ入市迄ハ聯邦区知事
Iturbide 都市ノ安寧ヲ維持スルコトナレルカ人心安カ
ラス

三、軍務次官 Salar 及前記 Iturbide ハ「オブレゴン」ト

国外退去命令等報告ノ件

第二二五号

(一)「カランサ」ハ八月二十日入市シ八月二十一日 Supreme
chief constitutional army ノ名義ヲ以テ憲政軍ヨリ各
州知事及文武官ニ対シ同日墨西哥国 executive power ヲ
執リタル旨通知シタリ

(二)在外墨西哥国公使領事ハ八月二十一日總テ罷免セラレタ
ルカ外国政府ヨリ承認ヲ受クル迄ハ公使ヲ派遣セサル旨
外務大臣代理新聞記者ニ公言セリ又当地外交団ニ対シテ
ハ今日迄未タ何等通知ナク全然外交団ヲ認メサルカ如ク
見ユルノミナラス英国公使ハ「カランサ」ヨリ退去ヲ要
求セラレ応セサルニ於テハ警察力ヲ用ユヘシト威嚇セラ
レ今夜俄カニ出発スルコトナリ追テ他ノ公使ニ対シテ
モ「ウェルタ」ト親密ナル関係ヲ有シタリトノ理由ヲ以
テ同様ノ措置ヲ執ルナラントハ伯刺西爾公使極秘ノ内話
ニシテ他ニモ同様ノ噂ヲ耳ニシタリ

(三)拙電第二一〇号ニ関シ Blas Ruiz ハ友人ノ斡旋ニヨリ
十一日以内ニ国外ニ退去スヘシトノ条件ニテ八月十三日
放免セラレ八月二十二日当地ニ来着本使ノ斡旋ヲ求メタ

ルモ本使ハ其ノ到底行ハレサルヲ論シタレハ八月二十三日「ヴェラクルス」ヨリ「キューパ」ニ向ケ出発セリ

六三四 九月二十六日

在墨国安達公使ヨリ
加藤外務大臣宛(電報)

「ヴィヤ」軍、「サパタ」党等ノ「カランサ」

政府ニ対スル反対ニ依リ墨国政情混沌ノ状態

報告ノ件

第二二二号

九月二十四日外交団ハ非公式ニ「カランサ」ト会见セリ其内話ニ依レハ大統領選挙並ニ諸般ノ重要問題ヲ議スヘキ十月一日ノ大会ニハ「ヴィヤ」出席ナキハ明カニシテ代表者出席サヘモ不明ナリ「ヴィヤ」ハ近頃憲政軍政府ノ成立ニ飽迄妨害ヲ加ヘ叛意明白ナレハ勢戦端ヲ啓クニ至ルヘシト反対派ノ將校続々拘引セラレ形勢急ヲ告ク又「サパタ」党トノ交渉モ不調ニ終レル由ナレハ右大会ニ於テ各派一致ヲ見ル能ハサルヘク從テ米国政府ノ承認時期モ遠カラン目下当国政府ハ財政困難外債募集ノ必要ニ迫リタルニ付諸外国ノ承認ヲ得ントシ此際帝国政府ニ於テ承認セラレ度旨外務大臣代理ヨリ懇請アリタルモ体能ク之ヲ謝絶シタリ

特命全權公使法学博士 安達峯一郎(印)

外務大臣男爵 加藤 高明殿

本年七月末ヨリ本使病氣ノ為メ新政府樹立後モ自ラ当局ト折衝ノ任ニ当リ難キヲ以テ三浦書記官ヲシテ外務大臣代理「フアベラ」氏トノ交渉ニ当ラシメ来リ候処去ル十四日ノ会见ニ於テ米国政府ノ承認ハ種々面白カラメ内情有之目下ノ処急ニ望ムベカラサレバ此際帝国政府ニ於テ率先新政府ヲ承認セラルルニ於テハ墨国政府ハ勿論墨国々民ノ帝国ニ對スル同情ハ益々厚ク其好意ハ深ク肝ニ銘シテ忘却セサルヘケレバ右之趣本使ヨリ帝国政府ニ電報致シ度旨同大臣代理ヨリ申出候趣ニ付去ル二十一日病ヲ押シテ外務省ニ出頭大臣代理ニ面会ノ上「過日三浦書記官ニ内話セラレタル帝国政府ニ於テ墨国新政府承認ノ件ニ付テハ本使ハ墨国真正ノ友人トシテ真率ニ胸襟ヲ披瀝センニ貴官ノ提案ノ如ク仮リニ帝国政府ニ於テ米国ニ先ンシテ憲政軍政府ヲ承認シタリト想像センカ徒ニ米国ノ感情ヲ傷ケ日墨密議陰謀シテ米国ニ反抗センガ為メニ此舉ニ出テタリト思惟シ全力ヲ尽シテ憲政軍政府ノ發展ヲ阻害スルニ至ルヘキコトハ從來ノ經驗ニ徴シテ明瞭ナレバ貴案ハ憲政軍政府自身ノ為メニ

一九 「メキシコ」革命動乱関係一件 六三七

六三五 九月二十六日

在墨国安達公使ヨリ
加藤外務大臣宛(電報)

墨国ニ於テ「カランサ」「ヴィヤ」間ノ交渉

不調ニ終リ戦闘避ケ難キ状態ノ件

第二二二号

「カランサ」ハ「ヴィヤ」トノ交渉頗末ヲ発表セリ文中「ヴィヤ」ハ種々ノ難題ヲ出シテ協定ヲ拒ミ盛ニ武器糧食ヲ用意セシコト並ニ最後ノ回答ニ於テ「カランサ」ノ權力ヲ認メス自由行動ヲ執ルヘシトノコトヲ指摘シ罪ヲ彼ニ歸シ其不調ニ終ハレルヲ説ケリ要スルニ「ヴィヤ」ハ「カランサ」ノ大統領トナルコトニ不服ニシテ鉄道ノ聯絡モ既ニ絶エ愈々戦闘避ケ難シ

六三六 九月三十日

在墨国安達公使ヨリ
加藤外務大臣宛

墨国新政府外務大臣代理ヨリ日本政府ニ依リ

新政府ノ率先承認ヲ要請ノ件

機密第二六号

(十一月九日接受)

大正三年九月三十日

在墨

計ルニ不得策ニシテ米国政府ト憲政軍トノ關係ニ照シ大勢上到底行ハレス日墨米間機微ナル局面ニ処シテ日墨兩國間ノ発達ヲ計ラントセバ一層思慮深ク且穩健巧妙ナル方策ニ依ラサルベカラスト述ヘ去ル二十五日拙電第二二二号ヲ以テ申進候通り体ヨク右承認ノ義ヲ謝絶致候処同大臣代理ニ於テモ充分明白ニ了解セリト答ヘ暫時思考ノ後「米国政府ニ於テ墨国政府ヲ承認スルニ於テハ帝国政府モ亦タ之ヲ承認スヘキ旨ヲ帝国政府ヨリ米国政府ニ通告セラルル時ハ一方ニ於テハ墨国新政府ノ承認上多大ノ便益ヲ与ヘラルルト同時ニ他方ニアリテハ畜ニ米国政府ノ感情ヲ害セサルノミカ帝国ノ墨国ニ對スル態度ヲ明カニセラルルヲ以テ米国ニ於テモ大ニ満足スヘシト申述候ニ付「夫ハ甚タ興味アル問題ナリ」ト答ヘ置申候御参考迄此段申進候 敬具

六三七

十月十六日 在墨国安達公使ヨリ
加藤外務大臣宛(電報)

墨国ノ時局收拾ノ為墨国武将会議開催ニ関ス

ル件

第二二六号

本週ヨリ Aguascalientes ニテ開会セル墨国武将会議ハ会

議ノ効力ヲ確実ニセントメ開會劈頭ニ於テ其ノ決議ハ絶対的ニシテ何人モ之レニ服従スヘキ旨ヲ決議宣誓セリ尚 Zapata-Hazoom ノ来著ヲ待テ来ル二十日ヨリ會議ヲ繼續スル管其ノ結果ハ予斷シ難キモ北部ニ出張シ強テ「ヴィヤ」派ト協商スル所ヨリ「カランサ」退隱シ平和ニ局ヲ結フナラントノ説高シ

伊藤書記生帰朝ノ義ハ該會議ノ結果ニヨリテ決シタシ

六三八 十一月三日

在墨国安達公使ヨリ
加藤外務大臣宛(電報)

墨国武將會議ハ「グチエルレス」將軍ヲ仮大
統領ニ選ビタル件

第二二九号

Aguascalientes 會議、General Gutierrez ヲ仮大統領ニ選ビ本月六日政權ノ授受ヲナスヘント決議セリ「カランサ」之ヲ承諾スルヤ否ヤ不明ナルモ伊藤書記生ノ帰朝ハ至急ヲ要スル義ト思惟セラルルニヨリ異議ナシ

六三九 十一月七日

在墨国安達公使ヨリ
加藤外務大臣宛(電報)

求セル保障及担保ヲ与ヘタルヲ以テ十一月二十三日ヲ期シ「ヴェラクルース」守備兵ヲ撤退スヘシ米國政府ガ生命ノ安全ニ関シテ責任ヲ取リタル同市在留者ハ已ニ悉ク同市ヲ去リ又同市ニ避難シ居リテ尚不安ヲ感シタル僧侶及尼等ハ目下米國ニ向ヒ同市ヲ立退キツツアリ
安達済ミ

六四一 十一月二十日

在墨国安達公使ヨリ
加藤外務大臣宛(電報)

墨国ニ於ケル「カランサ」「ヴィヤ」間ノ紛
争調停絶望ノ件

第二三四号

「カランサ」「ヴィヤ」紛争ニ関シ過日来諸將軍調停ヲ試ミシモ其効ナク今ヤ「カルデロン」ノ調停ニ最終ノ望ヲ囑スルモ是亦殆ント絶望ト認メラレ双方トモ兵備ヲ整ヘ軍隊輸送中ニテ汽車ハ全ク不通トナレリ多分兩三日中ニ公然破裂スヘキ形勢ナリ

註

「カルデロン」(Ferdinando Iglesias Calderon)ニ就キ十月二十日附安達公使ノ政公第一五三号報告中ニ左ノ記載アリ

「イグレスシアス、カルデロン」ハ墨国自由党ノ組織者ニ

一九 「メキシコ」革命動乱関係一件 六四一 六四二

武將會議ノ墨国新仮大統領選任ニ「カランサ」
異議ノ件

第二三二号

新仮大統領ノ選任ニ関シ「カランサ」ハ「ヴィヤ」「サパタ」モ共ニ退職セサレハ政權ヲ渡サスト主張ス然ルニ武將會議ハ頗ル強硬ニテ昨日新仮大統領ハ就任ノ宣誓ヲナシ本月十日入京ノ旨ヲ発表セリ目下「カランサ」ハ首府ヲ去リ「ヴェラクルース」州ニ在ルモ政權ヲ渡ササレバ戦争カ又ハ同人ノ没落ヲ見ルニ至ルヘシ

六四〇 十一月十五日

在米國珍田大使ヨリ
加藤外務大臣宛(電報)

米國國務長官十一月二十三日「ヴェラクルース」
ヨリ撤兵スヘキ旨公表ノ件

第四二二号

米國政府ハ曩ニ「ヴェラクルース」占領軍ニ引揚ヲ命シタルモ同港稅関收入等ノ計算未済ナリト理由ニテ未タ実行ニ至ラサリシガ本件ニ関シ國務長官ハ十三日夜左ノ通公表シタル

「カランサ」將軍及 Agnascalientes 會議ハ米國政府ノ要

シテ今猶其首領タリ「マデロ」大統領時代上院議員トシテ令名アリ「ウェルタ」時代ニ至リ敵視セラレテ「ヴェラクルズ」ノ牢獄ニ投セラレシモ本年七月「カルバハル」時代ニ放免セラレ米國ニ亡命セシガ「カランサ」ノ入府後墨西哥市ニ帰来セリ其「マデロ」党及「ヴィーヤ」トノ關係親密ナルヲ知レルモノハ當時已ニ「カランサ」ハ同氏ヲ内閣ノ首班ニ列セシメ革命各派ノ調和ヲ計ルベシト噂シタルコトアリキ

六四二 十一月二十一日

在墨国安達公使ヨリ
加藤外務大臣宛(電報)

「カランサ」首府ヲ去リ外交団ハ居留民ノ保護ニ付テハ首府占領者ト交渉スルコトニ決定
ノ件

第二三五号

「カランサ」ハ去月末ヨリ Cordova ニ居リ先頃政府ノ一部ヲ同地ニ移セシカ昨二十日外交団ニ対シ軍略上ノ必要ヨリ一時首府ヲ撤去シ二十三日米國ノ「ヴェラクルース」撤退ヲ待ツテ直ニ政府ヲ同港ニ移スヘキニ由リ「コルドヴァ」ニ避難アリタキ旨ヲ申来レリ外交団ハ居留民ノ保護並ニ中立ノ關係上ヨリ其ノ好意ヲ受クル能ハサルニヨリ十分保護ノ道ヲ講セラレンコトヲ返電セリ之レニ対シ「カランサ」

ヨリ其ノ軍隊ノ首府ニ在ル間ハ努メテ保護ノ任ニ当ルヘシトノ回電アリシモ其ノ軍隊ハ昨今続々出発中ニテ敵軍侵入ノ場合ニハ市街戦ノ虞アリ其ノ保護ノ実ハ甚タ覺束ナシ居留民ノ保護ニ就テハ首府占領者ト一ニ交渉スルコトニ外交団會議ニテ決セリ但シ米國ヲ代表セル伯刺西爾公使ハ米國政府ニ米人ノ保護方ニツキ適當ナル手段ヲ講セラレンコトヲ電請セリ昨日ヨリ首府ニ於テ人馬ノ微発及掠奪盛シニ行ハレ市街軍馬ナク商店ハ閉鎖シ夜ニ入りテ砲声聞コエ蜚語百出物情騒然タリ

六四三 十一月二十四日

在墨国安達公使ヨリ
加藤外務大臣宛(電報)

「カランサ」ハ政府ヲ「コルドヴァ」ニ移シ

「ヴィヤ」軍及「サバタ」軍「メキシコ」市

ニ近接ノ件

第二三六号

「カランサ」ハ政府ヲ Cordova ニ移シ当地ノ諸官庁ハ郵便電信局ニ至ル迄總テ閉鎖セラル予テ「ヴィヤ」派ナリトノ噂アル「ブランコ」將軍ハ「カランサ」ノ股肱タル「オブレゴン」將軍ヲ縛シ自ラ起チテ衛戍總督ト為リ市内ノ秩序維持ニ當リツツアリ「ヴィヤ」ハ既ニ当地ヲ距ル二時間ノTula迄進軍シ来リ四五日中ニ入京スルヤノ噂アリ又「サバタ」モ当市附近ヲ占領シ尚戦鬪中

六四四 十一月二十四日

在墨国安達公使ヨリ
加藤外務大臣宛(電報)

「カランサ」ノ軍兵悉ク首府ヲ逃ケ去リ「サ

バタ」軍入府ノ件

第二三七号

今日「ブランコ」將軍ハ「サバタ」軍ニ敗レ出奔ス「カランサ」軍兵悉ク逃ケ去リ首府ハ「サバタ」ノ手ニ陥ル明日頃正式ニ入京アルヘシ「ヴィヤ」「サバタ」間ニ妥協成立シタル趣ナリ昨二十三日米兵ハ何人ニモ引渡シノ手續ヲナサス「ヴェラクルス」ヲ撤退セシモ墨國領海内ニ停マルヘキ訓令ナル由(二十四日夜)

六四五 十二月十五日

在ニューヨーク中村總領事ヨリ
加藤外務大臣宛(電報)

墨國「カランサ」將軍派ノ大倉組ヨリ武器購

入旋斡方願出ヲ拒絕ノ件

第二〇二号

墨西哥「カランサ」將軍派ノ「エゼント」ヨリ大倉組ヘ武器買入方申入タルモ本官ノ紹介状ナキ以上交渉ニ応シ難シトノコトナル趣ヲ以テ同「エゼント」ハ本官宛墨西哥國總領事ノ紹介状ヲ差出シ右照会方ヲ懇請アリタル処本官ノ地位カスル事柄ニ関与ヲ許サストノ事由ノ下ニ体好ク之ヲ拒絕シ置キタリ委細公信
在米大使在墨公使ニ郵送ス

六四六 十二月二十一日

在墨国安達公使ヨリ
加藤外務大臣宛

墨國ニ於テ「カランサ」派及會議派ノ両政府

対峙シ混沌タル紛糾ノ状態報告ノ件

公第一六七号

(大正四年二月十二日接受)

大正三年十二月二十一日

在墨國

特命全權公使法学博士 安達峰一郎(印)

外務大臣男爵 加藤 高明殿

「カランサ」派會議派兩政府対峙ノ現下ノ政況ニ関シ左記ノ通報差進候間御査閲相成度候
十二月三日會議派政府ノ仮大統領タル「グッチエレス」將

軍ハ「ヴィヤ」將軍ト共ニ入府セル以来熱心ニ諸政秩序ノ回復ヲ計リ数日ニシテ内閣各大臣及其他行政各部ノ吏員ヲ任命シ諸般ノ行政事務漸ク常態ニ復セルノ觀アリ但シ内閣ノ主腦タル外務及内務兩大臣ノ選任ハ久シク行惱ミ外務大臣ノ如キ今猶適任者ノ承諾ヲ得ズ僅カニ次官ヲ以テ外務省事務ヲ主宰セシメツツアルモ内務大臣ニハ嘗テ「サバタ」軍入府前同軍トノ妥協成ラズ急遽出奔セル「ルーシオ、ブランコ」將軍ニ交渉シ正式ニ會議派政府ヘノ降伏ヲ迫ルト共ニ内務大臣ノ椅子ヲ与フルノ約成リ来年正月同將軍ノ就任宣誓ヲ見ルベシト伝ヘラレ其時ニ至ラバ是迄全ク外交団ト没交渉ナル「グッチエレス」氏ノ政府ハ外交団ニ公式ノ通牒ヲ為シ茲ニ始メテ或關係ヲ開始スルノ順序ト為ルベシ更ニ一般内政諸問題ニ関シテハ予ネテ「アグワスカリエンテス」會議ノ選舉セル同會議置置委員會ヲ来一月一日ヨリ當府ニ召集スルノ計画已ニ発表セラレ目下同會議ニ討議スヘキ議案事項ニツキ政府部内ニ於テ講究中ナリト云フ探聞スル処ニヨレバ該常置委員會ニ於テハ先ヅ墨國憲法ノ改正案ヲ附議シテ現仮大統領「グッチエレス」將軍ノ任期ヲ延長シ同將軍ノ下ニ内治外交ノ面目ヲ改ムルト同時ニ北米合

衆國ヲ始メ諸外國ノ承認ヲ求メ斯クシテ新正式大統領ノ選舉ヲ召集シ永ク會議派ノ掌中ニ墨國政權ヲ握ルノ素地ヲ作ラントノ計画アルモノノ如シ要スルニ今ヤ會議派ハ共和国首府ヲ占領シテ同派ノ威容共ニ揚レルノ機運ニ乗ジ銳意其勢力ヲ内外ニ開拓セントスルモノニシテ其第一歩トシテ先ヅ中央政府タルノ基礎ヲ確立スルニ嚮心シツツアリト觀ルヲ得ベシ然ルニ翻テ會議派政府ニ對抗セル「カランサ」派ヲ觀ルニ同派ハ依然「ヴェラクルズ」州ヲ本拠トシ其主力ヲ「ヴェラクルズ」港ニ集メ「カランサ」將軍ハ猶同港ヲ以テ憲政軍政府ノ首府ト号シ隸屬セル諸文武官ヲ督シテ内外ノ政務ヲ掌理シ墨國大西洋岸諸港ト大西洋ノ墨國海軍トハ今猶同將軍ノ掌握ノ下ニアルノミナラズ内地各州ニアル「カランサ」派各武將トモ氣脈ヲ通ジテ積年ノ余威猶容易ニ會議派政府ニ屈スルモノニアラザルノ概ヲ示シツツアリ正ニ是レ會議派政府ノ一大敵國ニシテ同派ノ動靜如何ハ會議派政府將來ノ興廢ヲ決スルモノト云ハザルベカラザルモ十一月下旬以來當府「ヴェラクルズ」間大幹線鐵道ノ運輸全ク杜絶シ百般ノ物資ハ素ヨリ旅客ノ往來ナク電信交通モ同港ニ於ケル「カランサ」派政府ノ檢閲嚴重ニシテ同ジク

中止ノ姿ナルヲ以テ同派ノ動靜ニ関スル確報ヲ得ルコト困難ナルヲ遺憾トスサレド熟ラ兩派對峙ノ形勢ヲ觀ルニ大勢ハ漸ク「カランサ」派ニ非ニシテ會議派ニ利アルモノノ如シカノ「カランサ」派政府ノ外務大臣「インドロ、ファベラ」ガ十二月中旬二三ノ同僚ト共ニ「ヴェラクルズ」港ヲ去リテ歐洲ニ逃亡セルハ「カランサ」將軍トノ内訌ノ結果ナリト云フ如キ會議派政府ガ兎ニ角依然トシテ内部ノ一致ヲ保チツツアルニ比スレバ「カランサ」派政府ノ不統一ハ人ヲシテ今猶往日首府ニアリシ當時ト異ナルナキヲ想像セシムルニ足ルモノアリ殊ニ會議派政府ハ前記首府占領後直チニ全國ニ於ケル「カランサ」派掃蕩ノ進撃的作戰計画ニ出デ「サパタ」將軍ハ其手兵ヲ率キテ「ヴェラクルズ」ヘノ沿道ノ大都會タル「ポエブラ」市ニ占拠セル「カランサ」派ノ前衛攻撃ノ為メ出動シ「ヴィーヤ」將軍ハ墨國中央鐵道沿線ニアル「カランサ」派ヲ掃蕩シテ「ハリスコ」「コリマ」兩州「テピック」領等太平洋沿岸諸州ノ「カランサ」派根拠地攻撃軍ニ將トシテ進軍シ「アンヘレス」將軍亦北部「タンピコ」方面ヲ攻略シテ南下「ヴェラクルズ」ニ迫ルノ大軍ヲ率キテ出発スルアリ三方面共ニ着々トシテ歩武

ヲ進メ十二月十六日「ポエブラ」市先ヅ陥リ翌十七日「ハリスコ」州首府「グワダラハラ」市ハ「カランサ」派守將「ヂエゲス」撤兵シテ「テピック」方面ニ退却シタルヨリ市民歎呼ノ裡ニ「ヴィーヤ」將軍ノ凱旋的入市行ハレ北部「タンピコ」方面亦「タムピコ」港ヲ去ル數哩ノ地点迄進略シタリトノ報アリ更ニ最近ニハ「テピック」領首府「デピック」市亦會議派軍隊ノ有ニ歸セリトノ噂アリテ會議派政府ノ進撃の攻略ハ成功ニ近ケルコト疑フベクモアラズ加フルニ是迄兩派ノ形勢ヲ觀望シツツアリシ諸州モ漸次「カランサ」政府ニ背キテ會議派政府ノ承認ヲ通告シ來ルモノアリサレバ今日會議派政府ノ支配ニ屬スル地域ハ漸次擴大セラレ北ハ「ソノラ」「チワワ」「サンルイス、ポトシ」「ゾーランゴ」ヲ初メトシ南ハ「ポエブラ」「ハリスコ」「モレロス」「メキシコ」「イダルゴ」等諸州ノ大半ハ已ニ其掌中ニ収メタルモノノ如ク觀測セラル、兩派對峙ノ形勢此ノ如ク觀測セラルガ為メカ近頃「カランサ」派政府ノ「ヴェラクルズ」撤去スラ頻々トシテ伝ヘラレ或ハ「カランサ」ハ其政府ヲ「ユカタン」半島ニ移スベシトカ或ハ「タムピコ」ヨリ漸次旧知ノ故山タル「コワウイラ」州方

面ニ占拠スルニ至ルベシトカ盛ンニ道聽途説セラレツツアルモ其真偽ハ素ヨリ未ダ斷ジ難シ

今ヤ會議派政府ハ「ポエブラ」「グワダラハラ」ノ陥落ヲ以テ對「カランサ」派作戰ノ一小段落ト看做セルモノノ如ク「ヴィーヤ」「サパタ」兩將軍モ當府ニ歸來シ居リテ今後ハ當府ヨリ各方面ノ作戰ヲ指揮セント伝ヘラル、其今後能ク各方面ノ「カランサ」派ヲ掃蕩シテ「ヴェラクルズ」ニ於ケル「カランサ」政府ヲ破壊シ自立ノ由ナキニ至ラシムルニ至ルヤハ一ニ今後作戰ノ進行如何ニ係レルモノト云フベク之ヲ要スルニ墨國今日ノ政局ハ「カランサ」派會議派兩政府ノ對立ニヨリ混沌タル紛糾狀態ヲ脱セザルモノト觀ルノ外ナシ加之「ヴィーヤ」「サパタ」兩將軍内部ノ不和ニ関シテハ已ニ痛心スベキ數多ノ情報モ耳ニセリ當國ノ内訌亂レテ麻ノ如キ情形アルヲ遺憾トス

右及具報候 敬具